

(発注者用)

# 詳 細 設 計 照 査 要 領

平成10年4月

宮崎県土木部



## 《目 次》

詳細設計照査要領の概要	．．．．．	277
詳細設計照査フローチャート	．．．．．	280
樋門・樋管詳細設計	．．．．．	281
排水機場詳細設計	．．．．．	309
築堤護岸詳細設計	．．．．．	355
道路詳細設計（平面交差点、小構造物を含む）	．．	385
橋梁詳細設計（鋼橋、コンクリート橋）	．．．．	445
山岳トンネル詳細設計（換気検討を含む）	．．．．	477
共同溝詳細設計	．．．．．	501
仮設構造物詳細設計	．．．．．	527



## 詳細設計照査要領の概要

### 1. 本照査要領の目的

#### 1) 成果品の品質向上

社会資本整備を推進するうえで、建設コンサルタント業務の成果は、最も基礎的で重要な要素であり、その精粗が事業の完成に重大な影響を与えることになる。

成果品の品質向上を図り、正確性を確保するために、本照査要領を活用することにより設計の主要事項を系統的に把握できるとともに、迅速な照査が可能となる。

#### 2) 担当技術者の資質向上

業務量の増加、業務内容の複雑化・多様化が進む一方で、担当技術者の不足、相対的な資質の低下が懸念されており、本照査要領を活用することを通して、照査（受注者）や業務進捗状況把握（発注者）のポイント修得が可能であり、技術者の資質の向上に寄与する。

#### 3) 基本事項の統一による照査の効率化

本照査要領は全国統一版であり、建設省も本要領に基づいた照査を受注者に義務づけているため、基本事項の統一により照査の効率化を図ることが可能である。

### 2. 本照査要領の特徴

#### 1) 設計の自由度の尊重

設計の自由度を尊重するため、設計マニュアル（基準）的なものでなく、設計の基本に関する事項を体系的に記載し、各事項に対応する照査の完了を一目で把握できるものとしている。従って、照査手段、諸基準等との関連をはじめとする具体の照査内容については受注者の判断によるものとなる。

#### 2) 段階的照査の実施による業務推進の円滑化

業務の主要な段階毎に、照査状況を発注者に報告することを手続きとして標準化しており、これにより、設計条件等発注者からの与条件の取り違い等が発見しやすくなり、条件設定ミス等による業務の手戻り発生を防止することができる。

#### 3) 設計調書の作成

基本事項の照査の結果を一覧表形式にとりまとめた「設計調書」の作成を行うことにより、発注者は設計成果の概要が容易に把握できるとともに、受注者にとってもデータベース構築等を行うことによりマクロ的チェックも可能となる。

### 3. 対象とする工種

本要領で取り扱う対象工種は、以下に示す8工種であり、いずれも詳細設計を対象としている。

- 河川 ①樋門・樋管詳細設計  
②排水機場詳細設計  
③築堤護岸詳細設計

- 道路 ④道路詳細設計（平面交差点、小構造物を含む）
- ⑤橋梁詳細設計（鋼橋・コンクリート橋）
- ⑥山岳トンネル詳細設計（換気検討を含む）
- ⑦共同溝詳細設計
- 共通 ③仮設構造物詳細設計

#### 4. 内容の構成

本要領の構成は、対象とする全ての工種について以下に示す内容で構成されている。

- ①詳細設計照査フローチャート（発注者、受注者双方が利用）
- ②発注前確認項目一覧表（発注者が作成し独自に保管）
- ③照査項目一覧表（受注者が作成し発注者に提出） 3段階  
（仮設構造物は2段階）の照査・報告を規定
- ④設計調書（受注者が作成し発注者に提出）

##### 1) 詳細設計照査フローチャート

詳細設計委託業務の起案から完了までの流れを、照査の観点から整理したものであり、受注者が実施する照査の主要な区切りと発注者・受注者双方の照査との関連を明示したものである。各工種とも基本的には同一の流れとなるため、基本フローをP280に掲載した。

##### 2) 発注前確認項目一覧表

特記仕様書に明示すべき事項、打ち合わせで指示すべき事項を中心とし、設計条件となるような基本的事項を一覧表にしたものであり、発注者が設計業務発注前の段階で作成し、独自に保管するものである。

作成の手順は以下のとおりとする。

- ① 担当者（主任調査員）は、業務内容から判断して該当対象項目を抽出し、「該当対象欄」に○印を付す。
- ② 担当者（主任調査員）は、資料の準備又は条件の決定を完了した項目について「確認欄」に○印及び日付を記入する。
- ③ 設計書決裁時に本一覧表及び準備した具体的設計条件を総括調査職員予定者に説明し、確認印を受ける。（発注者として基本的設計条件を確定することにより、的確な指示等が可能となり業務の手戻りを防止できる。）

##### 3) 照査項目一覧表

照査フローチャートに従って、設計の主要な区切り毎に受注者が実施すべき基本的照査項目を一覧表に整理したものである。

作成は主要な区切り（3段階）毎に行うものとし、作成の手順は以下のとおりとする。

- ① 業務内容から判断して該当対象項目を抽出し、「該当対象欄」に○印を付す。
- ② 照査を完了した項目について「確認欄」に○印及び日付を記入する。
- ③ 照査技術者及び管理技術者の確認を受ける。（確認印）
- ④ 発注者に提出し、照査状況の報告を行う。

又、④の提出に際しては、必要に応じて、提示資料欄に記載された資料、各種検討書等を別添資料として添付するものとする。

発注者は、提出された照査項目一覧表を手元において、報告を受けた項目毎に赤印チェックをつけることにより、照査状況を的確に把握するものとする。尚、赤印の記入等をおこなった（発注者のチェック、コメント等を付加した）資料は、受注者に返却せず、発注者において業務完了まで保管する。

#### 4) 設計調書

業務の成果のうち主要な設計諸元、使用材料、応力計算等について、チェックのうえ、とりまとめるものである。作成は受注者が行い発注者に提出を行う。尚、各照査段階においても有効活用を図るものとする。

### 5. 用語の定義

#### 1) 照査

受注者が設計業務の完了までに行う、発注条件、設計の考え方、構造細目等のチェック及び技術計算等の検算であり、本照査要領に記載された照査項目は標準的と判断する設計の基本事項である。

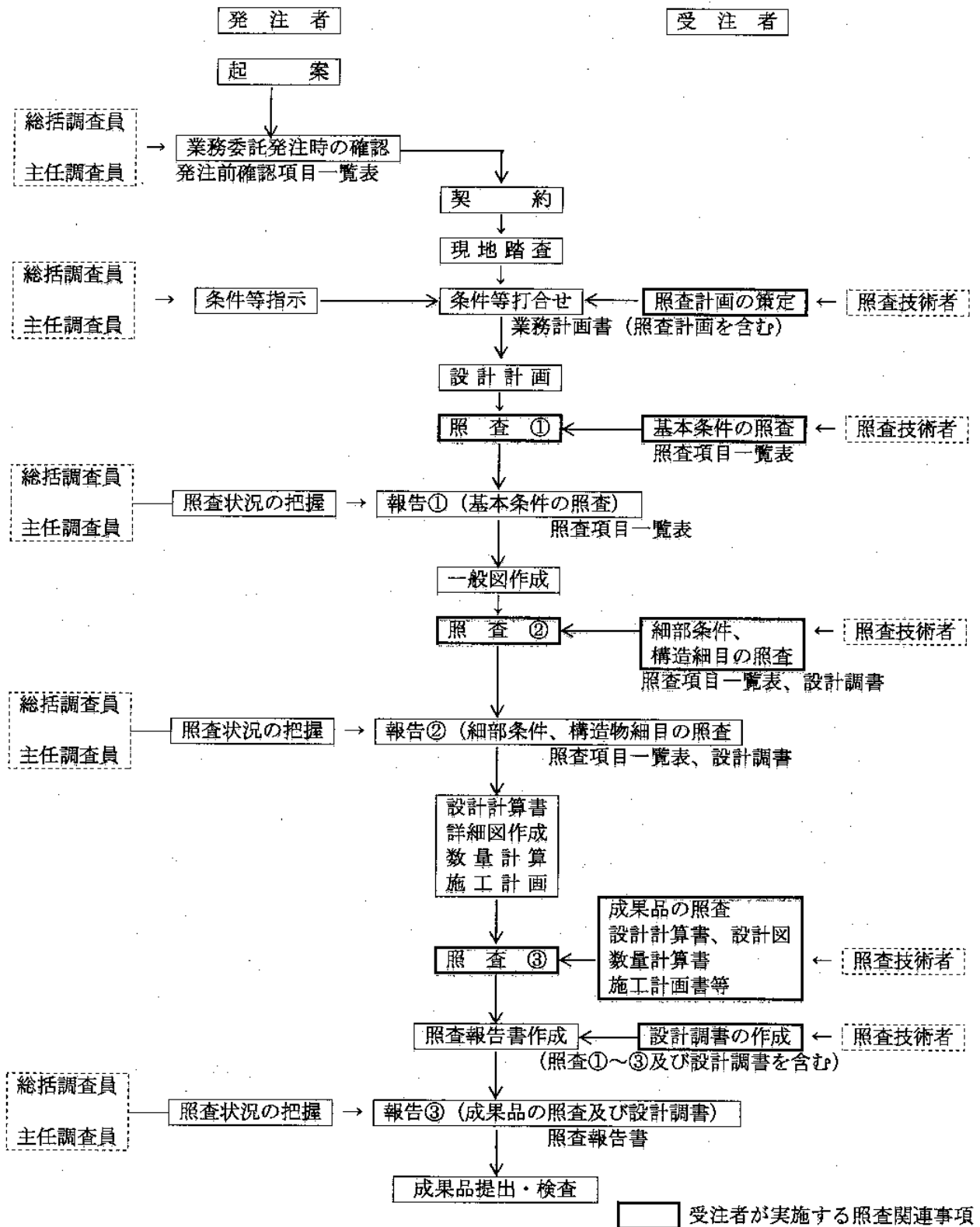
#### 2) 照査状況の把握

調査職員が設計業務の完了までに行う、業務履行状況の把握の一部であり、業務打ち合わせ等を通して、条件の明確化、疑義を正す等により適切な成果品を求めることが重要である。

### 6. その他記載等にあたっての留意事項

- 1) 各照査段階において、照査内容が未定であったり、一度で確認が済まない場合や条件決定が順不同となる場合は、確認が済んだ事項に○印と日付を記入し、未確認の事項が明確になるように徹底すること。
- 2) 照査項目の中に、複数の確認項目がある場合（例えば関係機関協議が複数ある場合）は、必ず備考欄又は別紙を用いて確認済み項目が解るようにすること。
- 3) 照査内容の項目が漠然としており、発注者の認識と異なるおそれがあると判断する場合は、備考欄等を用いて具体の確認項目を明示すること。
- 4) 業務内容、規模、重要度等により、照査内容項目を追加する必要がある場合等は、各様式の最後に添付した「追加項目記入表」を利用するものとする。又、予備設計や修正設計に本照査要領を活用する場合は、必要な照査内容項目を抽出して照査すること。
- 5) 照査報告書に本照査要領に基づき作成した資料を添付すること。
- 6) 設計調書等 A 4 判サイズでは記入困難な場合は、A 3 判に拡大して記入すること。

# 詳細設計照査フローチャート



注記 ※ 照査②の段階より、設計調書の有効活用を図る。  
 ※※ 工程に関わる照査・報告①②③の時期は、業務計画書提出時に打ち合わせにより設定する。

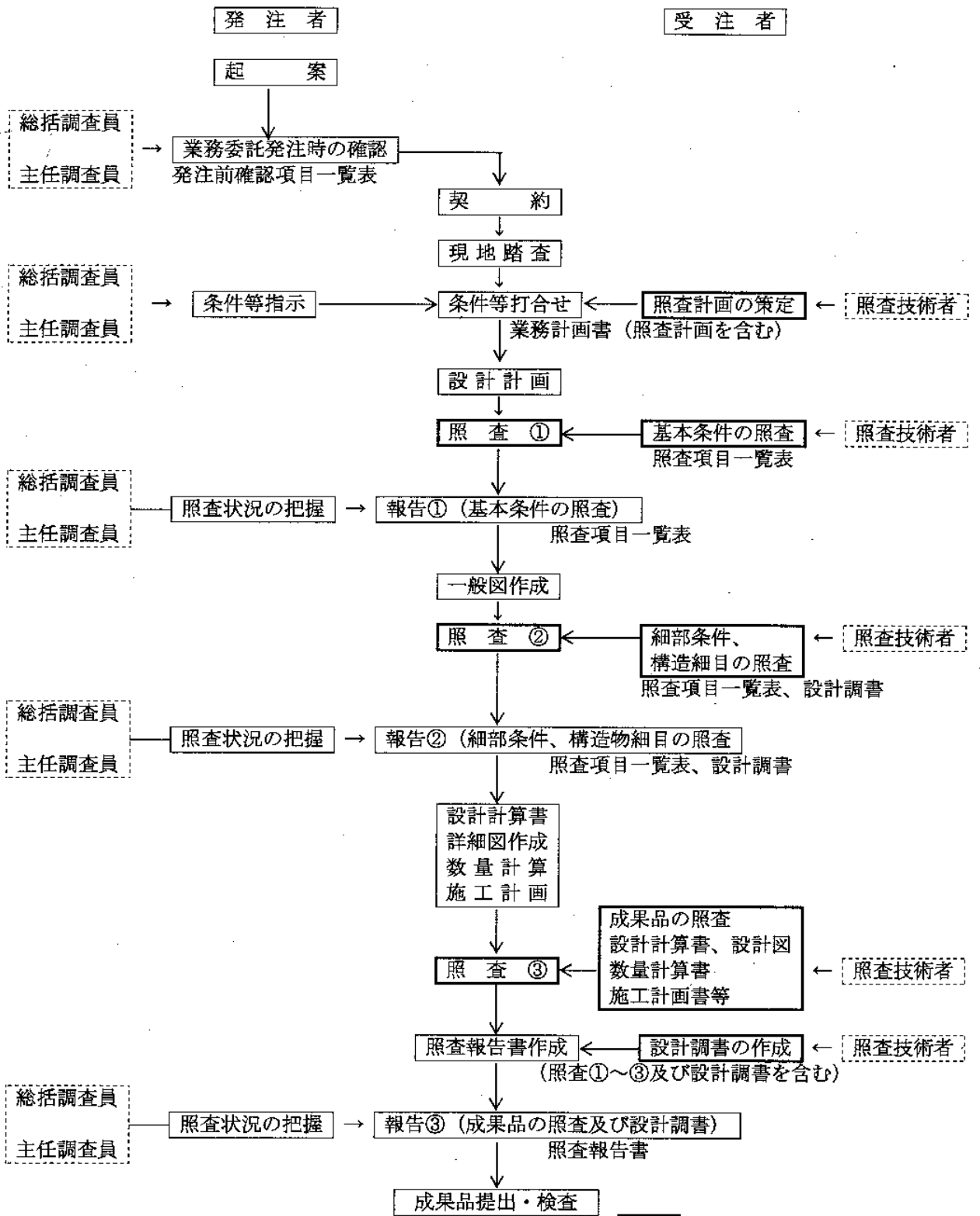


樋門・樋管詳細設計照査要領

平成10年4月



# 橋門・橋管詳細設計照査フローチャート



□ 受注者が実施する照査関連事項

注 記 ※ 照査②の段階より、設計調書の有効活用を図る。  
 ※※ 工程に関わる照査・報告①②③の時期は、業務計画書提出時に打ち合わせにより設定する。



# 発注前確認項目一覧表

業務名： \_\_\_\_\_

発注者名： \_\_\_\_\_

確認の日付： 平成 年 月 日 \_\_\_\_\_

発注者印	総括調査員	主任調査員

発注前確認項目一覧表

No	項目	主な内容	確認資料	該当対象	確認	備考
1	設計の目的・主旨	1) 樋管の設置目的は明確になっているか。	特記仕様書			
2	設計の範囲、内容、数量及び履行期間	1) 設計の範囲、内容、数量及び履行期間は決定しているか。 (取付護岸、築堤護岸、取付水路の設計延長)	共通仕様書			
3	樋管名	1) 樋管名は決定しているか。	特記仕様書			
4	河道条件	1) 本川及び支川の河道改修計画（暫定計画・将来計画）があるか。	"			
		2) 計画平面、縦断、横断形状は決定しているか。	"			
		3) 計画堤防の定規断面は明確になっているか。	"			
		4) 水理条件は明確になっているか。	"			
		5) 現況河道（堤防）の整備状況はどうか。また、未改修の場合改修の時期は決定しているか。	"			
5	設計基本条件	1) 断面、敷高は決定しているか。 2) 樋管設置位置は決定しているか。 3) 基礎形式及び本体構造形式の基本方針は定まっているか。 4) 操作室上屋の有無は決定しているか。 5) 護岸タイプは決定しているか。 6) ゲートの設計水位、操作水位は決定しているか。 7) ゲート等、機電設備の設計の有無が決定しているか。 8) 仮締め切り等の条件が整備されているか。 9) 標準設計の適用は可能か。 1) 水路切り回し、搬入路等の借地の見通しはあるか。 2) 工事時期は決定しているか。 3) スペース、ヤード、工法等の制約条件はあるか。 4) 環境上特に配慮すべき事項があるか。 5) 樋管設置のための用地は確保されているか。 6) 近接構造物、地下構造物はないか。 7) 工期をしばる現場条件はあるか。 8) 周辺の土地利用状況を把握したか。 1) 施設管理（予定）者から提示された設計上考慮すべき条件はないか。 2) 完成後の施設の帰属は決定しているか。	"			
6	施工上の基本条件		"			
			"			
			"			
			"			
7	維持管理		"			

発注前確認項目一覧表

No	項目	主 要 な 内 容	確認資料	該当 対象	確 認	備 考
8	関連機関との調整	1) 他の河川管理者との調整は済んでいるか。 2) 道路管理者との調整は済んでいるか。 3) 地元及び地権者との調整は済んでいるか。 4) 関連する工作物管理者との調整は済んでいるか。 5) 上屋の建築確認は必要となるか。 1) 水理検討（流域の設定、流出量、内外水位、等）が明確になっているか。 2) 樋管予備設計の報告書があるか。 3) 地質調査報告書があるか。 追加ボーリングは必要ないか。 軟弱地盤の判断に必要な資料はあるか。 （圧密沈下、液状化、地盤支持力、法面安定、側方移動等） 4) 測量成果（平面、縦断、横断）が整備されているか。 5) 樋管台帳に整理されているか。 （占用工作物、許可工作物、既設樋管の設計図等） 6) 用地境界が明確であるか。 1) 特別に景観を配慮する必要があるか。 2) 景観検討の方針、内容は決定しているか。	協議書など			
9	資料の確認	1) 既設構造物及び取り付け状況を把握したか。 2) 支障物件はあるか。（近接構造物等の移設は必要か。） 1) 成果品の内容（部数、サイズ）は決定しているか。 2) パースの必要性の有無が決定しているか。 1) 他事業との調整は済んでいるか。	水理検討書 設計報告書 地質調査報告書			
10	景観への配慮		測量成果品			
11	現地踏査		既工事竣工図 設計図			
12	成果品					
13	その他					

# 発注前確認項目一覧表

(追加項目記入表)

No	項目	主  な  内  容	確認資料	該当 対象	確認	備 考



# 基本条件の照査項目一覧表 ( 照査 ① )

業務名： \_\_\_\_\_

発注者名： \_\_\_\_\_

受注者名： \_\_\_\_\_

照査の日付： 平成 年 月 日

受注者印	照査技術者	管理技術者
------	-------	-------

基本条件の照査項目一覧表（様式—1）

No	項目	主な内容	提示資料	照査①		備考
				該当対象	照査	
1	設計の目的、設計範囲	1) 目的・設計範囲を把握したか。	業務計画書 設計条件の整理 検討書			
2	河道条件	1) 本川及び支川の河道改修計画（暫定計画、将来計画）を把握したか。 2) 本川・支川の計画平面、縦断、横断形を把握したか。 3) 堤防の定規断面を把握したか。（計画断面、施工断面） 1) 樋管の計画諸元は適正か。 （設置位置、規模、断面、敷高、延長、河道計画との整合）				
3	設計基本条件	2) 基礎、本体形式の基本方針は妥当か。 3) 操作室上屋の有無を確認したか。 4) 護岸タイプを把握したか。 5) ゲートの設計水位、機電設備の設計の有無を確認したか。 6) ゲートの設計水位、操作水位を確認したか。 7) 仮締め切り等の条件を確認したか。 8) 設計水圧の方向を確認したか。 9) 関連する他の設計と整合がとれているか。 1) 地層構成の把握は妥当か。 2) 土質定数の設定は妥当か。 3) 支持力、地盤バネ値の設定は妥当か。 4) 地下水位等の設定は妥当か。 5) 追加調査の必要性はないか。 6) 軟弱地盤として検討する必要性を確認したか。 （圧密沈下、液状化、地盤支持力、法面安定、側方移動等）				
4	地盤条件	1) 地盤種別は妥当か。 2) 水平震度は妥当か。 1) 使用材料と規格（市場性、経済性含む）、許容応力度は妥当か。 1) 用地境界を確認したか。 2) 施工ヤード、スペースは確認したか。	基礎地盤 検討書			
5	設計震度		震度検討書			
6	使用材料		設計応力度 一覧表			
7	地形条件		地形図			

基本条件の照査項目一覧表（様式—1）

No	項目	主な内容	提示資料	照査①		備考
				該当	照査対象	
8	施工条件	<p>1) 施工上の制約条件を確認したか。 （スベース、交通条件、水の切り回し）</p> <p>2) 工事時期を確認したか。</p> <p>3) 旧施設の撤去条件を確認したか。</p> <p>4) 周辺の土地利用状況を把握したか。</p> <p>1) 関連機関と発注者との調整内容を確認したか。</p> <p>1) 貸与資料の不足、追加事項があるか。</p> <p>1) 景観検討の必要性、方針、グレードを把握したか。</p> <p>2) 景観検討の具体的方法、作成すべき資料等は明らかとなっているか。</p>	業務計画書			
9	関連機関との調整					
10	貸与資料の問題点					
11	景観検討					
12	現地踏査	<p>1) 地形、地質、現地状況（流況、河床、排水系統、現場周辺の土地利用、建物）を把握したか。</p> <p>2) 交通状況、進入道路等、周辺道路状況を把握したか。</p> <p>3) 環境状況（工事における振動、騒音等の配慮面）を把握したか。</p> <p>4) 支障物件（地下埋設物、既設樋管との離れ等）の状況を把握したか。</p> <p>5) 付帯施設の有無、旧施設撤去及び電力源等の有無を確認したか。</p> <p>6) 法令、条件に関する調査の必要性があるか。</p> <p>7) 出来上がりの環境面を配慮した自然環境、周辺環境を把握したか。</p>				

基本条件の照査項目一覧表（様式－1）

（追加項目記入表）

No	項目	主 要 内 容	提示資料	照 査 ①		備 考
				該 当 対 象	確 認	

# 細部条件の照査項目一覧表 ( 照査 ② )

業務名： \_\_\_\_\_

発注者名： \_\_\_\_\_

受注者名： \_\_\_\_\_

照査の日付： 平成 年 月 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No	項目	主 名 内 容	提示資料	照 査 ②		備 考
				該 当 対 象	確 認	
1	一般図	1) 一般平面図、縦断面、横断面は妥当か。 (様式－1設計基本条件との整合が図られているか)	一般図 構造図			
2	本体工	1) 函渠断面の形状（円形、単形、1連、2連）は妥当か。 2) 最小部材厚は妥当か。 3) 継ぎ手の位置は妥当か。 4) カラーの長さは妥当か。 5) 函渠端部の補強厚さは妥当か。 6) 門柱の高さ、操作台のスペースは妥当か。また、ゲートの箱抜きは考慮しているか。 7) 構造細目は妥当か。 (鉄筋かぶり、ピッチ、継ぎ手、折り曲げ位置) 8) 継ぎ手構造及び継ぎ手数は妥当か。 9) 計画堤防断面の切り込み量は妥当か。				
3	胸壁	1) 設置位置（川表、川裏）及び構造（本体と一体構造）は妥当か。				
4	翼壁	2) 高さ、長さ、天端幅は妥当か。 1) 構造形式は妥当か。				
5	水叩	2) 高さは計画断面又は施工断面に合致しているか。 3) 範囲は設計断面以上となっているか。 4) 長さは妥当か。 5) 天端幅は妥当か。				
6	護床工	6) 平面形状の角度は妥当か。 1) 範囲、構造形式は妥当か。				
7	遮水工	2) ゲートの吊り込み位置とクレーン重量を考慮しているか。 1) 範囲、構造形式は妥当か。 1) 遮水板の水平方向の設置箇所、設置範囲は妥当か。 2) 高さ、幅は妥当か。 3) 厚さは妥当か。 4) 遮水板の型式、長さは妥当か。 5) 水平方向に可撓継ぎ手を使用しているか。				

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No	項目	主 名 内 容	提示資料	照 査 ②		備 考	
				該 当 対 象	確 認		
8	管理橋	1) 設置高さは妥当か。(桁下高は計画堤防高以上か。) 2) 幅員は妥当か。 3) 法面保護工の範囲は妥当か。	一般図 構造図				
9	護岸工・階段工	1) 範囲、設置位置は妥当か。 2) 設置高さは妥当か。 3) 護岸工の構造は妥当か。 (根入れ、遮水シート、ブロック厚、環境への配慮等)					
10	ゲート	4) 根固め工の範囲、重量は妥当か。 1) 形式選定は妥当か。 2) 開閉装置の形式は妥当か。					
11	上 屋	3) ゲートの搬入・据え付け方法は妥当か。 1) 構造形式は妥当か。 2) 巻き上げ機等の搬入・据え付け方法は妥当か。 3) 意匠計画は妥当か。 4) 照明、操作用電源は考慮されているか。また、その方式は妥当か。					
12	付帯設備	5) 操作、メンテナンスに必要な空間は妥当か。 1) 水位観測施設、安全施設（防護柵等）の配置は妥当か。 2) 夜間照明は必要か。また配置は適当か。					
13	基礎工	1) 基礎形式は妥当か。 2) 地盤の最大残留沈下量は妥当か。 3) 液状化の判定は妥当か。 4) 空洞化等に対しての適切な対策工がなされているか。 5) 特殊条件を考慮しているか。 6) (杭基礎の場合) 杭種、杭径は妥当か。また、支持層への根入れは妥当か。 7) ネガティブフリクションの照査を行ったか。 8) 施工方法は周辺環境を考慮して選定しているか。 9) 構造細目（杭頭、継手）は妥当か。					基礎工 検討書

細部条件の照査項目一覧表（様式一—2）

No	項目	主旨	内容	提示資料	照査②		備考
					該当対象	確認	
14	施工計画		<p>1) 施工手順は妥当か。</p> <p>2) 仮締切堤の構造、高さは妥当か。</p> <p>3) 仮締切堤設置後の本川の流下能力は考慮されているか。</p> <p>4) 水路の切廻しの安全性は妥当か。</p> <p>5) 工事用道路（長尺物等の搬入）の経路は妥当か。</p> <p>6) 地下水位の設定及び地下水対策は妥当か。</p> <p>7) 掘削法面の形状は妥当か。</p> <p>8) 環境対策（騒音・振動等）は妥当か。</p> <p>9) 旧施設の撤去方法は妥当か。</p> <p>10) マスコンクリートとして扱う必要があるか。</p>	施工計画 検討書			
15	軟弱地盤対策工		<p>1) 対策工の目的及び工法は妥当か。</p> <p>2) 対策工の効果の判断及び範囲は妥当か。</p> <p>3) 樋管設置位置の見直しは必要ないか。</p>				
16	その他		<p>1) グラウトホールは設置されているか。</p> <p>2) 点検塗装等維持管理を考慮しているか。</p> <p>3) 景観検討結果は妥当か。</p>				



細部条件の照査項目一覧表（様式-2）

（追加項目記入表）

No	項目	主 体	内 容	提 示 資 料	照 査 ②		備 考
					該 当 対 象	確 認	

# 成果品の照査項目一覧表

( 照査 ③ )

業務名: \_\_\_\_\_

発注者名: \_\_\_\_\_

受注者名: \_\_\_\_\_

照査の日付: 平成 年 月 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

成果品の照査項目一覧表（様式-3）

No	項目	主 要 な 内 容	提示資料	照 査 ③		備 考
				該当対象	確認	
1	設計計算	<p>1) 各検討設計ケースは適切か。</p> <p>2) 安定計算結果は許容値を満たしているか。 (撓み量、変位量、安定に対する安全度)</p> <p>3) 荷重、許容応力度の取り方は正しいか。</p> <p>4) 荷重図、モーメント図等は描かれているか。</p> <p>5) 施工を配慮した計算となっているか。</p> <p>6) 作用応力度は許容値を満たすか。</p> <p>7) 杭径、杭配置は適正か。</p> <p>8) 杭頭処理、杭の継ぎ手位置は適正か。</p> <p>1) 縮尺は共通仕様書、特記仕様書と整合しているか。</p> <p>2) 全体一般図に必要な項目を記載しているか。 (水位、地質条件等)</p> <p>3) 使用材料は計算書と一致しているか。</p> <p>4) 構造詳細は、適用基準及び打ち合わせ事項と整合するか。</p> <p>5) 取り合い部の構造寸法は適正か。</p> <p>6) 解り易い注記が記載されているか。</p> <p>7) 水位等、設計条件が図面に明示されているか。</p> <p>8) 図面が明瞭に描かれているか。</p> <p>9) 各設計図が相互に整合しているか。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般平面図と縦断図</li> <li>・構造図と配筋図</li> <li>・構造図と仮設図</li> </ul> </p> <p>10) 設計計算書の結果が正しく図面に反映されているか。 (特に応力計算、安定計算等の結果が適用範囲も含めて整合しているか。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・壁厚</li> <li>・鉄筋 (径、ピッチ、使用材料、ラップ位置、ラップ長、主鉄筋の定着長、ガス圧接位置)</li> <li>・鋼材形状、寸法</li> <li>・使用材料</li> <li>・その他</li> </ul>	設計計算書			
2	設計図		設計図			

成果品の照査項目一覧表（様式-3）

No	項目	主 要 内 容	提示資料	照 査 ③		備 考
				該 当 対 象	確 認	
3	数量計算	<p>1) 数量計算は、数量算出要領及び打ち合わせ事項と整合しているか。（有効数字、位取り、単位、区分等）</p> <p>2) 数量計算に用いた寸法は図面と一致するか。</p> <p>3) 数量取りまとめは、種類ごとに、材料ごとに打ち合わせ区分にあわせてまとめられているか。</p> <p>4) 数量計算の根拠となる資料（根拠図等）は作成しているか。</p> <p>5) 数量計算の照査がなされているか。</p>	数量計算書			
4	施工計画検討	<p>1) 施工法が妥当であるか。 （工法比較時の金額は妥当か、工程及び施工方法は妥当か）</p> <p>2) 経済性、安全性が配慮されているか。</p> <p>3) 工事時の環境面が配慮されているか。</p>	施工計画書 仮設設計 計算書 仮設設計 計算書 設計調書 報告書			
5	設計調書 報告書	1) 設計調書の記入は適正になされているか。				
6		1) 報告書の構成は妥当か。 2) 設計条件の考え方が整理されているか。 3) 比較検討の結果が整理されているか。				
7	TECRIS	4) 工事発注に際しての留意事項が記述されているか。 1) TECRISの登録を行ったか。				

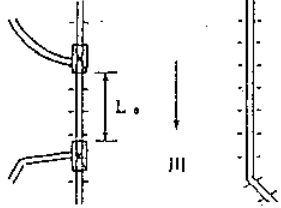
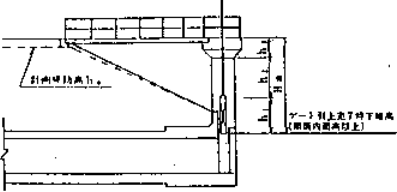
成果品の照査項目一覧表（様式－3）

（追加項目記入表）

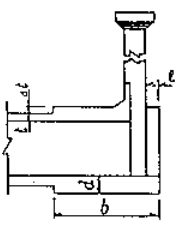
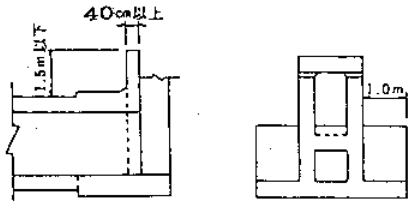
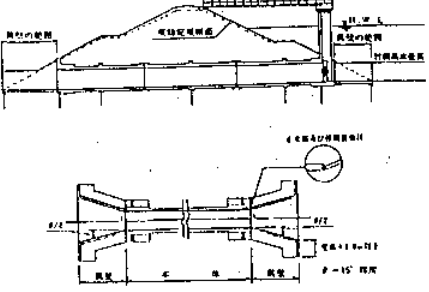
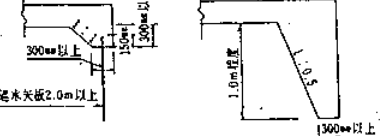
No	項 目	主 要 内 容	提 示 資 料	照 査 ③		備 考
				該 当 対 象	確 認	

# 設 計 調 書 ( / )

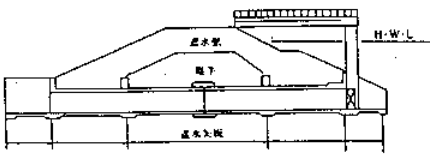
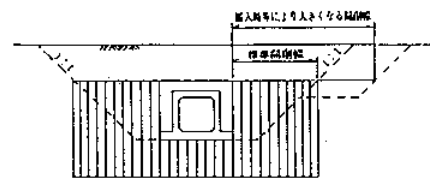
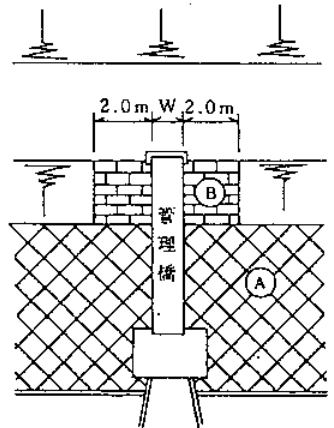
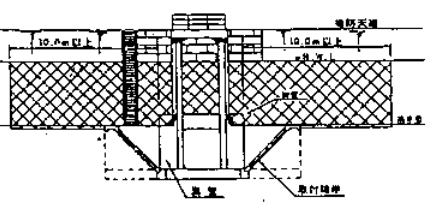
業 務 名			
樋 管 名			
河 川 名			
所 在 地			
発 注 者 名			
受 注 者 名			
管理・照査技術者			
作 成 年 月 日	平成	年	月 日

種別	形 状	項 目	細 別	基 準 値	計 画 値	備 考
基 本 事 項		河道諸元	<本川> 堤防高 高水位 平水位 <支川> 堤防高 高水位 平水位			
		設計位置		・形状の安定 しているところ	河川名: 左右岸別: 桁杭:	
		方 向		・堤防の法線に対し直角		
		敷 高		・水平とする ・敷高の決定根拠		
本 体 工		最小 部材厚		・函渠断面の部材最小厚は $t=35\text{cm}$ とする。但し、内 空寸法が $1.25\text{m} \times 1.25\text{m}$ 以 下の場合には、 $t=30\text{cm}$ とすることができる。	厚さ( )cm	
		断 面	円形 $\phi 600$ 以上 矩形 $1.0\text{m} \times 1.0\text{m}$ 以上	円形 $\phi$ ( ) 矩形 $B \times H \times 運$		
		余裕高 (h)	・ $Q < 50\text{m}^3/\text{S}$ , 30以上 ・ $Q \geq 50\text{m}^3/\text{S}$ , 60以上 ・ $Q = 20\text{m}^3/\text{S}$ 未満は特例有	$Q = ( )\text{m}^3/\text{S}$ $h = ( )\text{cm}$	沈下分(s) $S = \text{cm}$	
		函渠長		・函渠の長さは堤防法尻ま までとする。但し、地形条 件等やむを得ない事情が ある場合は、胸壁の頂版か ら高さ1.5m以内までの範 囲で短くできる。		
		継ぎ手	径間長	・函渠の長さ3.0m以上 になる場合は、継手を設ける ・軟弱地盤、地盤沈下地帯 では、2.0m以下。	径間長 $L = ( )\text{m}$	
		カーの 長さ		・内法幅によりカーの 長さを決定。	内法幅 ( )m カー長 $L_0 = ( )\text{m}$	

# 設計調書 ( / )

種別	形 状	項 目	細 別	基 準 値	計 画 値	備 考
本 体 工		函渠端部の構造	補強高さ $\Delta t$	<ul style="list-style-type: none"> <li>頂版厚 <math>t \geq 50\text{cm}</math></li> <li>補強なし</li> <li>頂版厚 <math>t &lt; 50\text{cm}</math></li> <li><math>t/2</math>補強</li> </ul>		補強後上限50cm
		門 柱	高さ	<ul style="list-style-type: none"> <li><math>H_m = h_1 + h_2 + h_3</math></li> <li><math>\geq h_4 + h_5</math></li> </ul>	$H_m = ( )\text{m}$	
			操作台	・門柱と一体構造とする		
			上屋	<ul style="list-style-type: none"> <li>有 無</li> <li>構造形式</li> </ul>		
胸 壁 工		胸 壁	構造	・川表、川裏共に本体と一体構造		
			高さ (H)	<ul style="list-style-type: none"> <li>頂版からの高さ</li> <li><math>H \leq 1.50\text{m}</math></li> </ul>	$H = ( )\text{m}$	
			長さ (Lo)	・1.0m以上	$Lo = ( )\text{m}$	
			天端幅 (to)	<ul style="list-style-type: none"> <li>0.35m以上</li> <li>(川表にあつては0.4m以上)</li> </ul>	$to = ( )\text{m}$	
翼 壁 工			構造	・自立構造とし、本体と分離		Uタイプ 逆T壁 タイプ
			高さ	・計画堤防断面に合致	$Ho = ( )\text{m}$	
			範囲 (Lo)	・計画堤防断面以上の範囲	$Lo = ( )\text{m}$	
			長さ (Ll)	・取付水路の法肩から1.0m以上。又は、端部壁高+1.0mのいずれか長い方。	$Ll = ( )\text{m}$	
			天端幅	・通常は35cm以上。小規模の時は、30cmとすることができる。	天端幅 $B = ( )\text{m}$	
			形状	・漸拡として、その角度は $\theta = 1:5 (11^\circ)$ 程度	$\theta = ( )^\circ$	
水 叩 工			範囲	・翼壁の長さと同じ。	$L = ( )\text{m}$	
			遮水工	・矢板が不可能な場合には幅1.0m程度	$Lo = ( )\text{m}$	

# 設計調書 ( / )

種別	形 状	項 目	細 別	基 準 値	計 画 値	備 考
遮 水 工		鉛直方向	設置個所	・一般的には川表、中央、川裏の3ヶ所		
			高さ幅	・高さ 1.0 m以上 ・幅 1.0 m以上	H <sub>0</sub> =( )m B <sub>0</sub> =( )m	
			厚 さ	・t ≥ 40 cm 小規模な場合は30 cm	t <sub>0</sub> =( )m	
			遮水矢板	・Laneの方法で長さを決定しⅡ型以上とする	矢板長さ L=( )m 矢板 ( )型	
工		水平方向	設置個所	・川表から優先して2ヶ所以上	( )ヶ所	
			範 囲	・掘削幅及びLaneの方法を原則とする。	L=( )m	
			可撓継手	・矢板先端までフレシキブルな構造	可撓継手 ( )型	
管 理 橋			構 造	・原則として、鋼製。		
			幅 員	・1.0 m以上	B=( )m	
			スパン	・橋体は1スパン。 操作台側を可動支承	スパン( )m	
			設置高さ	・桁下高は計画堤防高以上	桁下高( )m	
			防護柵及び扉	H ≥ 1.1 m 原則として内開き	防護柵の高さ H=( )m	
			法 面 保護工	・範囲は管理橋の上・下流端からそれぞれ2.0 m程度	B=( )m	
護 岸 工			範 囲	・翼壁端部より上・下流それぞれ10m以上。但し、工事施工上、開削した場合は掘削の法面より3.0 m以上の範囲までとする。	L <sub>0</sub> =( )m	
			高 さ	・H.W.L以上とする		



# 設 計 調 書 ( / )

種別	形 状	項 目	細 別	基 準 値	計 画 値	備 考
ゲ ー ト			構 造	・鋼構造又は、これに準ずる構造		
			ゲート型式			
			開閉装置の形式	原動機・手動装置		
			引き上完了時のゲート下端高			
			水密性			
上 屋			有 無			
			構造形式			
付 帯 設 備		水位観測施設の有無	階 段	・川表は施工断面に合致 ・川裏は施工断面外		
			法面保護	・階段地層端部より 1.0m以上		
			水位観測施設	・防護柵 ・船舶運航用信号 ・防絨材		
その他		グラウトホールの設置		・軟弱地盤上に設置する場合には、5.0m以下の間隔でグラウトホールを設ける。		

## 〔仮締切堤計画諸元〕

種別	形 状	項 目	計 画 値
仮 締 切 堤		・設計対象水位	洪水期 非洪水期
		・締切堤 天端高	
		・締切堤 取付位置	
		・仮設時の本支川の疎通能力	
		・締切堤 構造型式	

# 設計調書 ( / )

## 基礎工 (1) 直接基礎

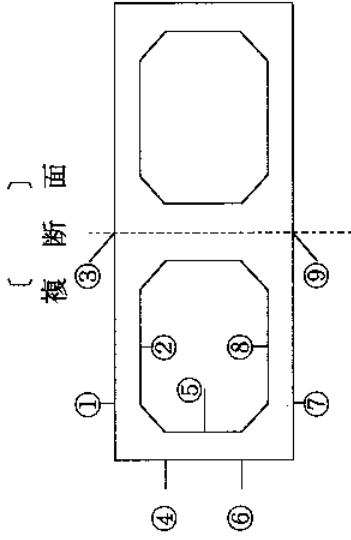
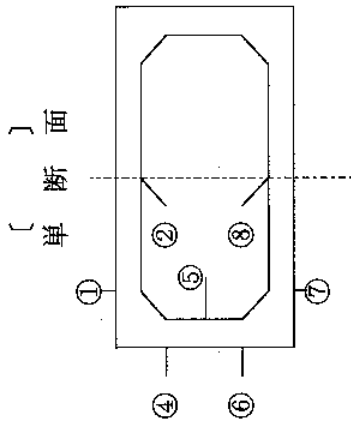
種別	沈下量 ( $\delta \leq 10\text{cm}$ )	支持力		判定	備考
		鉛直支持力 ( $\text{t}/\text{m}^2$ )	許容鉛直支持力 ( $\text{t}/\text{m}^2$ )		
置換無		"	"		・支持地盤 ( ) ・N ( )
置換有		"	"		・置換土諸元 ・厚さ H = ( ) ・幅 B = ( ) ・置換土名称 ( )
地盤改良		"	"		・改良工法の諸元

## (2) 杭基礎

構造名・荷重状態等 作用力	鉛直力 N (t)				
	水平力 H (t)				
	変位量 $\delta$ (cm)				
	杭体応力度				
許容値	鉛直力 N (t)				
	水平力 H (t)				
	変位量 $\delta$ (cm)				
決定ケース 使用杭	杭体応力度				
	杭種				
	杭径: $\phi$ (mm)				
	杭長: L (m)				
	本数: n (本)				

# 設計調査書( / )

## 応力照査表



(1) 横方向

応力照査位置	頂版			側壁			底版		
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
断面曲げモーメント M (t.m)									
断面軸力 N (t)									
断面せん断力 S (t)									
部材厚 (cm)									
鉄筋量 (AS)									
$\sigma_c$ (kg/cm <sup>2</sup> )									
$\sigma_s$ (kg/cm <sup>2</sup> )									
$\tau_a$ (kg/cm <sup>2</sup> )									
$\sigma_{ca}$ (kg/cm <sup>2</sup> )									
$\sigma_{sa}$ (kg/cm <sup>2</sup> )									
$\tau_a$ (kg/cm <sup>2</sup> )									
決定したケース									

鉄筋組立図



(2) 縦方向

検討ケース	頂版			側壁			底版		
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
断面曲げモーメント M (t.m)									
断面軸力 N (t)									
断面せん断力 S (t)									
部材厚 (cm)									
鉄筋量 (AS)									
$\sigma_c$ (kg/cm <sup>2</sup> )									
$\sigma_s$ (kg/cm <sup>2</sup> )									
$\tau_a$ (kg/cm <sup>2</sup> )									
$\sigma_{ca}$ (kg/cm <sup>2</sup> )									
$\sigma_{sa}$ (kg/cm <sup>2</sup> )									
$\tau_a$ (kg/cm <sup>2</sup> )									
決定したケース									

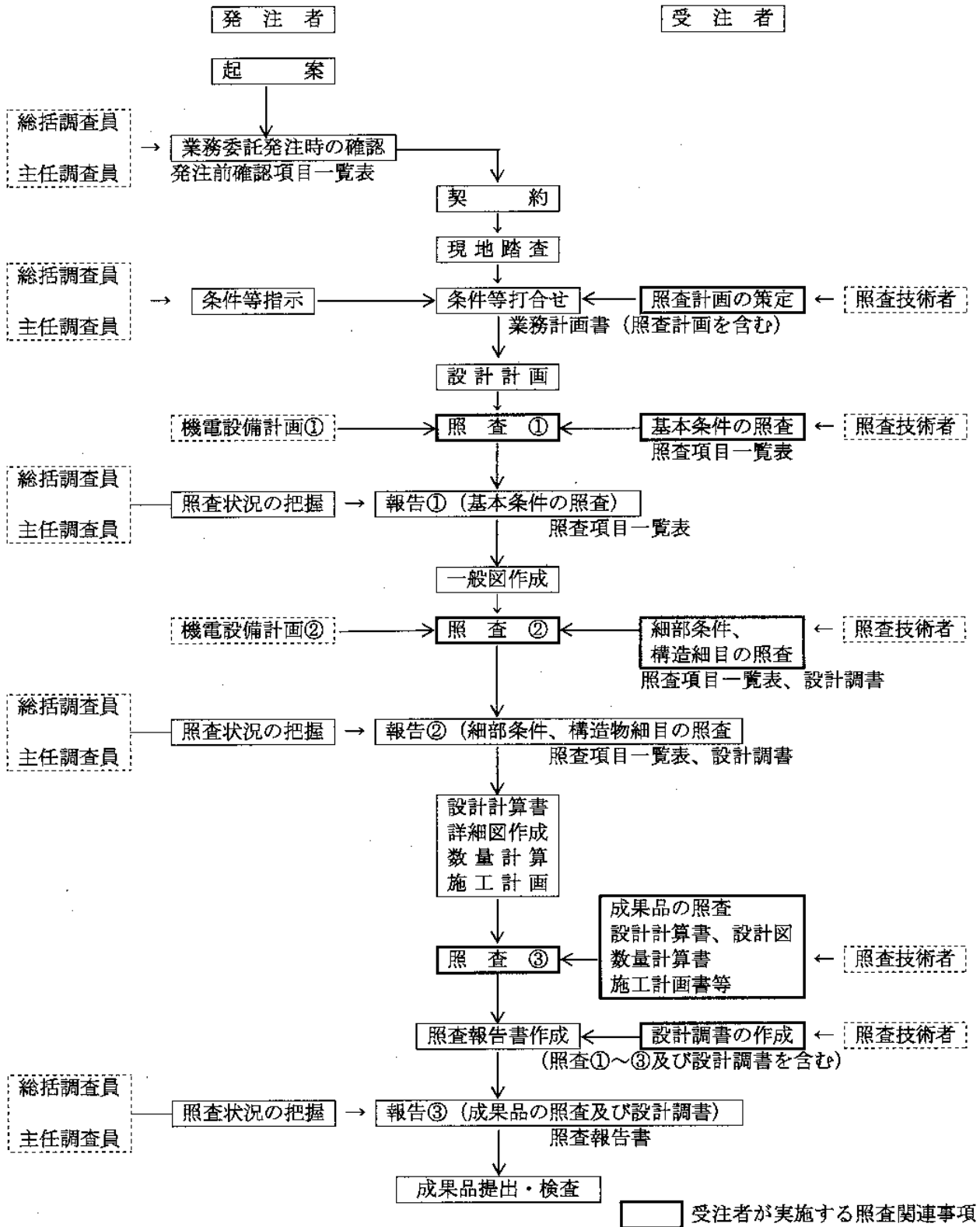


排水機場詳細設計照査要領

平成10年4月



# 排水機場詳細設計照査フローチャート



注記 ※ 照査②の段階より、設計調書の有効活用を図る。  
 ※※ 工程に関わる照査・報告①②③の時期は、業務計画書提出時に打ち合わせにより設定する。





# 発注前確認項目一覧表

業務名： \_\_\_\_\_

発注者名： \_\_\_\_\_

確認の日付： 平成 \_\_\_\_ 年 \_\_\_\_ 月 \_\_\_\_ 日

発注者印	総括調査員	主任調査員
------	-------	-------

発注前確認項目一覧表

No.	項目	主要内容	確認資料	対象	確認	備考
1	設計の目的・主旨	施設の設置目的は明確になっているか	特記仕様書			
2	設計の範囲、内容、工程、数量	1) 設計の範囲、内容、工程、数量は決定しているか 2) 土木、建築、機械の設計の種分けが明確になっているか 3) 機電設備関係の設計の有無が決定しているか 4) 確認申請等の提出資料の業務範囲は明確になっているか	共通仕様書 特記仕様書 予備設計報告書 特記仕様書			
3	機場名	機場名は決定しているか	特記仕様書			
4	河道条件	1) 本川及び支川の河道改修計画（暫定計画、将来計画）があるか 2) 本川及び支川の計画平面、縦断、横断形状は決定しているか 3) 本川及び支川の堤防の定規断面が明確になっているか 4) 本川及び支川の水理条件は明確になっているか	特記仕様書 特記仕様書 特記仕様書			
5	設計基本条件 ①機電設備関係 (主ポンプ関係)	1) ポンプ総排水量は決定しているか 2) 暫定、全体計画は決定しているか 3) ポンプ台数割は決定しているか 4) ポンプ形式・口径は決定しているか	予備設計報告書 特記仕様書 特記仕様書 特記仕様書 特記仕様書			

発注前確認項目一覧表

No.	項目	主 な 内 容	確認資料	該 対 象	確 認	備 考
		5) ポンプ床形式は決定しているか 6) ポンプ運転水位は決定しているか 7) ポンプ揚程は決定しているか 8) 吐出ゲートの位置・規模は決定しているか 9) 吐出ゲートの形式は決定しているか 10) スクリーン、除塵設備の設置数は決定しているか 11) スクリーン、除塵設備の形式は決定しているか 12) 沈砂池の設置の有無は決定しているか 13) 沈砂池の規模は決定しているか 14) 運転管理方式は決定しているか 15) 原動機の種類・容量は決定しているか 16) 自家発電設備の容量は決定しているか 17) 予備発電装置の容量は決定しているか 18) 冷却設備の方式は決定しているか 19) 冷却水槽の有無及び容量は決定しているか 20) 天井クレーンの形式・容量・対象物・揚程等は決定しているか 21) ポンプ運転時間は決定しているか 22) 燃料槽の容量は決定されているか	特記仕様書 特記仕様書 特記仕様書 特記仕様書 特記仕様書 特記仕様書			

発注前確認項目一覧表

No.	項 目	主 な 内 容	確 認 資 料	該 対 象	確 認	備 考
	②土木関係	23) 騒音規制は調査しているか 24) ポンプ設備等の搬入・搬出方法は決定しているか 25) ゴミの収集、処理方法は決定しているか 1) 機揚設置位置は決定しているか 2) 吸水槽の深さ、幅は決定しているか 3) ポンプ室の床の標高は決定しているか 4) エンジン室の床の標高は決定しているか 5) 沈砂池及びブスクリーン受の基本構造は決定しているか 6) 吐出水槽の設置位置、敷高は決定しているか 7) 吐出水槽の規模は決定しているか 8) 樋管設置位置は決定しているか 9) 吐出樋管の規模は決定しているか 10) 樋管の構造形式は決定しているか 11) 樋管の機能は決定しているか (専用樋管又は兼用樋管) 12) 樋管の断面、敷高は決定しているか 13) 樋管操作室上屋の有無が決定しているか	特記仕様書                    特記仕様書 特記仕様書 特記仕様書 特記仕様書 特記仕様書 特記仕様書			

発注前確認項目一覧表

No.	項目	主な内容	確認資料	該当対象	確認	備考
		14) 基礎形式の基本方針が定まっているか 15) 護岸タイプは決定しているか 16) 取付水路の形式は決定しているか 17) 仮設備計画（土留工法等）は決定しているか ③建築関係 1) 機場上屋の位置・規模（階層、面積）は決定しているか 2) 諸室のスペース、配置は決定しているか 3) 構造形式は決定しているか 4) 常駐人員、操作人員等が決定しているか 5) 見学者対応を考慮した施設とするかの方針は決まっているか 6) 身障者対応を考慮した施設とするかの方針は決まっているか 7) 外構整備の方針は決まっているか 8) 関連基準、規制等は調査してあるか	特記仕様書 特記仕様書 特記仕様書 特記仕様書 特記仕様書 特記仕様書 特記仕様書 特記仕様書 特記仕様書 特記仕様書			
6	施工上の基本条件	1) 水路の切廻し、搬入路、ヤード確保の見通しはあるか 2) 工事時期全体工程が決定しているか				

発注前確認項目一覧表

No.	項目	主な内容	確認資料	該当対象	確認	備考
7	維持管理	1) 維持管理の方法は決定しているか				
8	関連機関との調整	1) 他の河川管理者との調整は済んでいるか 2) 道路管理者との調整は済んでいるか 3) 地元及び地権者との調整は済んでいるか 4) 消防署との協議は済んでいるか 5) その他関係機関との調整は済んでいるか	協議書など			
9	資料の確認	1) 水理検討（流域の設定、流出量、内外水位、計画排水量、最大内水位、ポンプ運転開始水位等）が明確になっているか 2) 予備設計の報告書があるか 3) 地質調査報告書があるか 追加ボアリングは必要ないか 軟弱地盤の判定に必要な資料はあるか （圧密沈下・液状化・地盤支持力・法面安定・側方移動等） 4) 測量成果（平面、縦断、横断）が整理されているか、目的に対して十分な内容か 5) 構造物台帳に整理されているか （占用工作物、許可工作物、既設樋管の設計図等） 6) 用地境界が決定しているか	水理検討書 設計報告書 地質調査報告書 測量成果品			

発注前確認項目一覧表

No.	項目	主な内容	確認資料	対象	確認	備考
10	景観設計の必要性	1) 特別に景観を配慮する必要があるか 2) 景観設計の方針、内容は決定しているか 3) 景観設計に必要な資料は整理されているか				
11	現地踏査	1) 既設及び取付状況 2) 支障物件はあるか、あれば調整はされているか (電力、NTT、上水道、下水道、ガス等) 3) 地形、地質、現地状況を把握しているか 4) B・Mの確認(基準点、基準高) 5) 附帯施設の有無 6) 旧施設の撤去 7) 電力源の有無	既工事竣工図、設計図			
12	成果品	1) 成果品の内容(部数、サイズ)は決定しているか 2) パースの必要性の有無が決定しているか	既調査報告書			
13	その他 使用する図書	1) 他事業との調整はなされているか 1) 共通仕様書に定める以外に必要とするものがあるか				

発注前確認項目一覧表

(追加項目記入表)

No.	項目	主 体	な	内	容	確認資料	該 対	当 象	確 認	備 考



# 基本条件の照査項目一覧表

( 照 査 ① )

業 務 名 : \_\_\_\_\_

発 注 者 名 : \_\_\_\_\_

受 注 者 名 : \_\_\_\_\_

照 査 の 日 付 : 平成 年 月 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

基本条件の照査項目一覧表（様式－1）

No.	項目	主 要 内 容	提示資料	照 査 ①		備 考
				該 対 象	照 査	
1	設計の目的、設計範囲	1) 目的・設計範囲を理解したか	業務計画書			
2	機場名	1) 機場名を確認したか	業務計画書			
3	河道条件	1) 本川及び支川の河道改修計画（暫定計画、将来計画）を把握したか 2) 本川及び支川の計画平面、縦断、横断面形状を理解したか 3) 本川及び支川の計画堤防の定規断面を理解したか 4) 本川及び支川の水利条件を理解したか	設計条件の整理、検討書			
4	設計基本条件 ①機電設備関係 （主ポンプ関係）	1) ポンプ総排水量を確認したか 2) 暫定、全体計画を確認したか 3) ポンプ台数割を確認したか 4) ポンプ形式、口径を確認したか 5) ポンプ床形式確認したか 6) ポンプ運転水位を確認したか （始動、停止、非常停止） 7) ポンプ揚程を確認したか （計画、実揚程、全揚程）	設計条件の整理、検討書			

基本条件の照査項目一覧表（様式－1）

No.	項目	主 体	内 容	提示資料	照 査 ①		備 考
					該 対 象	照 査	
			8) 吐出ゲートの位置・規模を確認したか 9) 吐出ゲートの形式を確認したか 10) スクリーン、除塵設備の設置数を確認したか 11) スクリーン、除塵設備の形式を確認したか 12) 沈砂池の設置の有無を確認したか 13) 沈砂池の規模を確認したか 14) 運転管理方式を確認したか 15) 原動機の種類・容量を確認したか 16) 原動機方式を確認したか 17) 自家発電設備の容量を確認したか 18) 予備発電装置を確認したか 19) 冷却方式を確認したか 20) 冷却設備の方法を確認したか 21) 冷却水槽の有無及び容量を確認したか 22) 天井クレーンの形式・容量・揚程等を確認したか 23) ホンブ運転時間の設定を確認したか 24) 燃料槽の容量を確認したか 25) 騒音規制を確認したか				

基本条件の照査項目一覧表（様式－1）

No.	項目	主 内 容	提示資料	照 査 ①		備 考
				該 当	照 査 対 象	
	②土木関係	<p>26) ゴミの収集方式及び処理方法を確認したか</p> <p>27) 非常用のゲート操作は確認したか</p> <p>28) ポンプ設備等の搬入方法を確認したか</p> <p>1) 機揚設置位置と全体配置は適正か</p> <p>2) 吸水槽の深さ、幅は適正か</p> <p>3) 渦流防止等の配慮は適当か</p> <p>4) 角落し等の施設が考慮されているか</p> <p>5) ポンプ室、エンジン室の高さは適正か</p> <p>6) スクリュー受の構造諸元は適正か</p> <p>7) 吐出水槽の設置位置、規模は適正か</p> <p>8) 吐出樋管の構造形式を確認したか</p> <p>9) 樋管の計画諸元は適正か (設置位置、規模、断面、敷高、河道計画との整合)</p> <p>10) 樋管上屋の有無を確認したか</p> <p>11) 基礎形式の基本方針を把握したか</p> <p>12) 護岸タイプを把握したか</p> <p>13) 取付水路の形式を把握したか</p>	設計条件の整理・検討書			

基本条件の照査項目一覧表（様式－1）

No.	項目	主な内容	提示資料	照査①		備考
				該対象	照査	
		<p>14) 吐出先の洗掘に対する検討</p> <p>15) 塩害対策の有無</p> <p>16) 機場完成後の維持管理に対し検討をしたか（内外水位計、照明設備、情報の伝達の方法、管理運転等）</p> <p>17) 仮設（土留方法等）は適切か</p> <p>③建築関係</p> <p>1) 機場上屋の位置・規模（階層、面積）を確認したか</p> <p>2) クレーンの規模を確認したか</p> <p>3) 諸室のスペース、配置を確認したか</p> <p>4) 上屋の構造形式を確認したか</p> <p>5) 常駐人員、操作人員を確認したか</p> <p>6) 見学者対応の方針を把握したか</p> <p>7) 身障者対応の方針を把握したか</p> <p>8) 外構整備の方針を把握したか</p> <p>1) 地層構成の把握は妥当か</p> <p>2) 土質定数の設定は妥当か</p> <p>3) 支持力、地盤バネ値の設定は妥当か</p> <p>4) 地下水等の設定は妥当か</p>	設計条件の整理・検討書			
5	地盤条件		基礎工検書			

基本条件の照査項目一覧表（様式－1）

No.	項目	主な内容	提示資料	照査①		備考
				該当	照査対象	
6	設計震度	5) 追加調査の必要性はないか 6) 軟弱地盤として検討する必要性を確認したか (圧密沈下・液状化・地盤支持力・法面決定・側方移動等)	基礎工検討書			
7	使用材料	1) 地盤種別は妥当か 2) 水平震度は妥当か 使用材料の規格、許容応力度は妥当か	震度検討書 設計応力度一覧表			
8	地形条件	1) 用地境界を確認したか 2) 施工ヤード、スペースを確認したか	用地境界図			
9	施工上の基本条件	1) 施工条件の基本を確認したか (搬入路、施工ヤード、水の切廻し、一般交通の切り回し) 2) 旧施設の撤去方法を確認したか 3) 工事時期を確認したか 4) 漁業への影響調査を確認したか 5) 地下水への影響を確認したか				
10	関連機関との調整	関連機関（他の河川管理者との調整、道路管理者との調整）との調整内容を確認したか	協議書など			
11	貸与資料	貸与資料の不足点、追加事項はあるか	業務計画書			

基本条件の照査項目一覧表（様式－1）

No.	項目	主 体	主 要 内 容	提示資料	照 査 ①		備 考
					該 対 象	照 査	
1 2	景観設計		1) 景観設計の必要性、方針、グレードを 理解したか 2) 景観設計の具体的方法、作成すべき資 料等は明らかとなっているか	業務計画書			
1 3	現地踏査		1) 地形、地質、現地状況（流況、河床、 排水系統、現場周辺の土地利用、建物 ）を把握したか 2) 河川の利用条件（漁業への影響、舟溜 り等の有無）を把握したか 3) 交通状況、進入道路等、周辺の道路状 況を把握したか 4) 環境状況（工事における振動、騒音、 防臭、防虫等の配慮面）を把握したか 5) 支障物件（地下埋設物、架空条件の整 理、既設樋管との離れ度）の状況を把 握したか 6) 付帯施設の有無、旧施設撤去及び電力 源等有無を把握したか 7) 法令、条件に関する調査の必要性があ るか 8) 出来上りがりの環境面を配慮した自然環 境、周辺環境を把握したか 9) 排水先の水質状況を確認したか	現場写真化			

基本条件の照査項目一覧表（様式－1）

（追加項目記入表）

No.	項 目	主 体	な 内 容	提 示 資 料	照 査 ①		備 考
					該 当 対 象	照 査	



細部条件の照査項目一覧表  
( 照査 ② )

業務名： \_\_\_\_\_

発注者名： \_\_\_\_\_

受注者名： \_\_\_\_\_

照査の日付： \_\_\_\_\_ 平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項目	主な内容	提示資料	照査②		備考
				該当対象	照査	
1	一般図	1) 一般平面図、縦断面図、横断面図は妥当か（様式－１設計基本条件との整合を図られているか）	全体計画図			
2	機場本体工（吸水槽）	1) 機電設備との整合はなされているか 2) 機場上屋計画との整合はとれているか 3) 渦流防止等の配慮はなされているか 4) 騒音、振動等に配慮した構造となっているか 5) 維持管理の配慮はされているか（点検口、タラップ等） 6) 構造諸元は妥当か（鉄筋かぶり、ピッチ、継手、折曲げ位置等） 7) 吸水槽の深さ、幅は適当か 8) 角落し等の施設は考慮されているか 9) 非常用ゲート操作は妥当か	一般構造 一般構造 一般構造 一般構造 一般構造 一般構造 設計条件の整理、検討書	図図 図図 図図 図図 図図 図図		
3	機場上屋	1) 機電設備との調和がされているか 2) 土木構造との整合はとれているか	一般構造 一般構造	図図 図図		

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項目	主 体	内 容	提示資料	照 査 ②		備 考
					該 対 象	照 査	
4	スクリーン受、吐出水槽 ①スクリーン受	3) 操作員、事務所等の居住空間及び環境を確保したか 4) 上屋高さ制限をクリアしているか 5) 日照時間のチェックはしたか 6) 環境基準を確認したか 7) 防音対策は適当か 8) 意匠計画は妥当か 9) 構造諸元は妥当か 10) 設備設計は妥当か 11) 建築関係法規等と確認したか 12) 電波障害の対策は必要ないか 1) 一次スクリーン、二次スクリーンの位置は適正か 2) スクリーンの形式、勾配、材質は適切か 3) 除塵設備を設置するスペースは適当か 4) ゴミの収集スペース及び焼却方法を確認したか	図 図 一 般 構 造 設計条件の 整理、検討 書 " " 設計調書 設計調書 設計調書				

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項目	主な内容	提示資料	照査②		備考
				該当対象	照査	
	②沈砂池	1) 沈砂池の設置の有無を確認したか 2) 流入部で偏流が生じないか 3) 沈砂池の大きさ、流速は妥当か 4) 揚圧力を考慮しているか 5) 床版厚は適当か 6) 安全対策は配慮したか	設計条件の整理・検討書			
	③吐出水槽	1) サージングを考慮した高さとしているか 2) 計画堤防高以上の高さとなっているか 3) 前後の構造物と絶縁しているか 4) 形状、敷高は妥当か 5) 機械設備との調整がされているか 6) 維持管理の配慮がされているか 7) 安全対策はされているか 8) 堤防定規断面との位置関係は適当か	設計条件の整理・検討書			
	④構造細目	構造細目は妥当か (鉄筋かぶり、ピッチ、継手、折曲げ位置等)				
5	吐出樋管	(樋門・樋管詳細設計照査要領による)				

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項目	主旨	内容	提示資料	照査②		備考
					該対象	照査	
6	付帯設備		1) 水位観測施設、安全施設の配置は妥当か 2) 上屋重油タンクの配置・規模は妥当か 3) 飲料水、洗浄水の位置は適当か				
7	外構設計		1) 施設配置は妥当か 2) 排水計画は妥当か				
8	取付水路工		1) 範囲、設置位置は妥当か				
9	護岸工、階段工		2) 水路護岸の設置高さは妥当か 1) 護岸工の範囲、設置位置は妥当か 2) 護岸工の設置高さ、形式は妥当か 3) 階段工の構造は妥当か 4) 階段工の法面保護の範囲は妥当か				
10	冷却水槽		1) 冷却水槽の有無は確認しているか 2) 冷却水槽の容量は確保されているか				
11	燃料槽		照査1と重複 1) 容量は確保されているか 2) 消防法との整合を図っているか				

細部条件の照査項目一覧表（様式一２）

No.	項目	主な内容	提示資料	照査②		備考
				該当 対象	照査	
1 2	基礎工	1) 形式、寸法は妥当か (杭の場合、杭種、杭径等) (直接基礎の場合、沈下量等の検討) 2) 支持層への根入れは妥当か 3) ネガティブフリクションの照査を行ったか 4) 施工方法は環境面を考慮して選定しているか 5) 構造諸元（杭頭処理、継手）は妥当か 6) 遮水矢板の配置、長さは妥当か 7) 液状化の検討は妥当か 8) 杭の配置は上部からの荷重伝達を配慮しているか 9) 杭の最小、最大間隔を配慮しているか 1) 対策工の目的及び工法は妥当か 2) 対策工の効果の判定及び範囲は妥当か 1) 施工時期、他工事との整合がとれた施工手順であるか 2) 打合せ事項は反映されているか 3) 環境への配慮はされているか	比較検討書			
1 3	軟弱地盤対策工					
1 4	施工計画		施工計画書			
			施工計画書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

No.	項目	主 体 内 容	提示資料	照 査 ②		備 考
				該 対 象	照 査	
15	仮設備	<p>1) 仮締切堤の構造、高さは妥当か</p> <p>2) 仮締切堤設置時の河川の流下能力は考慮されているか</p> <p>3) 水路切廻し時の安全性は妥当か</p> <p>4) 工事用道路（長尺物等の搬入径路）の径路は妥当か</p> <p>5) 地下水対策は妥当か</p> <p>6) 土留工法は妥当か 既設構造物への影響が少ないか</p> <p>7) 掘削の法面形状は妥当か</p> <p>8) 旧施設の撤去方法は妥当か</p> <p>9) 施行性、安全性の面から総合的に工法を比較選定しているか</p> <p>10) 土圧、水圧荷重の設定値は妥当か</p> <p>11) 根入れの設定は妥当か (釣合い深さ、支持、ポーリング、ヒービング、円弧スベリ、盤ぶくれ等)</p>	施工計画書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－2）

（追加項目記入表）

No.	項 目	主 体	主 要 内 容	提 示 資 料	照 査 ②		備 考
					該 対 象	照 査	



# 成果品の照査項目一覧表 ( 照査 ③ )

業務名： \_\_\_\_\_

発注者名： \_\_\_\_\_

受注者名： \_\_\_\_\_

照査の日付： 平成 年 月 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

成果品の照査項目一覧表（様式－3）

No.	項 目	主 要 な 内 容	提 示 資 料	照 査 ③		備 考
				該 当 対 象	照 査	
1	設計計算（土木）	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 安定計算結果は許容値を満たすか（撓み量、変位量、安定に対する安全度）</li> <li>2) 荷重、許容応力度の取り方は妥当か</li> <li>3) 荷重図、モーメント図等は描かれているか</li> <li>4) 施工を配慮した計算となっているか</li> <li>5) 作用応力度は許容値を満たすか</li> </ul>	設計計算書			
2	建築設計	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 荷重、許容応力度の取り方は妥当か</li> <li>2) 作用応力度は許容値を満たすか</li> <li>3) 設備容量計算は適正か</li> </ul>	設計計算書			
3	基礎工	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 杭径、杭配置は適正か</li> <li>2) 杭頭処理、杭の継手位置は適正か</li> <li>3) 地盤改良の配置は適正か</li> </ul>	設計計算書			
4	設計図	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 縮尺は共通仕様書、特記仕様書と整合しているか</li> <li>2) 全体一般図等に必要項目が記載されているか（水位、地質条件等）</li> <li>3) 使用材料は計算書と一致しているか</li> </ul>	設計図			

成果品の照査項目一覧表（様式－3）

No.	項目	主 体	内 容	提示資料	照 査 ③		備 考
					該 当	照 査 対 象	
			<p>4) 構造詳細は、適用基準及び打合せ事項と整合するか</p> <p>5) 各設計図がお互いに整合されているか            ・一般平面図と縦断図            ・構造図と配筋図            ・構造図と仮設図</p> <p>6) 設計計算書の結果が正しく図面に反映されているか（特に応用計算、安定計算等が適用範囲も含めて整合されているか）            ・壁厚            ・鉄筋位置、ピッチ、長さ、使用材料、ラップ位置、圧状、寸法            ・鋼材形状、使用材料            ・その他</p> <p>7) 取り合い部の構造寸法は適正か</p> <p>8) 解り易い注記が記載されているか</p> <p>9) 計算結果に基づいた、適切な配筋がなされているか</p> <p>10) 水位等、設計条件が図面に明示されているか</p> <p>11) 図面が明瞭に描かれているか（構造物と寸法線の使い分けがなされているか）</p>	設計図			

成果品の照査項目一覧表（様式－3）

No.	項目	主 要 内 容	提示資料	照 査 ③		備 考
				該 対 象	照 査	
6	施工計画並びに仮設備設計	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 数量計算は数量算出要領及び打合せ事項と整合しているか (有効数字、位取り、単価、区分…)</li> <li>2) 数量計算に用いた寸法は図面と一致するか</li> <li>3) 数量取りまとめは、種類ごとに、材料ごとに打合せ区分にあわせてまとめられているか</li> <li>4) 数量計算の照査がなされているか</li> </ul>	数量計算書			
7	設計調書	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 施工法が妥当であるか</li> <li>2) 経済性、安全性が配慮されているか</li> <li>3) 工事中の環境面が配慮されているか</li> <li>1) 調書の記入は適正になされているか (吐出種管については、樋門・樋管詳細設計要領を利用)</li> </ul>	施工計画 仮設計書 設計調書			
8	報告書	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 報告書の構成は妥当か</li> <li>2) 設計条件の考え方が整理されているか</li> <li>3) 比較検討の結果が整理されているか</li> <li>4) 工事発注に際しての留意事項が記述されているか</li> </ul>	報告書			
9	TECRIS	TECRISの登録を行ったか				

成果品の照査項目一覧表（様式－3）

（追加項目記入表）

No.	項 目	主 体	内 容	提 示 資 料	照 査 ③		備 考
					該 対 象	照 査	

排水機場詳細設計調書 ( / )

業務名	
機場名	
河川名	
所在地	
発注者名	
受注者名	
管理技術者	
照査技術者	
作成年月日	平成 年 月 日

# 排水機場詳細設計調書 ( / )

## 設計概要

工事名称		発注者名	
所在地		設計者名	
主要用途		敷地面積	㎡
都市計画区域	計画区域内、計画区域外	建築面積	㎡
防火地域	指定有、指定無	延面積	㎡
その他の地域指定		容積率対象床面積	㎡
建ぺい率	%	" 対象外床面積	㎡
容積率	%	建ぺい率	%
道路種別	国道、県道、市道、町道、村道、私道	容積率	%
工事範囲	土木工事 建築工事 機械設備工事 換気設備工事 空調設備工事 浄化槽工事 外構工事	道路幅員	東 m、西 m、南 m、北 m
構造	式 (無)	構造	R C構造 , S R C造
含	一 一 一 有 一	階数	地下 階、地上 階、塔屋 階
昇降機設備工事		工事種別	新築、増築、改築
機械設備工事		各階床面積	
換気設備工事			
空調設備工事			
浄化槽工事			
外構工事			

# 排水機場詳細設計調書 ( / )

## ポンプ排水設備諸元

総排水量		m <sup>3</sup> /s	
主 ポ ン プ	形 式		
	口 径	(mm)	
	吐 出 量	(m <sup>3</sup> /s)	
	台 数		
	設計実揚程	(m)	
原 動 機	定格出力	(kw)	
	形 式		
冷却方式			
		吸水槽	吐出水槽
計 画 水 位	高水位 (許容湛水位)		
	運 転 開 始 水 位		
	運 転 停 止 水 位		
	運 転 可 能 最 低 水 位		

自家発電設備	出力 KVA ×	台, 形式
自家発原動機	出力 kw ×	台, 形式
商 用 電 源	KW (特高、高圧、低圧)	
除 塵 機	設置箇所	ヶ 所, 形 式
燃料貯油槽	容 量	Kl. 形 式

吐出 ( 繩管 ) グローブ

形 式	門 数	
形状寸法	純径間 m × 扉高 m	
開閉荷重	開時 t, 閉時 t	
開閉装置	形式	t 用



排水機場詳細設計調書 ( / )

土木関係①

項目	細目	決定事項	決定根拠 (基準、その他)	備考
1. 機場本体	1) 吸水槽流入部数高			
	2) 吸水槽吸込口数高			
	3) ポンプ設置フロアー高			
	4) 原動機設置フロアー高			
	5) 吸水槽有効幅			
	6) 搬入口幅			
	7) 流水方向延長			
	8) 流水直角方向延長			
2. 吐出水槽	1) 水槽幅			
	2) 水槽長さ			
	3) 水槽天端高さ			
	4) 水槽数高			
	5) 堤防からの離れ			

排水機場詳細設計調書 ( / )

土木関係②

項目	細目	決定事項	決定根拠 (基準、その他)	備考
3. スクリン受 (一次)	1) 有効幅員			
	2) 流水直角方向延長			
	3) 流水方向延長			
4. スクリン受 (二次)	1) 有効幅員			
	2) 流水直角方向延長			
	3) 流水方向延長			
5. 沈砂池	1) 沈砂池幅			
	2) 沈砂池長			
	3) 沈砂池敷高			
6. 吐出樋管	1) 設計流速			
	2) 樋管断面			
	3) 樋管敷高			
	4) 設置位置			

排水機場詳細設計調書 ( / )

機電関係①

項目	細目	決定事項	決定根拠 (基準、その他)	備考
1. 主ポンプ関係 (1) 平面計画 (2) 立面計画	1) 機場全体寸法	流水方向 流水直角方向 m m		
	1) 高さ	エンジン室側 管理室側 GL GL		
2. 補機関係	2) 基本柱間隔	柱芯 桁行 梁行 m m		
	1) エンジン室梁間及び高さ	柱芯間距離 床～梁下間高さ m m		
	2) クレーン型式容量	型式…容量 トン		
	3) 換気設備	方式…容量 m <sup>3</sup> /s × 台		
	4) エンジン室搬入口寸法	高さ m 幅 m		
	5) 電気室天井高さ	m		
	6) 操作室天井高さ	m		
	7) 電気室・操作室搬入口	高さ m 幅 m		
8) 煙突の諸元	方式…形状内径 高さ m × m			

排水機場詳細設計調書 ( / )

建築関係①

項目	細目	決定事項	決定根拠 (基準、その他)	備考	
1. デザイン	デザイン仕上等				
	2. 構造関係	1) 地震係数		建築基準 土木に一致	
2) 構造型式					
3) 使用材料等		コンクリート 鉄筋 鉄骨	FC=21N/mm <sup>2</sup> SD345(D16以下は SD295使用) SS400		
4) 各所部材厚		床版	t=	M/M	
		壁	t=	M/M	
	階段	t=	M/M		
	壁	t=	M/M		
	壁	t=	M/M		
5) 各室の床積載荷重					

排水機場詳細設計調書 ( / )

建築関係②

項目	細目	決定事項	決定根拠 (基準、その他)	備考
3. 設備関係 (1) 給排水 衛生設備	1) 給水設備	飲料水 洗浄水		
	2) 給湯設備設置個所	浴室、台所、湯沸室		
	3) 排水設備	浄化槽、公共下水道		
	4) ガス設備	L P G、都市ガス		
	5) 防災設備			
	6) 換気設備	エンジン室 ボンプ室… 展示室 電気室… その他…		
	7) 空調設備			
(2) 電気設備	1) 幹線設備 (100V)			
	2) 動力設備 (200V)			
	3) 電灯設備	照度 ボンプ室 エンジン室 動力室 展示ホール 操作室等 事務室等	ワックス ワックス ワックス ワックス ワックス ワックス	
	4) 電話配管設備	・端子盤設置位置 ・設置個所		

排水機場詳細設計調書 ( / )

建築関係③

項目	細目	決定事項	決定根拠 (基準、その他)	備考	
5. 外構整備	5) テレビ共聴設備	屋上アンテナ設置箇所			
	6) 放送設備	アンテナ設置箇所			
	7) インターホン設備	方式接続箇所			
	8) 自動火災報知器設備	受信機設置箇所 副受信機設置箇所			
	9) 避雷針設備				
	1) 施設配置				
	2) 排水施設、排水先				

# 排水機場詳細設計調書 ( / )

## 基礎工① 杭基礎

構造物名	仕様				鉛直支持力 (t/本)	杭の応力度 (kg/cm <sup>2</sup> )		杭頭変位量		杭の打込工法	備考	
	杭種	杭径 (mm)	長さ (m)	杭本数 (本)		杭頭条件	状態	圧縮応力度 許容値 計算値	引張応力度 許容値 計算値			計算値
						常時						
						地震時						
						常時						
						地震時						
						常時						
						地震時						
						常時						
						地震時						
						常時						
						地震時						

基礎工② 軟弱地盤対策工及び直接基礎

構造物名	軟弱地盤対策工の有無及び目的	軟弱地盤対策工の種類	対策工の範囲	対策工の効果	支持力(度)		備考
					計算値(t/m <sup>2</sup> )	許容値(t/m <sup>2</sup> )	



# 排水機場詳細設計調書 ( / )

応力度照査表

構造物名

○計算モデル (骨組図、荷重図、応力図等を記入)

応力照査位置						
断面力	曲げモーメント M (t・m)					
	軸力 N (t)					
	せん断力 S (t)					
部材	厚 (cm)					
使用鉄筋						
鉄筋量 A s						
発生応力	$\sigma_c$ (kg/cm <sup>2</sup> )					
	$\sigma_s$ (kg/cm <sup>2</sup> )					
	$\tau_a$ (kg/cm <sup>2</sup> )					
許容応力	$\sigma_c$ (kg/cm <sup>2</sup> )					
	$\sigma_s$ (kg/cm <sup>2</sup> )					
	$\tau_a$ (kg/cm <sup>2</sup> )					
決定したケース						

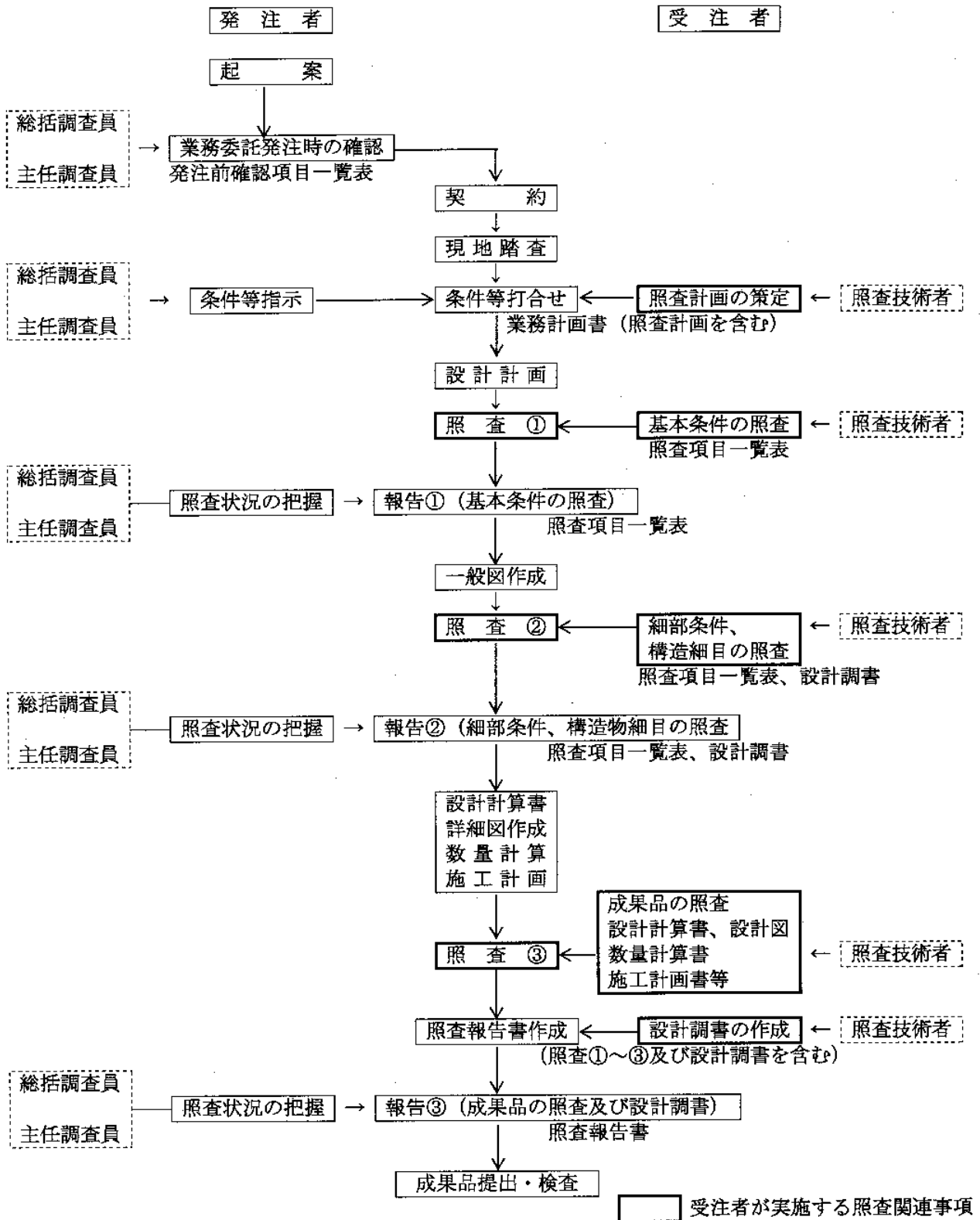


築堤護岸詳細設計照査要領

平成10年4月



# 築堤護岸詳細設計の照査フローチャート



注 記 ※ 照査②の段階より、設計調書の有効活用を図る。  
 ※※ 工程に関わる照査・報告①②③の時期は、業務計画書提出時に打ち合わせにより設定する。



# 発注前確認項目一覧表

業務名： \_\_\_\_\_

発注者名： \_\_\_\_\_

確認の日付： 平成 年 月 日

発注者印	総括調査員	主任調査員

発注前確認項目一覧表

NO	項目	主な内容	確認資料	該当対象	確認	備考
1	設計の目的、主旨	1) 築堤護岸整備の目的が明確になっているか	特記仕様書、共通仕様書			
2	設計の範囲、内容、数量、履行期間	1) 設計の範囲、内容、数量、履行期間は決定しているか	特記仕様書			
3	水域名、築堤、護岸名、設計画区間、工事時期	1) 水域名(河川名、池名等)は決定しているか 2) 築堤名又は護岸名は決定しているか 3) 設計区間は決定しているか 4) 工事時期は決定しているか				
4	河道条件	1) 計画高さ(堤防、高水位、高水敷、河床)は決定しているか 2) 法線(堤防、低水路)は決定しているか 3) 河道条件(縦断勾配、水衝部、河床材料等)を把握しているか 4) 現況河道の整備状況を把握しているか	改修計画調書			
5	現地踏査	1) 既設構造物及び現在の取付状況等 2) 支障物件はあるか	1) 写真、既工事竣工図、既設計図面 2) 支障物件構造図、既設計図面			
6	設計基本条件	1) 築堤の計画断面及び施工断面は決定しているか 2) 護岸形式は決定しているか 3) 護岸基礎形式は決定しているか 4) 根固めブロック形状、ブロック重量は決定しているか 5) 考慮すべき特殊条件は明確になっているか 又は特殊条件を明確にする資料はあるか (水衝部、旧川跡、漏水部、軟弱地盤、耐震設計対象区域、環境条件等) 6) 安定計算等が必要な時の許容値、計算方法が決定しているか、又は受注者に提案させるための資料はあるか (内部検討による問題点、他事例の問題点など) 7) 締切水位は決定しているか、又は水文資料はあるか 8) 頻替、水替時流量決定のための、水文資料等はあるか 9) 坂路、階段位置、側帯、車輦交換場所は決定しているか	1) 標準横断面図 2) " " 3) " " 4) " " 5) 旧川図、漏水調査書、地質縦断面図、被災記録、流向ベクトル図 7) 水文資料(植誌等) 8) "			



発注前確認項目一覧表

NO	項目	主な内容	確認資料	該当対象	確認	備考
7	施工上の基本条件	<p>10) 多自然型、新工法等を適用するか(基本構想ができていないか)</p> <p>11) 用排水系統を確認しているか</p> <p>12) 暫定施工等となるか</p> <p>13) 移設施設はあるか</p> <p>14) 現況河川区域の確認を行ったか</p> <p>1) 運搬路、切廻し河道、ヤード確保の見通しはあるか</p> <p>2) 全体工程が明確になっているか</p> <p>3) 工期割は決定しているか</p> <p>4) 地元要望の施工条件があるか</p> <p>5) 周辺の土地利用状況(市街地地下水利用等)を把握しているか</p>	<p>14) 河川区域図</p> <p>1) 地形図</p> <p>2) 事業工程表</p> <p>3) 平面図</p>			
8	関連機関との調整	<p>1) 他の工作物管理者との調整は済んでいるか</p> <p>2) 地権者及び地元等との調整は済んでいるか</p> <p>3) 占有者との調整は済んでいるか</p>	<p>1) 関連機関との協議書など</p>			
9	資料の確認	<p>1) 改修計画の内容(平面、横断、縦断)</p> <p>2) 最深河床等の資料はあるか</p> <p>3) 測量成果(平面、横断、縦断)は整理されているか</p> <p>4) 地質調査報告書は整理されているか 追加ボーリングは必要ないか 軟弱地盤の判定に必要な資料はあるか (圧密沈下、液状化、地盤支持力、法面安定、側方移動等)</p> <p>5) 用排水路系統図は整理されているか</p> <p>6) 既設工作物の構造諸元は整理されているか</p> <p>7) 埋設物台帳は整理されているか</p> <p>8) 関連する設計資料はあるか (例えば隣接工区の計算書、類似設計図、高水敷利用計画図等)</p> <p>9) 環境管理基本計画書、環境調査報告書及び水辺の国勢調査成果はあるか</p>	<p>1) 改修計画の平面図 横断図、縦断図</p> <p>2) 定期横断面図等</p> <p>3) 測量成果</p> <p>4) 地質調査報告書 地質推定縦断面図</p> <p>5) 用排水系統図</p> <p>6) 構造図</p> <p>7) 埋設物台帳</p> <p>8) 関連する設計資料</p>			8) 協議により資料提示
10	環境への配慮	<p>1) 環境への配慮を行っているか</p> <p>2) 方針、内容は決定しているか</p>	<p>特記仕様書</p>			

発注前確認項目一覧表

NO	項目	主な内容	確認資料	該当対象	確認	備考
11	成果品	3) 環境(多自然型、親水性等)の検討に必要な資料は整理されているか 1) 成果品の内容(部数、サイズ)は決定しているか 2) パースの必要性の有無が決定しているか				

(追加項目記入表)

発注前確認項目一覧表

NO	項目	主な内容	確認資料	該当対象	確認	備考

# 基本条件の照査項目一覧表 ( 照査 ① )

業 務 名：

---

発 注 者 名：

---

受 注 者 名：

---

照 査 の 日 付： 平成 年 月 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

基本条件の照査項目一覧表（様式－1）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査①		備考
				照査対象	照査	
1	設計の目的、設計範囲	1) 目的、設計範囲を理解したか	業務計画書			
2	水域名、築堤・護岸名 設計区間、工事時期	1) 水域名（河川名、池名等）は確認したか 2) 築堤名又は護岸名は確認したか 3) 設計区間は確認したか 4) 工事時期は確認したか	業務計画書			
3	河道条件	1) 計画高さ（堤防、高水位、高水敷、河床）は適正か 2) 法線（堤防、低水路）は適正か 3) 座標と基準点は適正か	設計条件整理検討書			
4	現地踏査	1) 地形、地質、現地状況を把握したか 2) 環境状況（騒音、振動等の配慮面）を把握したか 3) 既設構造物及び取付状況等を把握したか 4) 支障物件の状況を把握したか	設計条件整理検討書			
5	設計基本条件	1) 築堤の計画断面及び施工断面は適正か 2) 護岸形式は適正か 3) 護岸基礎形式は適正か 4) 根固めブロック形状、ブロック重量は妥当か 5) 考慮すべき特殊条件は確認したか （水衝部、旧川跡、漏水部、軟弱地盤、耐震設計対象区域、環境条件等） 6) 安定計算の許容値、計算方法は確認したか 7) 締切水位は適正か 8) 瀬替、水替時流量は確認したか 9) 坂路、階段位置、側帯、車輛交換場所は適正か 10) 多自然型、新工法等は環境に適合しているか 又、河川特性等を考慮したか 11) 用排水系統は適正か 12) 暫定施工等について検討するのか 13) 移設施設処理は適正か 14) 現況河川区域は確認したか 15) 関連する設計と整合はとれているか	設計条件整理検討書			

基本条件の照査項目一覧表（様式—1）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査①		備考
				照査対象	照査	
6	地盤条件	1) 土質定数の設定は妥当か 2) 地下水位の設定は妥当か 3) 追加調査の必要はないか 4) 軟弱地盤かどうかの調査は必要か 5) 軟弱地盤として検討する条件を確認したか (圧密沈下、液状化、地盤支持力、法面安定、側方移動等)	設計条件整理検討書			
7	設計震度	1) 地盤種別は妥当か 2) 水平震度は妥当か	震度検討書			
8	使用材料	1) 使用材料と規格、許容応力度は妥当か 2) プレキャスト材の使用を確認したか 3) 新材料の適用の可能性を確認したか	許容応力度一覧			
9	地形条件	1) 現況の用地境界を確認したか 2) 施工ヤード、スペースを確認したか	地形図			
10	施工条件	1) 運搬路、切廻し河道、ヤード確保を確認したか 2) 全体工程を理解したか 3) 工期割は妥当か 4) 暫定施工条件等の段階施工条件はあるか 5) 周辺の土地利用条件を確認したか				
11	関連機関との調整	1) 他の工作物管理者との調整内容を理解したか 2) 地権者及び地元等の調整内容を理解したか 3) 占有者との調整内容を理解したか				
12	貸与資料の問題点	1) 貸与資料の不足点、追加事項があるか	業務計画書			
13	環境への配慮	1) 環境への配慮の必要性、方針、内容、範囲等が理解されたか 2) 環境に配慮する具体的方法、作成すべき資料等は明らかとなっているか	基本計画書			

(追加項目記入表)

基本条件の照査項目一覧表（様式—1）

NO	項 目	主 な 内 容	提示資料	照 査 ①		備 考
				該 当 対 象	照 査	

細部条件の照査項目一覧表  
( 照査 ② )

業 務 名: \_\_\_\_\_

発注者名: \_\_\_\_\_

受注者名: \_\_\_\_\_

照査の日付: 平成 年 月 日

受注者印	照査技術者	管理技術者



細部条件の照査項目一覧表（様式一2）

NO	項 目	主 な 内 容	提示資料	照 査 ②		備 考
				該 当 対 象	照 査	
1	一般図	1) 全体平面図（法線、取付等）は妥当か 2) 横断面は妥当か 3) 様式一1の設計基本条件との整合がはかられているか 4) 取付工の形状は妥当か	一般図			
2	堤体	1) 堤防断面（計画断面、施工断面等）は妥当か 2) 盛土端部のすりつけは妥当か 3) 特殊条件を考慮しているか 4) 不良土除去を考慮しているか 5) 既設構造物（既設護岸等）の対応方法は妥当か 6) 築堤材料区分は妥当か 7) 特殊条件を考慮しているか	計画検討書			
3	環境への配慮	1) 特別に環境に配慮したか 2) 環境条件は十分把握されたか 3) 環境への適合性は妥当か	計画検討書			
4	法覆工	1) 基礎工の根入深さは適正か 2) 基礎矢板の根入深さは妥当か 3) 帯工及び目地の配置は妥当か 4) 材料使用区分（プレキャスト・場所打ちの使用区分・部材の重量等）は妥当か	計画検討書			
5	矢板護岸	1) 検討ケースの設定は妥当か 2) 矢板の型式は妥当か 3) コーピングの大きさは妥当か 4) 継手効率は妥当か 5) 腐食による低減率は妥当か 6) 許容値、計算方法は正しいか 7) 洗掘深は妥当か 8) 施工方法を配慮しているか 9) 解析手法は妥当か 10) 土圧及び水圧の考え方は妥当か（荷重図） 11) 変位の状況は妥当か、また矢板最小根入れ長は妥当か	計画検討書  10) 荷重図			

細部条件の照査項目一覧表（様式-2）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査②		備考
				照査対象	照査	
6	コンクリート擁壁	<p>12) 特殊条件を考慮しているか</p> <p>13) 控え式の場合の控え形式は妥当か</p> <p>14) 控え式の場合の控え位置は妥当か</p> <p>15) 控え式の場合の緊張材は妥当か</p> <p>16) 材料使用区分は妥当か</p> <p>1) 最小部材厚は妥当か</p> <p>2) 裏込土、埋戻土の種類と土圧及び水圧の考え方は妥当か</p> <p>3) 適用基準は正しいか</p> <p>4) 洗掘深は妥当か</p> <p>5) 根入深さは妥当か</p> <p>6) 特殊条件を考慮しているか</p> <p>7) 施工法を配慮しているか</p> <p>8) 材料使用区分は妥当か</p> <p>9) 構造細目は妥当か (鉄筋かぶり、ピッチ、継手、折り曲げ位置、段落し…)</p>	計画検討書			
7	基礎工	<p>1) 基礎形式は妥当か</p> <p>2) 形式寸法は妥当か (杭の場合、杭種、杭径等)</p> <p>3) 支持層への根入れは妥当か、又支持層選定は妥当か</p> <p>4) ネガティブフリクションの照査を行っているか</p> <p>5) 適用基準は正しいか</p> <p>6) 特殊条件を考慮しているか</p> <p>7) 施工方法は環状面を考慮して選定しているか</p> <p>8) 材料使用区分は妥当か</p> <p>9) 構造細目は妥当か (杭頭処理、継手…)</p>	計画検討書			
8	根固工	<p>1) 根固工の施工延長及び施工断面は妥当か</p> <p>2) 洗掘深、設計河床高との整合は妥当か</p> <p>3) プロック重量は妥当か</p>	計画検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式-2）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査②		備考
				照査対象	照査	
9	用排水路工	1) 堤防定規断面を侵していないか（2Hルール） 2) 水路の流下能力は妥当か 3) 法尻処理としての構造は妥当か 4) 河川法上の取扱いは検討したか	計画検討書			
10	坂路工、階段工	1) 位置は妥当か 2) 形式、形状寸法は妥当か 3) 堤防定規断面との関係は妥当か	計画検討書			
11	施工計画	1) 施工手順は妥当か 2) 仮締切工の構造及び高さは妥当か 3) 地下水位の設定は妥当か 4) 地下水対策は妥当か 5) 水路切廻しの安全性は妥当か 6) 工事用道路の経路は妥当か 7) 掘削の法面形状は妥当か 8) 環境対策（騒音、振動等）は妥当か	施工計画検討書			
12	軟弱地盤対策工	1) 対策工の目的及び工法は妥当か 2) 対策工の効果の判定及び範囲は妥当か 3) 安定計算、沈下量、液状化検討は妥当か				

細部条件の照査項目一覧表（様式—2）  
 （追加項目記入表）

NO	項 目	主 な 内 容	提示資料	照 査 ②		備 考
				照 査 該 当 対 象	照 査	

# 成果品の照査項目一覧表 ( 照査 ③ )

業務名： \_\_\_\_\_

発注者名： \_\_\_\_\_

受注者名： \_\_\_\_\_

照査の日付： 平成 \_\_\_\_ 年 \_\_\_\_ 月 \_\_\_\_ 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

成果品の照査項目一覧表（様式－3）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査③		備考
				該当対象	照査	
1	設計計算書	<p>1) 安定計算結果は許容値を満たしているか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全率</li> <li>・変位量</li> <li>・許容応力度</li> <li>・根入れ長さ</li> </ul> <p>2) 許容値の取り方は正しいか</p> <p>3) 荷重図、モーメント図が描かれているか</p> <p>4) 施工を配慮した計算となっているか</p>	設計計算書			
2	設計図	<p>1) 縮尺は共通仕様書、特記仕様書と整合しているか</p> <p>2) 平面図には必要な工事内容が明示されているか (法線、堤岸護岸、付属構造物等)</p> <p>3) 小構造物設計図面は出典が明らかか</p> <p>4) 構造物の基本寸法、高さ関係は照合されているか</p> <p>5) 形状寸法、使用材料及びその配置は設計計算書と一致しているか</p> <p>6) 構造詳細は適用基準及び打合せ事項と整合しているか</p> <p>7) 解り易い注記が付いているか</p> <p>8) 水位等設計条件が図面に明示されているか</p> <p>9) 図面が明瞭に描かれているか (構造物と寸法線の使い分けがなされているか)</p> <p>10) 各設計図がお互いに整合されているか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般平面図と縦断面図</li> <li>・構造図と配筋図</li> <li>・構造図と仮設図</li> </ul> <p>11) 設計計算書の結果が正しく図面に反映されているか (特に応力計算、安定計算等の結果が適用範囲も含めて整合されているか)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・壁厚</li> <li>・鉄筋 (径、ピッチ、使用材料、ラップ位置、ラップ長、主鉄筋の定着長、ガス圧接位置)</li> <li>・鋼材形状、寸法</li> <li>・使用材料</li> </ul>	<p>共通仕様書 平面図</p> <p>標準設計 設計図</p> <p>”</p> <p>”</p> <p>”</p>			

成果品の照査項目一覧表（様式—3）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査③		備考
				照査対象	照査	
3	数量計算書	1) 数量計算は数量算出要領及び打合せ事項と整合しているか（有効数字、位取、単位、区分…） 2) 数量計算に用いた寸法は図面と一致するか 3) 数量とりまどめは種類毎、材料毎の打合せ区分に合わせまどめられているか 4) 横断面による面積計算、長さ計算の縮尺は図面に整合しているか 5) 数量計算の照査がなされているか 6) 施工を考慮した数量計算となっているか	数量計算書			
4	施工計画	1) 施工法が整理されているか 2) 経済性、安全性が配慮されているか 3) 工事中の環境面が配慮されているか	施工計画 検討書			
5	設計調書	1) 調書の記入は適正になされているか	設計調書			
6	報告書	1) 報告書の構成は妥当か 2) 設計条件の考え方が整理されているか 3) 比較・検討の結果が整理されているか 4) 工事の発注に際しての、留意事項が記載されているか	報告書			
7	TECRIS	1) TECRISの登録を行なったか				

成果品の照査項目一覧表（様式－3）

（追加項目記入表）

NO	項 目	主 な 内 容	提 示 資 料	照 査 ③		備 考
				該 当 対 象	照 査	



# 築堤護岸設計調書 ( / )

業 務 名	
護 岸 名	
河 川 名	
箇 所 名	
発 注 者 名	
受 注 者 名	
照 査 技 術 者	
管 理 技 術 者	
作 成 年 月 日	平成 年 月 日

1) 基本事項

全体平面図及び標準横断面図

築堤護岸設計調書 (   /   )

河道	河川名	(   ) 級河川                                  川		
	施工箇所 (設置位置)	都・道・府・県 川                                  岸	km ~	市郡                                  km                                  町                                  地先
計画	計画高水流量	Q =                                  (m <sup>3</sup> /s)		
	堤防勾配	I = 1/	平均流速	V =                                  (m/s)
	高水勾配	I = 1/	川幅	B =                                  (m)
	高水敷勾配	I = 1/	低水路幅	B =                                  (m)
諸元	河床勾配	I = 1/	高水敷幅	B =                                  (m)
	河道特性	計画地点の特徴：		
設計	法線の考え方	全体計画との整合、現況河道との関係、上下流の法線との関係について特に留意した事項：		
	周辺環境との調和の考え方	周辺環境との調和について特に留意した事項：		
	方針	築堤の考え方 (特に設計に留意した事項を記述)	計画断面	
施工断面				
余盛の考え方				
基礎処理				
漏水対策				
築堤の目的	対象の築堤は	である。		
		1) 本堤防                                  4) 導流堤                                  7) 湖岸堤 2) 囲繞堤                                  5) 脊割堤                                  8) 越流堤 3) 仕切堤                                  6) 高潮堤                                  9) その他 (                                  )		
築堤盛土形状	築堤盛土形状は	である。		
		1) 前腹付                                  2) 後腹付                                  3) 全体嵩上                                  4) 新規		
築堤形式	築堤形式は	である。		
		1) 土堤                                  2) パラペット堤                                  3) 三面張                                  4) その他 (                                  )		

## 築堤護岸設計調書 ( / )

設計方針	護岸工の考え方 (特に設計に留意した事項を記述)	低水路法線の考え方			
		強度および耐久性			
		護岸の高さの考え方			
		工法選択の考え方	法 覆 工		
	基 礎 工				
	根 固 工				
	護岸の目的	護岸の目的は _____ である。 1) 流路固定                      3) 側方侵食防止                      5) その他 (                      ) 2) 水衝部強化                      4) 波浪・飛沫対策			
	護岸設置位置	護岸設置位置は _____ である。 1) 低水              2) 高水              3) 裏法              4) その他 (                      )			
	護岸形式	法覆形式は _____ である。 1) 練ブロック張 2) 空(連節)ブロック張 3) 練積ブロック張 4) 蛇籠・ふとん籠張 5) プレキャスト法枠 6) 場所打ちコンクリート法枠 7) その他 (                      )	擁壁形式は _____ である。	8) 自立式鋼矢板 9) 控え式鋼矢板 10) ブロック積擁壁 11) もたれ式擁壁 12) コンクリート重力式擁壁 13) 鉄筋コンクリート擁壁 14) 棚式 15) その他 (                      )	
	施工時の配慮	築 堤	段切り施工		
締め固め厚					
護 岸		湧水対策			
		仮設の考え方	工事用道路	幅= _____ (m) 勾配 _____ %	
			資材ヤード	(有) _____ (m <sup>2</sup> )              (無)	
山留め工		形式: _____			
仮締切の考え方		施工期間			
	設計水位				
	構 造				

# 築堤護岸設計調書 ( / )

設計条件	荷重条件等	上 載 荷 重	
		単 位 体 積 重 量	
	基礎地盤条件	支 持 地 盤	
		基 礎 諸 定 数	
	使用材料及び 許容応力度	盛 土 材	
		護 岸 工	
		コ ン ク リ ー ト	
		鉄 筋	
		鋼 矢 板	
		鋼 材	

## 築堤護岸設計調書 ( / )

### 2) 築堤

項目	細別	設計値	基準値	備考
高さ	築堤高	H= m	1 m以下 (0.8m程度以下が望ましい) 計画高水流量による 堤防余盛基準による	各河川の計画による
	パラペット高	H= m		河川管理施設等構造令より
	余裕高	H= m		"
	余盛高	H= m		"
幅	天小端幅	川表側 B= m	計画高水流量による 3 m以上	"
		川裏側 B= m		"
法勾配		1 : ~ 1 :	1 : 2より緩 (安定計算を実施している場合は、安全率1.2以上)	"
軟弱地盤 対策工	目的			
	工法			
	範囲			
	安定度			
	液状化			
	沈下量			
法覆工 の種別	川表H.W.L上 川表H.W.L下 川裏端段 天小端			
付帯工	坂路	堤防定規外に設けている。いない	堤防定規外で下向きにとりつける	
	堤脚水路	下流向にヶ所 堤防定規外に設けている。いない	堤防定規外に設ける	

### 3) 高水護岸

項目	細別	設計値	基準値	備考
護岸形式	環境			
	基礎工			
	法覆工			
法覆工天端高			計画高水位以上	
法勾配		1 :	堤防法勾配と同じ	
基礎工	天端高		計画高水敷高以下	
	高さ	h= m	別途協議	

### 4) 低水護岸

項目	細別	設計値	基準値	備考
護岸形式	環境			
	基礎工			
	法覆工			
法覆工天端高			計画高水敷高	
法勾配		1 :		

築堤護岸設計調書 ( / )

項目	細別	設計値	基準値	備考
法留工 (基礎工)	天端高	m	計画河床又は最深河床から法留工の天端を1.0 m以上深く埋込んで根入れとする それ以外は鋼矢板必要とする。	
	根入れ深さ	m		
	高さ	h= m	別途協議	
	鋼矢板長	L= m 型		
根固工	ブロック重量	t/個	原則として、河川砂防技術基準による。 各河川の計画と整合をとる。	
	根固の幅	m	原則として、河川砂防技術基準による。 各河川の計画と整合をとる。	
天保護端工	設置の有無	設置している。いない。		
	構造種別			
	幅	m	2.0 m	
仮締切	仮締切高		別途協議	
	鋼矢板自立式	根入長 m 矢板長 m 頭部変位量 cm	型 頭部変位量；別途協議	
	土圧 上載荷重	土圧係数 ka= kae= 常時 t/m <sup>2</sup> , 地震時 t/m <sup>2</sup>	クーロン土圧 常時 1.0 t/m <sup>2</sup> 地震時 0.5 t/m <sup>2</sup>	

5) 鋼矢板護岸

項目	細別	設計値	基準値	備考
仮想地盤	自立矢板 控え式	設計地盤から m下 0. ×H=	荷重強度の釣合う位置 設計地盤より壁高(H)の0.1~0.3H	
根入長	自立矢板 控え式	D=	仮想地盤より3/β以深 控え取付点のモーメントの釣合い長さ×F <sub>s</sub>	
許容変位量	自立矢板 控え式	δ=	天端で5cm (常時) 7.5cm (地震時) 天端で5cm (常時) 7.5cm (地震時)	Changの式 控え変位量
断面効率	継手効率 腐食代	I= Z=	断面二次モーメント α 1=0.8 (頭部固定の場合) 断面係数 α 2=1.0 (頭部固定の場合) 片面1mmを考慮 (防錆板の場合、別途)	
曲モーメント	自立矢板 斜控え式	M=	Changの式により求める 控え取付点と仮想地盤面 モーメント計算により求める	
荷重図				

築堤護岸設計調書 ( / )

6) 擁壁護岸

項目	細別	設計値	基準値	備考	
安定計算	転倒(合力の作用点) 滑動(直接基礎) 支持力(直接基礎) 杭頭変位	$e =$ $Fa =$ $Fa =$ $\delta =$	$Fe =$ $Fe =$	常時 $1/3 \sim 2/3B$ 地震時 $1/6 \sim 5/6B$ 常時 $Fs \geq 1.5$ 地震時 $Fs \geq 1.2$ 常時 $Fs \geq 3$ 地震時 $Fs \geq 2$ 常時 地震時	協議による
構造	目地間隔 最小部材厚 ブロック擁壁 もたれ式擁壁	$\textcircled{a} =$ $t =$	約10~20m 30cm 標準設計の裏込コンクリートを用いない構造が基本 標準設計による		
鉄筋	許容応力度 カブリ	$\sigma =$	常時 $1600\text{Kg}/\text{cm}^2$ 地震時 $2700\text{Kg}/\text{cm}^2$ 床版下面 15cm(基礎杭) 10cm(直接基礎) その他 7.5cm		
基礎杭	支持力計算	$Ra =$ $\sigma =$	道路橋示方書による		
荷重図					

7) 棚式護岸

項目	細別	設計値	基準値	備考
矢板	安全率 継手効食 率代		控え式矢板に同じ	
基礎杭	支持力計算 杭頭変位 間隔		コンクリート擁壁に同じ	
鉄筋	カブリ		コンクリート擁壁に同じ	
荷重図				

築堤護岸設計調書 ( / )

8) その他護岸

(追加記入表)

項目	細別	設計値	基準値	備考
荷重図				



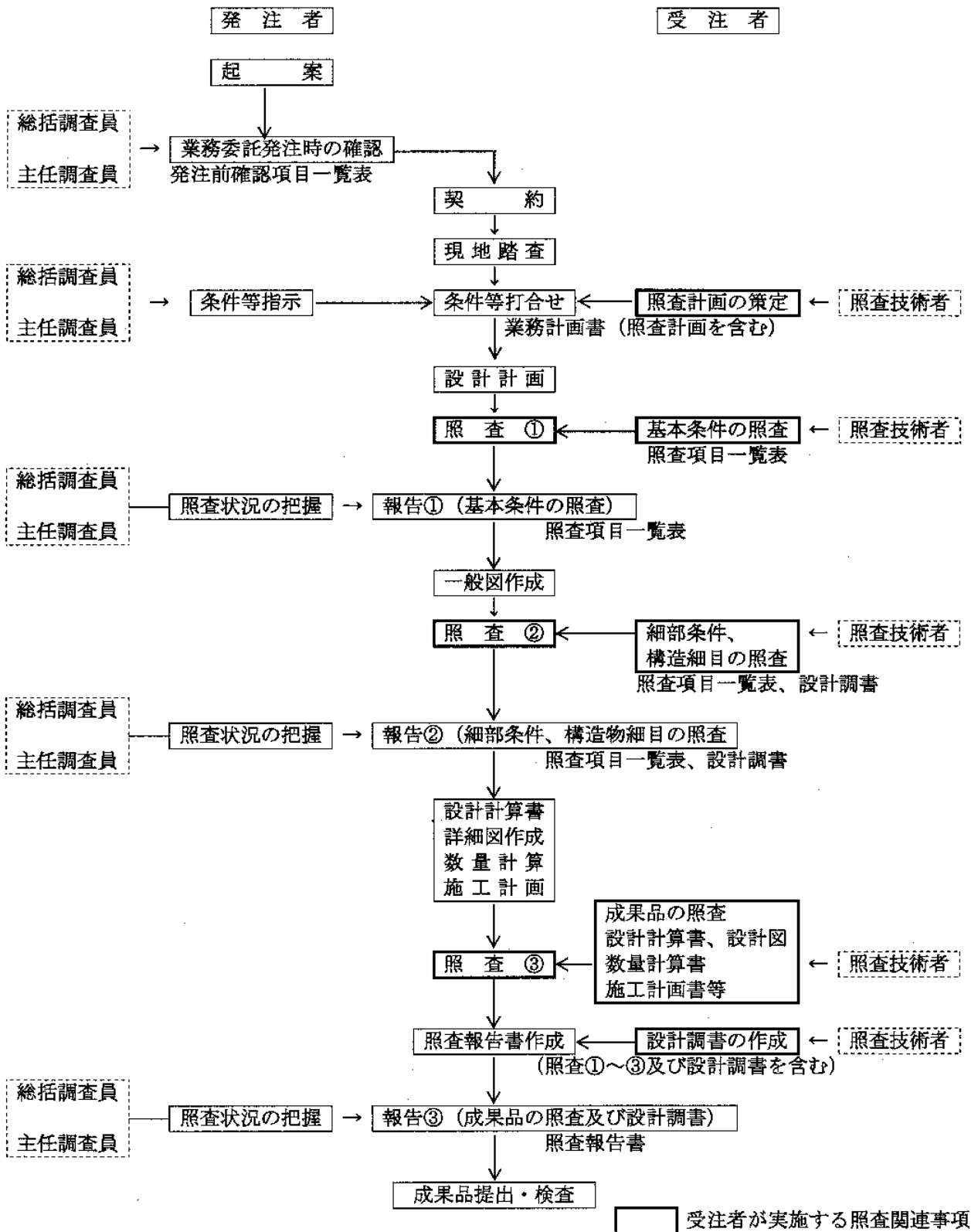
# 道 路 詳 細 設 計 照 査 要 領

( 平 面 交 差 点 、 小 構 造 物 を 含 む )

平 成 1 0 年 4 月



# 道路詳細設計照査フローチャート



注 記 ※ 照査②の段階より、設計調書の有効活用を図る。  
 ※※ 工程に関わる照査・報告①②③の時期は、業務計画書提出時に打ち合わせにより設定する。



発注前確認項目一覧表  
(道路詳細設計)

業務名: \_\_\_\_\_

発注者名: \_\_\_\_\_

確認の日付: 平成 年 月 日

発注者印	総括調査員	主任調査員

発注前確認項目一覧表

NO	項目	主な内容	確認資料	該当対象	確認	備考
1	設計の目的、主旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 設計の目的・主旨は理解したか。</li> <li>2) 関連する他事業はあるか。</li> <li>3) 全体計画、暫定計画は明確になっているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>[ 共通仕様書 ]</li> <li>” ”</li> <li>” ”</li> </ul>			
2	予備設計の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 予備設計(B)もしくは、修正設計(B)はあるか。</li> <li>2) 予備設計の内容と問題点が明確になっているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>[ 予備設計(B) ]</li> <li>[ 修正設計(B) ]</li> <li>報告書</li> </ul>			
3	設計の範囲、内容、数量、履工期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 設計の範囲は決定しているか。</li> <li>2) 設計の内容と数量は決定しているか。</li> <li>3) 設計の履工期間は決定しているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特記仕様書</li> <li>” ”</li> </ul>			
4	路線名、設計計画、工事発注時期	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 路線名は決定しているか。</li> <li>2) 設計区間は決定しているか。</li> <li>3) 工事発注時期は決定しているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特記仕様書</li> <li>” ”</li> </ul>			
5	設計条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 道路規格の根拠は明確になっているか。</li> <li>2) 設計速度の根拠は明確になっているか。</li> <li>3) 計画交通量の根拠は明確になっているか。</li> <li>4) 横断面構成の根拠は明確になっているか。</li> <li>5) 適用基準は明確になっているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特記仕様書</li> <li>” ”</li> <li>” ”</li> <li>” ”</li> <li>” ”</li> </ul>			
6	幾何構造	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 線形(平面及び縦断)の根拠は明確になっているか。</li> <li>2) 横断勾配の最大値の根拠は明確になっているか。</li> <li>3) 登坂車線の要否は明確になっているか。</li> <li>4) 積雪寒冷地の適用を受けているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>[ 予備設計(B) ]</li> <li>[ 修正設計(B) ]</li> <li>報告書</li> <li>” ”</li> <li>” ”</li> <li>” ”</li> </ul>			
7	施工上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>施工上の留意点があるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特記仕様書</li> </ul>			

発注前確認項目一覧表

NO	項目	主な内容	確認資料	該当対象	確認	備考
8	関連機関との調整及び協議関連資料の整理	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 交差協議の調整が済んでいるか。(道路、河川、鉄道、公安委員会、等)</li> <li>2) 地元及び地権者との調整が済んでいるか。</li> <li>3) パス路線となるかどうか。</li> <li>4) 水路管理者との協議は済んでいるか。</li> <li>5) 地下占有企業者との調整が済んでいるか。</li> <li>6) 保安林及び埋蔵文化財等との調整が済んでいるか。</li> <li>7) 各都道府県公害防止条例の適用区域及び規制値が明確になっているか。</li> <li>8) 都市計画及び土地利用が明確になっているか。</li> <li>9) 上位計画、開発行為及び電線類地中化の計画が明確になっているか。</li> <li>10) 土捨場または土取場の位置、規模は明確になっているか。</li> <li>11) 休憩施設、チェンソー着脱場等の計画が明確になっているか。</li> </ol>	関連機関との協議書 " " " " " " " " " " " " " " " " " "			
9	貸与資料の確認	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地質調査報告書があるか。又、内容は充分か。</li> <li>2) 測量成果(平面、縦断、横断)があるか。</li> <li>3) 埋設物台帳があるか。</li> <li>4) 交通量に関する資料があるか。</li> <li>5) 橋梁、トンネル及び設計区間前後の資料はあるか。</li> <li>6) その他共通仕様を示された資料はあるか。</li> </ol>	報告書 " 資料 " 設計 予備設計 (関連資料) (共通仕様書) (予備設計(B)) (修正設計(B)) " " " " " " 特記仕様書 (予備設計(B)) (修正設計(B))			
10	計画条件の確認	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 土工及び法面工の計画条件は確認しているか。                          ①盛土勾配は決定しているか。                          ②切土勾配は決定しているか。                          ③小段幅及び高さは決定しているか。                          ④法面保護工は決定しているか。                          ⑤地滑り等の切土部の安定検討箇所は決定しているか。                          ⑥用地は決定しているか。</li> </ol>				

発注前石確認項目一覧表

NO	項 目	主 な 内 容	確 認 資 料	該 当 対 象	確 認	備 考
		<p>⑦切盛土工の安定検討箇所は決定しているか。</p> <p>2) 軟弱地盤の計画条件は確認しているか。            ①軟弱地盤としての検討が必要な区間(規模、ケース数)は明確になっているか。            ②調査解析の現状は把握しているか。            (最大沈下量、限界盛土高等)            ③軟弱地盤地区の施工工程計画は、先行施工の可能性等を含め考えてあるか。</p> <p>3) 函渠工の計画条件は確認しているか。            ①函渠工にした理由(型式、位置)は明確になっているか。            ②ボーリング等地質調査資料(必要数)による支持地盤及び杭基礎の必要性は明確になっているか。            ③標準設計の適用はできるか。            ④自動設計の適用はできるか。            ⑤プレキャストボックスカルバートの適用はできるか。            ⑥特に仮設工を必要とするか。            ⑦所要断面(道路、水路等)の決定根拠は明確になっているか。            ⑧設計荷重の決定根拠は明確になっているか。</p> <p>4) 擁壁工の計画条件は確認しているか。            ①擁壁工にした理由(型式、位置)は用地条件を含めて明確になっているか。            ②ボーリング等地質調査資料(必要数)による支持地盤及び杭基礎の必要性は明確になっているか。            ③標準設計の適用はできるか。            ④自動設計の適用はできるか。</p>				



発注前確認項目一覧表

NO	項 目	主 な 内 容	確 認 資 料	該 当 対 象	確 認	備 考
11	環境及び景観検討の必要性	<p>⑤プレキャスト製品の適用はできるか。                      ⑥特に仮設工を必要とするか。                      ⑦地震荷重の適用の有無は決定しているか。</p> <p>5) 排水工の計画条件は確認しているか。                      ①排水系統(用水か排水か)及び断面の調査は明確になっているか。                      ②水路管理者と協議してあるか。</p> <p>6) 小構造物の計画条件は確認しているか。                      ①標準設計は適用できるか。                      ②二次製品は適用できるか。</p> <p>7) 舗装の計画条件は確認しているか。                      ①CBR試験は実施しているか。</p> <p>8) 関連道路の計画条件は確認しているか。                      ①関連道路の設計基準は明確か。                      (取付、付替、側道等)</p>				<p>1) 必要性の有無は決定しているか。                      2) 環境の資料(アセスメント等)はあるか。                      3) デザインコンセンサスは決定しているか。                      4) 景観検討に必要な資料は整理されているか。                      5) 遮音壁、環境施設帯の必要性が明確になっているか。</p>

発注前確認項目一覧表

NO	項 目	主 な 内 容	確 認 資 料	該 当 対 象	確 認	備 考
1 2	付帯施設の必要性	1) バス駐車場の設置の必要性が明確になっているか。 2) 休憩施設、チェーン着脱場の必要性が明確になっているか。 3) 標識計画はあるか。 4) 照明・信号機(電気設備)は計画されているか。				

(追加項目記入表)

発注前確認項目一覧表

NO	項目	主な内容	確認資料	該当 対象	確認	備考

# 発注前確認項目一覧表 (平面交差点設計)

業務名: \_\_\_\_\_

発注者名: \_\_\_\_\_

確認の日付: 平成 年 月 日

発注者印	総括調査員	主任調査員

# 発注前確認項目一覧表

[道路詳細設計と重複するものは照査の必要ない]

NO	項目	主な内容	確認資料	該当対象	確認	備考
1	設計の目的、主旨	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 設計の目的、主旨は理解したか。</li> <li>2) 関連する他事業はあるか。</li> <li>3) 全体計画、暫定計画は明確になっているか。</li> </ol>	(共通仕様書) 特記仕様書			
2	予備設計の確認	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 予備設計があるか。</li> <li>2) 予備設計の内容と問題点が明確になっているか。</li> </ol>	予備設計報告書			
3	設計の範囲、内容、数量、履工期間	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 設計の範囲は決定しているか。</li> <li>2) 設計の内容(交差点形状等)と数量は決定しているか。</li> <li>3) 設計の履工期間は決定しているか。</li> </ol>	特記仕様書			
4	路線名、設計区間、工事発注時期	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 路線名は決定しているか。</li> <li>2) 設計区間は決定しているか。</li> <li>3) 工事発注時期は決定しているか。</li> </ol>	特記仕様書			
5	設計条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 道路規格の決定根拠は明確になっているか。</li> <li>2) 設計速度の決定根拠は明確になっているか。</li> <li>3) 計画交通量及び方向別交通量の決定根拠は明確になっているか。</li> <li>4) 横断面構成の決定根拠は明確になっているか。</li> <li>5) 対象路線の条件は明確になっているか。</li> <li>6) 設計車両の決定は明確になっているか。</li> <li>7) 交差点制御方法の決定根拠は明確になっているか。</li> <li>8) 歩行者動線の(平面、立体)決定根拠は明確になっているか。</li> </ol>	特記仕様書			



発注前確認項目一覧表

NO	項目	主な内容	確認資料	該当対象	確認	備考
11	環境及び景観検討の必要性	1) 必要性の有無が決定しているか。 2) 環境の資料(アセスメント等)はあるか。 3) デザインコンzeptは決定しているか。 4) 景観検討に必要な資料は整理されているか。  バス停車場の設置の必要性が明確になっているか。	特報 記 告 仕 告 様 書 書			
12	付帯施設の必要性					

発注前確認項目一覧表

(追加項目記入表)

NO	項目	主な内容	確認資料	該当対象	確認	備考



# 基本条件の照査項目一覧表 (道路詳細設計)

## ( 照 査 ① )

業 務 名：

---

発 注 者 名：

---

受 注 者 名：

---

照 査 の 日 付： 平成 年 月 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

基本案件の照査項目一覧表（様式－1）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査①		備考
				対象	照査	
1	設計の目的、主旨	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 目的・主旨を理解したか。</li> <li>2) 地域構想等に関する上位計画を把握したか。</li> <li>3) 設計の主な項目、工程等について具体的内容を把握したか。</li> </ol>	業務計画書 " " "			
2	貸与資料の確認	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 貸与資料の不足、追加事項があるか。</li> <li>2) 事務所、路線毎に統一された基準要領があるか。</li> </ol>	業務計画書 特記仕様書 現場写真他			
3	現地踏査結果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地形、地質、用・排水、土地利用等現地状況を把握したか。</li> <li>2) 交通状況、道路状況、河川状況を把握したか。</li> <li>3) 沿道の環境状況(日照、騒音、振動等)を把握したか。</li> <li>4) 支障物件の状況を把握したか。 (地下埋設物を含む)</li> <li>5) 施工時の留意事項を把握したか。</li> </ol>	" " 業務計画書 " " " " " " " "			
4	設計条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 道路規格を確認したか。</li> <li>2) 設計速度を確認したか。</li> <li>3) 計画交通量を確認したか。</li> <li>4) 横断面構成を確認したか。</li> <li>5) 適用基準を確認したか。</li> <li>6) 関連する設計と整合がとれているか。</li> </ol>	業務計画書 " " " " " " " "			
5	施工区分	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 暫定施工時の施工区分を把握したか。</li> <li>2) 現道拡幅時の施工区分を把握したか。</li> </ol>	業務計画書 " " " "			
6	幾何構造、縦形条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 平面及び縦断の設計値は適正か。</li> <li>2) 幾何構造の使用値は適正か。</li> <li>3) 橋、トンネル坑口等の取合いを配慮したか。</li> <li>4) 幅員構成は適正か。 (標準幅員、積雪寒冷地との整合)</li> </ol>	業務計画書 報告書 " " " " " "			

基本条件の照査項目一覧表（様式-1）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査①		備考
				対象	照査	
7	用地条件	<p>用地上の巾杭表はあるか。</p>	設計図書			
8	土工及び法面工	<p>1) 土質定数の設定、湧水状況等の把握は適正か。                  2) 法面勾配等は適正か。                  3) 地すべり等の切土部安定検討は適正か。                  4) 切土材料は盛土材料に転用できるのか。                  5) 特殊法面工の必要性はあるか。</p>	<p>報告書                  " "                  " "                  " "                  " "</p>			
9	軟弱地盤	<p>1) 軟弱地盤対策は適正か。                  2) 盛土の施工期間及び施工方法(迂回路計画等)は決まっているか。                  3) 基本盛土施工厚と施工工程とのバランスがとれているか。(地盤強度増加と施工時及び完成後の盛土の安定性)                  4) 残留沈下量と交通解放時期の基本方針は決定しているか。                  5) 地質調査は目的にあった調査、解析をしているか。                  6) 盛土材の土質調査はしてあるか。また、その土質定数は把握しているか。                  7) 計画線形(平面、縦断計画)の見直し、あるいは他の構造(高架等)が考えられないか。                  8) 環境、用地に対する制限はないか。                  9) 置き換え残土の捨場はあるか。                  10) 側方流動の影響を受ける構造物(擁壁、橋台等)はないか。</p>	<p>報告書                  " "                  " "                  " "                  " "                  " "                  " "                  " "                  " "                  " "</p>			

基本条件の照査項目一覧表（様式—1）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査①		備考
				対象	照査	
10	函渠工	<p>1) 標準設計の適用方法は適正か。</p> <p>2) 同上を適用しないときは応力計算が必要か。</p> <p>3) 自動設計の適用方法は適正か。</p> <p>4) 二次製品の適用方法は適正か。</p> <p>5) 施工条件を考慮しているか。</p> <p>6) 縦断方向のすべりに対する対策は必要か。</p> <p>7) 階掛版の要・不要の確認。</p> <p>8) 防護柵の要・不要の確認。(内空断面の再確認)</p> <p>9) 土被りの条件は妥当か。土被りの変化が大きい箇所での断面変化は考慮しているか。</p> <p>10) 土質定数の決定根拠は明確になっているか。</p> <p>11) 地盤条件(支持力、地下水位等)は整理してあるか。</p> <p>12) 設計計算の条件は妥当か。計算式の適用は確認されているか。(プログラム等)</p> <p>13) 適用する設計基準は確認されているか。</p>	<p>報告書</p> <p>”</p> <p>”</p> <p>”</p> <p>”</p> <p>”</p> <p>設計図書</p> <p>”</p> <p>報告書</p> <p>”</p> <p>”</p> <p>”</p> <p>”</p>			
11	擁壁工	<p>1) 所要高さ決定の根拠は適正か。</p> <p>2) 型式選定の根拠は適正か。</p> <p>3) 線形の変更、用地の利用等によって擁壁の規模縮小が可能であるかどうか工夫したか。</p> <p>4) 標準設計の適用方法は適正か。</p> <p>5) 同上を適用しないときは応力計算が必要か。</p> <p>6) 自動設計の適用方法は適正か。</p> <p>7) 二次製品の適用は適正か。</p> <p>8) 用地境界までの余裕幅を確認したか。</p> <p>9) 土質定数の決定根拠は明確になっているか。</p> <p>10) 基礎型式選定のための地盤条件は整理されたか。</p> <p>11) 現道交通、隣接家屋への影響を配慮したか。</p> <p>12) 全体的なすべりの安定性は確認したか。</p>	<p>設計図書</p> <p>報告書</p> <p>”</p> <p>”</p> <p>”</p> <p>”</p> <p>”</p> <p>設計図書</p> <p>報告書</p> <p>”</p> <p>”</p> <p>”</p>			

基本条件の照査項目一覧表（様式-1）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査①		備考
				対象	照査	
1 2	排水工	<p>13) 設計計算の条件は妥当か。計算式の適用は確認されているか。(プログラム等)</p> <p>14) 適用する設計基準は確認されているか。</p> <p>1) 流出量の算定は妥当か。 (集水域、流出係数、降雨強度、確率年、算定式)</p> <p>2) 通水量の算定は妥当か。(粗度係数等)</p> <p>3) 施設選定は妥当か。 (経済性、施工性、機能性、計画性)</p> <p>①パイプとボックス</p> <p>②Pcパイプ、ヒューム管及びコルゲート管</p> <p>③基礎型式選定の適否</p> <p>4) 断面決定で余裕が見込んでいるか。</p> <p>5) 排水勾配(流速の許容範囲)は妥当か。</p> <p>6) 最小土被りの設定は妥当か。</p> <p>7) 協議関係は必要か。</p>	<p>報告書</p> <p>"</p> <p>"</p> <p>"</p> <p>"</p> <p>"</p> <p>"</p> <p>"</p> <p>"</p> <p>設計図書 関連機関との協議 設計図書</p> <p>関連機関との協議 報告書</p> <p>"</p> <p>"</p> <p>設計図書</p>			
1 3	排水処理					
1 4	舗装工	<p>1) 舗装種別及び構造の適用(交通量、設計CBR)に問題はないか。</p> <p>2) 再生材の使用は考慮されているか。</p> <p>3) 特別箇所(軟弱地盤、低盛土等)の路床改良の要否</p> <p>4) 防護柵等道路付属物の配置及び規格は適正か。</p>				

基本案件の照査項目一覧表（様式-1）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査①		備考
				対象	照査	
15	小構造物	<ol style="list-style-type: none"> <li>標準設計の適用方法は適正か。</li> <li>重力式擁壁、ブロック積等を設ける理由、型式高さ等決定根拠は明確か。</li> <li>二次製品の適用は適正か。</li> </ol>	報告書			
16	関連道路 (側道、副道、取付交通)	<ol style="list-style-type: none"> <li>幅員、延長、断面等は適正か。</li> <li>沿道に対する高さ等の取合は考慮してあるか。</li> <li>舗装構成は決定しているか。</li> </ol>	報告書 設計図書 報告書			
17	環境及び景観検討	<ol style="list-style-type: none"> <li>環境及び景観検討の必要性、範囲、コンセプトが理解されたか。</li> <li>環境及び景観検討の具体的方法、作成すべき資料等は明らかとなっているか。</li> </ol>	報告書			
18	防雪対策	雪崩、地吹雪対策は考慮されているか。	報告書			
19	協議関連資料	<ol style="list-style-type: none"> <li>交差協議の調整は確認したか。</li> <li>地元及び地権者との調整は確認したか。</li> <li>バス路線になるかどうか確認したか。</li> <li>地下占有企業者との調整は確認したか。</li> <li>保安林及び埋蔵文化財等との調整は確認したか。</li> <li>各県公害防止条例の適用区域及び規制値を確認したか。</li> <li>都市計画及び土地利用を確認したか。</li> <li>上位計画、開発行為及び電線類地中化を確認したか。</li> <li>土捨場、または土取場の位置、規模を確認したか。</li> <li>休憩施設、フェンching脱場等の計画は確認したか。</li> </ol>	関連機関との協議 報告書			

基本条件の照査項目一覧表（様式－1）

（追加項目記入表）

NO	項 目	主 な 内 容	提示資料	照 査 ① 対 象 照 査	備 考

基本条件の照査項目一覧表 (平面交差点詳細設計)  
( 照 査 ① )

業 務 名 : \_\_\_\_\_

発 注 者 名 : \_\_\_\_\_

受 注 者 名 : \_\_\_\_\_

照 査 の 日 付 : 平成 年 月 日

受注者印	照査技術者	管理技術者



基本条件の照査項目一覧表（様式－1）

〔道路詳細設計と重複するものは、照査の必要ない〕

NO	項目	主な内容	提示資料	照査①		備考
				対象	照査	
1	設計の目的、主旨	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 目的、主旨は理解したか。</li> <li>2) 地域構想等に関する上位計画を把握したか。</li> <li>3) 設計の内容、範囲、工期等について具体的に把握したか。</li> </ol>	業務計画書 " "			
2	資料の収集、確認 (1) 予備設計に関する資料	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 予備設計の計画は適正か。</li> <li>2) 貸与資料の不足点、追加事項があるか。</li> <li>3) 事務所、路線毎に統一された基準要領はあるか。</li> </ol>	業務計画書 " " 特記仕様書			
3	現地踏査結果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地形、地物、現地状況を把握したか。</li> <li>2) 交通状況、道路状況、河川状況を把握したか。</li> <li>3) 沿道の環境状況（日照、騒音、振動等）を把握したか。</li> <li>4) 支障物件の状況を把握したか。 (地下埋設物を含む)</li> <li>5) 大規模交通発生施設、歩行者の動線を把握したか。</li> <li>6) 施工時の注意事項を把握したか。</li> </ol>	現場写真他 " " 業務計画書			
4	設計条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 道路の構造、規格は適正か。</li> <li>2) 交差点形状は適正か。</li> <li>3) 平面交差の間隔は適正か。</li> <li>4) 方向別交通量は適正か。</li> <li>5) 交差点制御方法は適正か。</li> <li>6) 設計車両は適正か。</li> <li>7) 積雪寒冷地の適用は適正か。 (幅員、除雪スペース等)</li> <li>8) 歩行者の動線は適正か。</li> <li>9) 関連する設計と整合がとれているか。</li> </ol>	業務計画書 報告書 " " " " " " " " " " " " 業務計画書			

基本条件の照査項目一覧表（様式—1—）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査①		備考
				対象	照査	
5	幾何構造	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 平面及び縦断線形は適正か。</li> <li>2) 幅員構成は適正か。</li> <li>3) 視距、見通し距離は適正か。</li> <li>4) 付加車線の設置は適正か。</li> <li>5) 交差角は適正か。</li> <li>6) 本線シフトは適正か。</li> <li>7) 隅切りは適正か。</li> </ol>	<p>報告書</p> <p>” ” ”</p> <p>設計図書</p> <p>” ”</p>			
6	用地条件	<p>用地市杭表はあるか。</p>	設計図書			
7	関連道路（側道、副道、取付支道）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 主、従道路の優先関係は明確となっているか。</li> <li>2) 副道等の取付方法は適正か。</li> <li>3) 従道路の整備は適正か。</li> </ol>	<p>報告書</p> <p>設計図書</p> <p>”</p>			
8	交通管制と交通処理	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 信号現示と交差点飽和度は適正か。</li> <li>2) 交差点交通容量は適正か。</li> <li>3) 交通処理方法は適正か。</li> <li>4) 横断歩道及び停止線位置は適正か。</li> <li>5) バス停留所の位置、停車帯の形状等は適正か。</li> <li>6) 沿道からの出入り箇所は適正か。</li> </ol>	<p>報告書</p> <p>” ”</p> <p>設計図書</p> <p>” ”</p>			
9	計画条件の整理	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 土工及び法面工の計画は適正か。 (道路詳細設計との整合)</li> <li>2) 小構造物及び構造物の計画は適正か。 (道路詳細設計との整合)</li> <li>3) 用、排水工の計画は適正か。 (道路詳細設計との整合)</li> <li>4) 舗装工の計画は適正か。 (道路詳細設計との整合)</li> </ol>	<p>報告書</p> <p>設計図書</p> <p>”</p> <p>報告書</p>			

基本条件の照査項目一覧表（様式－1）

NO	項 目	主 な 内 容	提示資料	照 査 ①		備 考
				対 象	照 査	
10	協議調整事項の確認	<p>1) 関係諸官庁、諸機関及び地元との協議調整事項は設計に反映されているか。</p> <p>2) 協議条件と一致しているか。</p>	<p>関係機関との協議設計図書報告書</p> <p>”</p>			
11	環境及び景観検討	<p>1) 環境及び景観検討の必要性、範囲、コンセプトが理解されたか。</p> <p>2) 環境及び景観検討の具体的方法、作成すべき資料等は明らかとなっているか。</p>				

(追加項目記入表)

基本条件の照査項目一覧表（様式-1）

NO	項目	主要内容	提示資料	照査① 対象	照査 備考

# 細部条件の照査項目一覧表 (道路詳細設計)

( 照 査 ② )

業 務 名 : \_\_\_\_\_

発 注 者 名 : \_\_\_\_\_

受 注 者 名 : \_\_\_\_\_

照 査 の 日 付 : 平成 年 月 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

細部条件の照査項目一覧表（様式-2）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査② 対象照査	備考
1	協議関連	協議は諸条件と合致しているか。	設計図書		
2	施工計画	1) 工区分けは適正か。(暫定施工の有無を含む) 2) 施工性に問題はないか。 3) 暫定施工の考え方に問題はないか。	報告書 " " " "		
3	設計計算	1) 片勾配、拡幅のすりつけに問題はないか。 2) 用・排水の系統及び通水断面に問題はないか。 数量算出要領により確認を行ったか。	設計計算書 " "		
4	数量計算		数量計算書		
5	土工及び法面	1) 切土断面の岩盤推定線は妥当か。 2) 用地の余裕幅は適正か。 3) 法面保護工の選定は適正か。 4) 切土材料と盛土材料への転用は適正か。	設計図書 報告書 " "		
6	軟弱地盤	1) 土質定数は整理されているか。 2) 盛土工程は適切か。(一般盛土部、構造物、水路切り廻し等) 3) 対策工の必要性と工種及びその範囲は適正か。 ①盛土安定対策 ②沈下対策 ③その他対策 4) サンドマットの厚さは施工性を考慮したか。 5) 動態観測の計画は作成されているか。 6) 暗渠排水計画(形状、間隔)は適正か。 7) 沈下量を土量計算しているか。 8) 用排水路で沈下すると不都合なものはないか。 ある場合はその対策。	報告書 " " " " " " " " " " " " 設計図書 報告書 " "		

糸田部条件の照査項目一覧表（様式-2）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査② 対象照査	備考
7	函渠工	1) 本体長、伸縮目地の決定方法は適正か。 2) 軟弱地盤上に構築される場合の鉛直土圧係数は考慮してあるか。(杭基礎などの場合) 3) 沈下の大きい場所での特別の処置(段落ち防止杭等)は考慮しているか。 4) 不等沈下はないか。 5) 斜角のつく場合の考慮をしてあるか。 (斜角部の設計方法) 6) 階掛版の形状、寸法は適正か。 7) 基礎工の選定は適正か。 8) 標準設計適用以外の応力チェックはされているか。 9) ハンチを付さない場合、その対策はしてあるか。 10) ウイング厚と本体厚のバランスはとれているか。 11) 防水工は考慮されているか。 12) 照明配管、排水は考慮されているか。 13) 配筋に対するチェックはされているか。 14) 管理上の問題は残されていないか。 (道路、水路等) 15) 現場打ちとプレキャストの使い分けは適正か。	設計図書 設計計算書 設計図書 報告書 設計図書 " " 設計計算書 " " 設計図書 " " " " " " " " 報告書 設計図書 "		
8	擁壁工	1) 標準設計適用以外の応力チェックはされているか。 2) 擁壁高さの決定、地山の取合、底面の勾配は適正か。 3) 背面土の適用は適正か。(施工時の安定性等) 4) 目地間隔は適正か。 5) 液状化の検討は適正か。 6) 基礎工の選定は適正か。 ・ 直接基礎(地盤反力、安定、置換深さ等) ・ 杭基礎(杭間隔、杭種、杭径、定着方式等)	設計計算書 設計図書 設計計算書 設計図書 設計計算書 "		

細部条件の照査項目一覧表（様式-2）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査②		備考
				対象	照査	
9	排水工	<p>6) 根入れ深さは適正か(土質条件、水の影響)、斜面部での余裕幅は適正か。</p> <p>7) 地下水、湧水等の処理について考慮してあるか。</p> <p>8) 施工性を考えた構造となっているか。(地形その他の現場条件による機械の選定条件等)</p> <p>9) 応力計算時の常時、地震時の選択は適正か。</p> <p>10) 配筋に対するチェックはされているか。</p> <p>1) 排水施設相互及び道路施設との取合いは考慮されているか。</p> <p>2) 安全対策(蓋、防護柵等)は考慮されているか。</p> <p>3) 流末はチェックされているか。(流末河川のHWLより下の場合の対策が行われているか。)</p> <p>4) 排水系統を変更していないか。</p> <p>5) 現場打ちとプレキャストの使い分けは適正か。</p> <p>6) 設計区間外の施設との取合いは考慮されているか。</p> <p>7) 既設水路等の付替えは、必要に応じ切廻しを検討してあるか。</p> <p>8) その他</p>	<p>設計図書</p> <p>報告書</p> <p>設計図書</p> <p>設計計算書</p> <p>設計図書</p> <p>設計図書</p> <p>"</p> <p>"</p> <p>"</p> <p>"</p> <p>"</p> <p>"</p> <p>"</p> <p>設計計算書</p> <p>報告書</p> <p>"</p> <p>"</p> <p>設計計算書</p> <p>"</p>			
10	舗装工	<p>1) 舗装工の設計は適正か。</p> <p>2) 段階施工のできる設計となっているか。</p> <p>3) 再生材の使用は適正か。</p> <p>4) その他</p>				
11	小構造物	<p>1) 標準設計適用以外のものの応力概略チェックはされているか。</p> <p>2) その他</p>				



細部条件の照査項目一覧表（様式-2）

NO	項 目	主 な 内 容	提示資料	照 査 ②		備 考
				対 象	照 査	
1 2	仮設構造物	1) 山留め形式の選定は適切か。 (現道拡幅時の仮設、構造物掘削の工法) 2) 安全性の確保、施工性、現地との整合、近接構造物との関係に配慮したか。	報 告 書 ”			
1 3	環境及び景観検討	1) 環境(騒音、振動)面の対応は適正か。 2) 景観(植栽等)性は妥当か。	報 告 書 ”			

細部条件の照査項目一覧表（様式-2）

（追加項目記入表）

NO	項 目	主 要 内 容	提示資料	照 査 ② 対 象 照 査	備 考

細部条件の照査項目一覧表 (平面交差詳細設計)  
( 照 査 ② )

業 務 名 : \_\_\_\_\_

発 注 者 名 : \_\_\_\_\_

受 注 者 名 : \_\_\_\_\_

照 査 の 日 付 : \_\_\_\_\_ 平 成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

細部条件の照査項目一覧表（様式一 2）

〔道路詳細設計と重複するものは、照査の必要ない〕

NO	項目	主な内容	提示資料	照査②		備考
				対象	照査	
1	協議関係	協議は諸条件と合致しているか。	設計図書			
2	施工計画	1) 工期分けは妥当か。(暫定施工の有無を含む) 2) 施工性に問題はないか。 3) 暫定施工の考え方に問題はないか。 4) 現道交通確保の安全性に問題はないか。	報告書 " " " "			
3	設計計算	1) 交通処理能力に問題はないか。 2) 用、排水の系統及び通水断面に問題はないか。	設計計算書 "			
4	数量計算	数量算出要領により確認を行ったか。	数量計算書			
5	詳細検討	1) 中央分離帯の位置は適正か。 2) 導流路及び歩道の巻き込みは適正か。 3) 路面標示は適正か。 4) 付加車線等の諸元は適正か。 5) 信号、照明、安全施設等の設置計画は適正か。 6) 交通管制御面で近接する交差点との整合性はとれているか。 7) 積雪寒冷地の対応は適正か。 8) 道路詳細設計と整合はとれているか。 9) 土工及び法面工の設計は適正か。 (道路詳細設計と整合) 10) 小構造物及び構造物の設計は適正か。 (道路詳細設計と整合) 11) 用、排水工の設計は適正か。 (道路詳細設計と整合) 12) 舗装工の設計は適正か。 (道路詳細設計と整合)	設計図書 " " " " 報告書 " " 設計図書 " " " " " "			

細部条件の照査項目一覧表（様式－2）

NO	項 目	主 な 内 容	提 示 資 料	照 査 ②		備 考
				対 象	照 査	
6	環境及び景観検討	13) 用地幅は適正か。 (道路詳細設計と整合) 1) 環境 (騒音、振動) 面の対応は妥当か。 2) 景観 (植栽等) 性は妥当か。	設計図書 報 告 書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－2）

（追加項目記入表）

NO	項 目	主 な 内 容	提示資料	照 査 ②		備 考
				対 象	照 査	

# 成果品の照査項目一覧表 (道路詳細設計)

( 照 査 ③ )

業 務 名: \_\_\_\_\_

発注者名: \_\_\_\_\_

受注者名: \_\_\_\_\_

照査の日付: 平成 年 月 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

成果品の照査・確認項目一覧表（様式－3）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査③		備考
				該当対象	照査	
1	設計計算書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 打合せ事項は反映されているか。</li> <li>2) 安定計算結果は許容値を満たすか。</li> <li>3) 許容応力度の取り方は正しいか。</li> <li>4) 用排水の流出量と通水量を照査したか。</li> </ol>	設計計算書 " " " "			
2	設計図	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 縮尺は契約図書と整合しているか。</li> <li>2) 打合せ事項は反映されているか。</li> <li>3) 構造物(函渠、擁壁等)の全体一般図に必要な項目は記載されているか。(設計条件、地質条件等)</li> <li>4) 表現方法は適正か。</li> <li>5) 解り易い注記がついているか。</li> <li>6) 設計計算書の結果が正しく図面に反映されているか。</li> </ol>	設計図書 " " " "			
3	数量計算書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 数量計算は数量算出要領及び打合せ事項と整合しているか。(有効数字、位取り、単位、区分等)</li> <li>2) 数量計算に用いた寸法、記号は図面と一致するか。</li> <li>3) 数量取りまとめは、種類毎に、材料毎に、打合せ区分毎にまとめられているか。</li> </ol>	数量計算書 " " " "			
4	施工方法の検討	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 施工時の道路、河川等の切り廻し計画は適正か。</li> <li>2) 工事用道路、運搬路計画は適正か。</li> <li>3) 施工ヤード、施工スペースは確保されているか。</li> <li>4) 安全性は配慮されているか。</li> <li>5) 暫定計画、完成計画との整合はとれているか。</li> </ol>	施工計画書 " " " " " "			
5	設計調書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 調書の記入は、適正にされているか。</li> <li>2) マクロ的(設計条件、幾何構造基準、構造物の寸法及び概略数量)に見て問題はないか。</li> </ol>	設計調書 " "			



成果品の照査・確認項目一覧表（様式－3）

NO	項 目	主 な 内 容	提示資料	照 査 ③		備 考
				該当対象	照 査	
6	報告書	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 条件設定の考え方が整合しているか。 3) 比較、検討の結果が整合されているか。 4) 工事発注に際しての留意事項が記述されているか。 5) 設計基準値を技術指針等より引用している場合 には出典図書名及びページを明記しているか。	報 告 書 " " " " " "			
7	TECRISの登録	TECRISの登録はされたか。				

成果品の照査・確認項目一覧表（様式－3）

（追加項目記入表）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査③		備考
				該当対象	照査	

# 成果品の照査項目一覧表 (平面交差点設計)

( 照 査 ③ )

業 務 名 : \_\_\_\_\_

発 注 者 名 : \_\_\_\_\_

受 注 者 名 : \_\_\_\_\_

照 査 の 日 付 : 平成 年 月 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

成果品の照査項目一覧表（様式－3）

〔道路詳細設計と重複するものは、照査の必要ない〕

NO	項目	主な内容	提示資料	照査③		備考
				対象	照査	
1	設計計算書	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 計算結果は交通処理能力を満たすか。 3) 用、排水の流出量と通水量を照査したか。 (道路詳細設計と整合)	設計計算書 " " "			
2	設計図	1) 縮尺は契約図書と整合しているか。 2) 打合せ事項は反映されているか。 3) 全体一般図に必要な事項が記載されているか。 4) 表現方法は適切か。 5) 解り易い注記が付いているか。 6) 設計計算書の結果が正しく図面に反映されているか。	設計図書 " " " " " " " "			
3	数量計算書	1) 数量計算は数量算出要領及び打合せ事項と整合しているか。 (有効数字、位取り、単位、区分等) 2) 数量計算に用いた記号、寸法は図面と一致するか。 3) 数量取りまとは、種類毎に、材料毎に、打合せ区分に合わせてまとめられているか。	数量計算書 " " "			
4	施工方法の検討	1) 施工時の道路、河川等の切廻し計画は妥当か。 2) 工事用道路、運搬路計画は妥当か。 3) 施工ヤード、施工スペースは確保されているか。 4) 安全性は配慮されているか。 5) 暫定計画と完成計画は整合がとれているか。	施工計画書 " " " " "			
5	設計調書	1) 調書の記入は、適正にされているか。 2) マクロ的（設計条件、幾何構造基準等）に見て問題はないか。	設計調書 "			

成果品の照査項目一覧表（様式－3）

NO	項 目	主 な 内 容	提示資料	照 査 ③		備 考
				対 象	照 査	
6	報告書	1) 打合せ事項は反映されているか。 2) 条件設定の考え方が整合しているか。 3) 比較、検討結果が整理されているか。 4) 工事発注に際しての留意事項が記述されているか。 5) 設計基準値を技術指針等より引用している場合は、出展図書名及びページが明記されているか。	報告書 " " " " " " " "			
7	TECRISの登録	TECRISの登録はされたか。				

成果品照査項目一覧表（様式-3）

（追加項目記入表）

NO	項目	主要内容	提示資料	照査③ 対象照査	備考

道路詳細設計調書 ( その 1 ) ( / )

業務名	所在地	受注者名	起點側	
	事務所名	監理・管理技師署名	終點側	
路線名	工事事務所	作成年月日	年月日	
		防音壁の設置の有無	付帯施設の無	
延長	第 種 第 級	設計速度	道 路 分 類	
	計画交通量 (大型車混入率)	地域分類	積雪寒冷地の区分	
設計条件	土	工	架	
	横断面の構成			
幾何構造	最小曲線半径	最小曲線長	最小緩和曲線長	
	最急縦断勾配	同左延長	最小縦断曲線半径	
	横断勾配	片勾配の最大値	最大合成勾配	登坂車線の要否
		盛土部切土部	のり勾配	片勾配のすり付け率
土	主たる地質	盛土部切土部	盛土切土	
	のり面工の種類	軟岩 硬岩	盛土切土	
工	最大盛土高	最大切土高	小段の高さ	
	軟弱地盤対策、地すべり対策 防雪施設の要否			

※下段は、基準値を記入すること。

道路詳細設計調書 ( その 2 ) ( / )

舗装の種類	交通区分	設計 C B R	主要量数	盛土量		のり面積	切土量		トンネル
				舗装面積	積載面積		土工	橋梁	
舗装構成	路盤の種類	上層	排水工	降雨強度	横断面築数	箇所	延長	備考欄	
連断層 凍上抑制層の有無		下層							
主要流末概念図									
線形概要	測点								
	縦断線形								
平面線形	配								
	距離								

※下段は、基準値を記入すること



# ボックスカルバート詳細設計調書 (その1)

( / )

## 1. 一般事項

業務名	
施設名	
路線名	
所在地	
距離	自 km 至 km
事務所名	
受注者名	
照査・管理技術者名	
設計年月日	平成 年 月 日

## 2. 設計条件

	用途区分	道路・水路・その他 ( )		適用基準等
	構造形式	一連ボックス・二連ボックス		
	製品区分	工場製品・場所打ち		
	標準設計	無・有	標準設計図No.	
	内空	一連・(二連左)	(二連右)	
	寸法	m	m	
	幅	m	m	
	高さ	m	m	
	総延長	L = m	分割数 n =	
	斜角	左口 ° / #	右口 ° / #	
	縦断勾配	i = %	すべり止め	有・無
	設計土被り	H <sub>D</sub> = m	単位重量	γ = ft/m <sup>3</sup>
	水位	H <sub>w</sub> = m	内部土砂	H <sub>s</sub> = m
	形式	直接・置換・杭*	杭種・杭径	
基礎	土質	N 値	N =	
支持地	単位重量	γ = ft/m <sup>3</sup>	内部摩擦角	φ = °
使用材料	粘着力	C = ft/m <sup>2</sup>	許容支持力	Q = tf
	コンクリート	設計基準強度 σ <sub>c</sub> =	kgf/cm <sup>2</sup>	
	鉄筋	SD295・SD345		

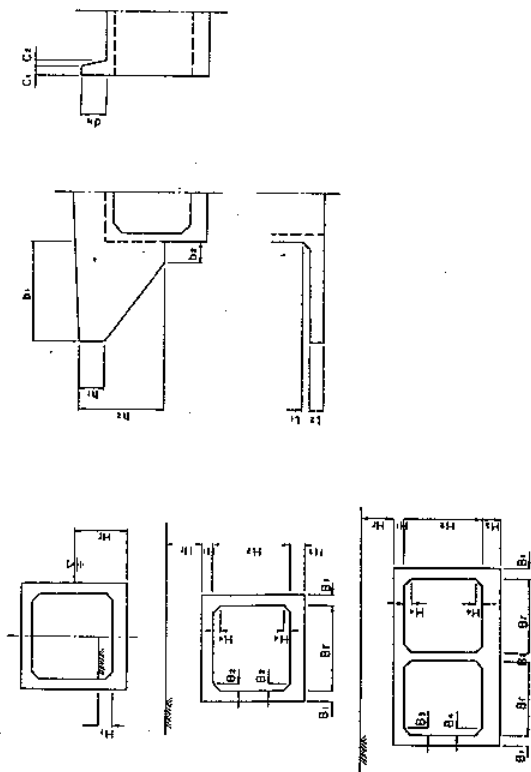
注：\*は杭基礎設計調書を参照のこと。

注：適用基準等欄の記載例  
道示 I-1-1~2 (適用基準短縮名-記載頁) で表示する。

# ボックスカルバート詳細設計調書 (その2)

3. 形状寸法データ

本体	$H_2$	m	$B_2$	m	右口右側		右口右側	
	$H_1$	m	$B_1$	m	$b_1$	m	$b_1$	m
	$H_2$	m	$B_2$	m	$b_2$	m	$b_2$	m
	$H_3$	m	$B_3$	m	$h_1$	m	$h_1$	m
	$H_4$	m	$B_4$	m	$h_2$	m	$h_2$	m
ウレタ	$b_1$	m	$b_1$	m	$t_1$	m	$t_1$	m
	$b_2$	m	$b_2$	m	$t_2$	m	$t_2$	m
	$h_1$	m	$h_1$	m	右口左側		右口右側	
	$h_2$	m	$h_2$	m	$c_1$	m	$c_1$	m
	$t_1$	m	$t_1$	m	$c_2$	m	$c_2$	m
土壁	$t_2$	m	$t_2$	m	$d_H$	m	$d_H$	m
	左口左側		左口右側		右口左側		右口右側	
	$c_1$	m	$c_1$	m	$d_H$	m	$d_H$	m
	$c_2$	m	$c_2$	m	左口左側		左口右側	
	$d_H$	m	$d_H$	m	$d_H$	m	$d_H$	m



# ボックスカルバート詳細設計調書 (その3)

## 4. 部材応力度

概要図		寸法図										設計位置図															
		頂	版	側	壁	底	版	ウ	イ	ン	グ	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	左口左側	左口右側	右口左側	右口右側			
断面図	材	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨																	
	位置																										
	図																										
断面力	M																										
	N																										
	S																										
鉄筋量	必要																										
	最小																										
	設計																										
応力度	鉄筋径																										
	間隔																										
	かぶり																										
	設計値																										
	許容値																										
設計調書・頁	σc																										
	σs																										
設計図・番号	τo																										
	σca																										
	σsa																										
	τoa																										

# 擁壁工詳細設計調書 (その1)

## 1. 一般事項

業務名			
施設名			
路線名	一般国道	号	
所在地			
距離	自	km	至
事務所名			
受注者名			
照会・管理技術者名			
設計年月日	平成	年	月 日

## 3. 土砂データ

項目	目	単位	裏込土砂	支持地盤	一般土砂
単位重量	( $\gamma$ )	ft/m <sup>3</sup>			
粘着力	(C)	ft/m <sup>2</sup>			
せん断抵抗角	( $\phi$ )	度			
変形係数	( $E_o$ )	kgf/cm <sup>2</sup>			
変形係数算出方法		-			
一軸圧縮強度	( $q_u$ )	kgf/cm <sup>2</sup>			

## 2. 構造条件

擁壁形式		通用基準等	
設置区分	前土・前土・懸脚・その他 ( )		
製品区分	工場製品・場所打ち		
標準設計	無・有 標準設計図No.		
基礎形式	直接・置換・杭* 杭種・杭径		
盛土高さ	H <sub>o</sub> = m 法面勾配 N =		
浮力考慮位置	上載分布荷重 P = ft/m <sup>2</sup>		
コンクリート強度	H <sub>w</sub> = m 突起 無・有		
鉄筋材質	$\sigma_{ok}$ = kgf/cm <sup>2</sup>		
設計水平震度	SD295・SD345		
	地盤土質 $\nu_1 =$ 地盤土質 $\nu_2 =$		
	$K_{hs} = \nu_1 \cdot \nu_2 \cdot 0.15 =$		
地盤第1層	土	質	厚
地盤第2層			平均N値
地盤第3層			
地盤第4層			
液状化判定	有・無		

注：\*は杭基礎設計調書を参照のこと。

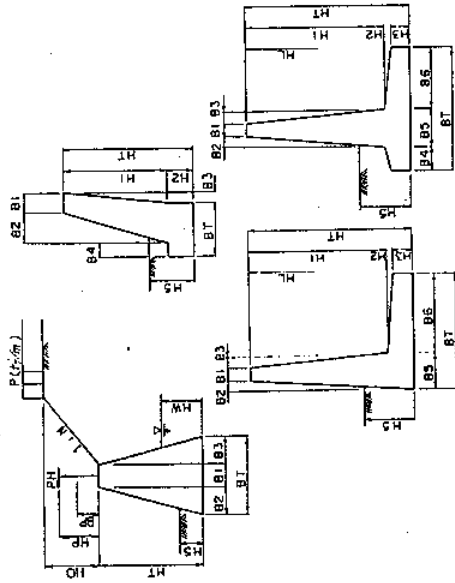
注：適用基準等欄の記載例

道示1-1-1~2 (適用基準短縮名一記載頁) で表示する。

# 擁壁工詳細設計調書 (その2)

## 4. 形状寸法データ

擁壁延長	TL =	m	前面土砂高	HS =	m
防置作用長さ	PH =	tf/m	作用位置	HP =	m, BP = m
断面 (大側)	H1	m	H2	H3	
	BT	B1	B2	B3	B4 B5 B6
	H1	m	H2	H3	m m m
断面 (小側)	BT	B1	B2	B3	B4 B5 B6
	H1	m	H2	H3	m m m
	BT	B1	B2	B3	B4 B5 B6



## 5. 安定計算結果

直接基礎安定計算結果総括表							
ヶ	ス	時		地		震	
		常	時	有	無	時	時
浮	力	有	無	許容値	有	無	許容値
偏	心量(c) (m)			B/6=			B/3=
滑	動安全率			1.5			1.2
最大地盤反力	度(tf/m <sup>2</sup> )						
鉛直支持力(Q)	(tf/m)						

杭基礎安定計算結果総括表							
ヶ	ス	時		地		震	
		常	時	有	無	時	時
浮	力	有	無	許容値	有	無	許容値
杭頭	押込 (tf/本)						
反力	引抜 (tf/本)						
水平変位	(mm)						

# 擁壁工詳細設計調書 (その3)

## 6. 部材応力度

概 要 図	寸 法 図		設計位置図														
	壁						フ ー チ ン グ						突 起				
	基 常	地 震 時	部 常	地 震 時	基 常	地 震 時	前 常	地 震 時	後 常	地 震 時	趾 常	地 震 時	趾 常	地 震 時	起 常	地 震 時	
材 置 状 態	基	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部
断 面 図																	
断 面 力	M	tf/m	N	tf/m	S	tf/m											
鉄 筋 量	必 要	cm <sup>2</sup>	最 小	cm <sup>2</sup>	設 計	cm <sup>2</sup>	鉄 筋 径	mm	間 隔	mm	か ぶり	mm	設 計 値	σ c	kgf/cm <sup>2</sup>	σ s	kgf/cm <sup>2</sup>
応 力 度	τ 0	kgf/cm <sup>2</sup>	σ ca	kgf/cm <sup>2</sup>	σ sa	kgf/cm <sup>2</sup>	τ 0a	kgf/cm <sup>2</sup>									
設 計 図 番 号	設計計算書・頁																

# 基礎工詳細設計調書

その1)

## 1. 一般事項

業務名	事務所名	
施設名	受注者名	
路線・河川名	照査・管理技術者名	
所在地	作成年月日	平成 年 月 日
距離標	km	左右岸の別

## 2. 基本事項

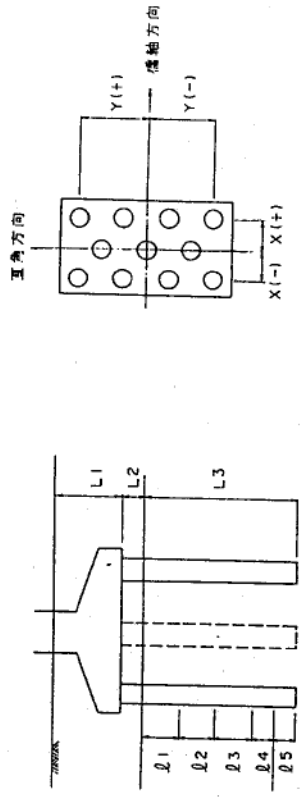
杭群への作用力	M	N	H	施工偏心ΔM		適用基準等
	tf・m	tf	tf	tf・m	tf・m	
基礎形式	径(または短辺×長辺)		基礎長			
基礎	m×m		m			
工形	頭部処理	施工方法	先端処理			
形態	底版の根入深さ	突出長さ	有効根入長さ			
地層区分	L1=	m	L2=	m	L3=	m
	l1=	m	l2=	m	l3=	m
	N1=		N2=		N3=	
	l4=	m	支持層地盤	l5=	m	
	N4=		N5=			
基本データ	鉄筋材質	コンクリート強度	杭材質	廣食代		
	σ <sub>ck</sub> =	kgf/cm <sup>2</sup>		mm		
	杭頭平均N値	変形係数	パネ	(常) KH=	tf/m <sup>3</sup>	KV=
	E <sub>0</sub> =	kgf/cm <sup>2</sup>	定数	(地) KH=	tf/m <sup>3</sup>	KV=
安	許容支持力(押込)	許容支持力(引抜)	許容支持力(水平)	変位		
	(常)					
定	(地)					

## 3. 基礎工配置データ

軸方向	No.	距離(X)	奥行方向の本数
直	1	m	本
角	2	m	本
方	3	m	本
向	4	m	本
杭	5	m	本
配	6	m	本
置	7	m	本
デ	8	m	本
ー	9	m	本
タ	10	m	本

軸	No.	距離(Y)	奥行方向の本数
直	1	m	本
角	2	m	本
方	3	m	本
向	4	m	本
杭	5	m	本
配	6	m	本
置	7	m	本
デ	8	m	本
ー	9	m	本
タ	10	m	本

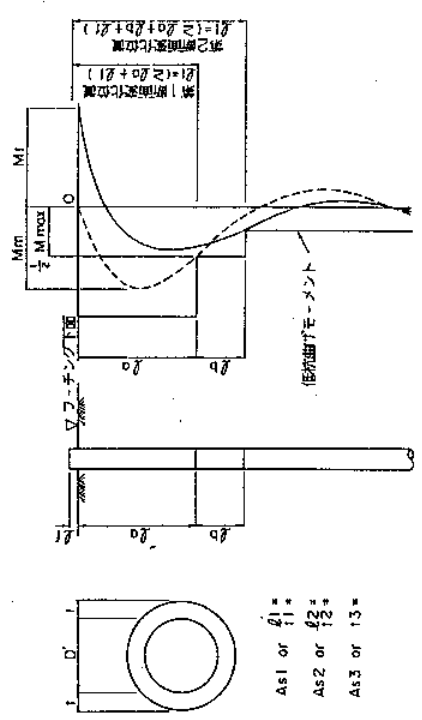


注：適用基準等、欄の記載例  
道示1-1~2 (適用基準短縮名一記載頁) で表示する。

軸方向 基礎工詳細設計調書 (その2) ( / )

計算ケース名	単位	常時	地震時	備考
使用鉄筋量	cm <sup>2</sup>			
発生値	kgf/cm <sup>2</sup>			
RC断面	kgf/cm <sup>2</sup>			
せん断応力度	kgf/cm <sup>2</sup>			
許容値	kgf/cm <sup>2</sup>			
せん断応力度	kgf/cm <sup>2</sup>			
許容値	kgf/cm <sup>2</sup>			
使用鉄筋量	cm <sup>2</sup>			
発生値	kgf/cm <sup>2</sup>			
RC断面	kgf/cm <sup>2</sup>			
せん断応力度	kgf/cm <sup>2</sup>			
許容値	kgf/cm <sup>2</sup>			
せん断応力度	kgf/cm <sup>2</sup>			
許容値	kgf/cm <sup>2</sup>			
使用鉄筋量	cm <sup>2</sup>			
発生値	kgf/cm <sup>2</sup>			
RC断面	kgf/cm <sup>2</sup>			
せん断応力度	kgf/cm <sup>2</sup>			
許容値	kgf/cm <sup>2</sup>			
せん断応力度	kgf/cm <sup>2</sup>			
許容値	kgf/cm <sup>2</sup>			

計算ケース名	単位	常時	地震時	備考
偏心直力量	m			
全鉛直力	t			
全水平力	t			
偏心モーメント	t・m			
抗頭変位量	mm			
変位	mm			
変位	t			
1本あたり	t/本			
前例 P Nmax	t/本			
後例 P Nmin	t/本			
最大曲げモーメント	t・m			
発生力	t・m			
抗筋又は板厚	kgf/cm <sup>2</sup>			
σ C	kgf/cm <sup>2</sup>			
σ S	kgf/cm <sup>2</sup>			
σ C	kgf/cm <sup>2</sup>			
σ S	kgf/cm <sup>2</sup>			
許容支持力	tf/本			
引抜き	tf/本			
圧縮応力度	kgf/cm <sup>2</sup>			
引張応力度	kgf/cm <sup>2</sup>			
発生値	kgf/cm <sup>2</sup>			
許容値	kgf/cm <sup>2</sup>			
発生値	kgf/cm <sup>2</sup>			
許容値	kgf/cm <sup>2</sup>			
発生値	kgf/cm <sup>2</sup>			
許容値	kgf/cm <sup>2</sup>			
発生値	kgf/cm <sup>2</sup>			
許容値	kgf/cm <sup>2</sup>			
発生値	kgf/cm <sup>2</sup>			
許容値	kgf/cm <sup>2</sup>			
発生値	kgf/cm <sup>2</sup>			
許容値	kgf/cm <sup>2</sup>			



$f_1 =$   
 As1 or I1 =  
 $f_2 =$   
 As2 or I2 =  
 $f_3 =$   
 As3 or I3 =

——— 抗頭固定とした場合の曲げモーメント(Mt)  
 - - - - - 抗頭ヒンジとした場合の曲げモーメント(Mm)

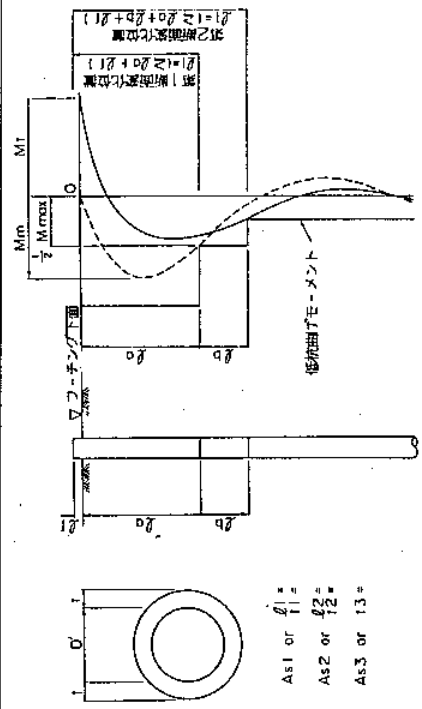


軸直角方向 基礎工詳細設計調書 ( その 3 ) ( / )

計算ケース名	単位	地震時		備考
		常	時	
使用鉄筋量	cm <sup>2</sup>			設計計算書 P 設計図番号 /
発生値	kgf/cm <sup>2</sup>			
引張応力度	kgf/cm <sup>2</sup>			
せん断応力度	kgf/cm <sup>2</sup>			設計計算書 P 設計図番号 /
許容値	kgf/cm <sup>2</sup>			
せん断応力度	kgf/cm <sup>2</sup>			
使用鉄筋量	cm <sup>2</sup>			設計計算書 P 設計図番号 /
発生値	kgf/cm <sup>2</sup>			
引張応力度	kgf/cm <sup>2</sup>			
せん断応力度	kgf/cm <sup>2</sup>			設計計算書 P 設計図番号 /
許容値	kgf/cm <sup>2</sup>			
せん断応力度	kgf/cm <sup>2</sup>			
使用鉄筋量	cm <sup>2</sup>			設計計算書 P 設計図番号 /
発生値	kgf/cm <sup>2</sup>			
引張応力度	kgf/cm <sup>2</sup>			
せん断応力度	kgf/cm <sup>2</sup>			設計計算書 P 設計図番号 /
許容値	kgf/cm <sup>2</sup>			
せん断応力度	kgf/cm <sup>2</sup>			
使用鉄筋量	cm <sup>2</sup>			設計計算書 P 設計図番号 /
発生値	kgf/cm <sup>2</sup>			
引張応力度	kgf/cm <sup>2</sup>			
せん断応力度	kgf/cm <sup>2</sup>			設計計算書 P 設計図番号 /
許容値	kgf/cm <sup>2</sup>			
せん断応力度	kgf/cm <sup>2</sup>			

計算ケース名	単位	地震時		備考
		常	時	
偏心量	c			設計計算書 P 設計図番号 /
全鉛直力	$\Sigma V$			
全水平力	$\Sigma H$			
偏心モーメント	$\Sigma M$			設計計算書 P 設計図番号 /
水平変位	$\delta x$			
鉛直変位	$\delta y$			
1本あたり	t			設計計算書 P 設計図番号 /
前例 P Nmax	t/本			
後例 P Nmin	t/本			
杭頭部	Mt			設計計算書 P 設計図番号 /
地中部	Mm			
最大曲げモーメント	Mt			
鉄筋又は板厚	$\sigma C$			設計計算書 P 設計図番号 /
	$\sigma S$			
	$\sigma C$			
	$\sigma S$			設計計算書 P 設計図番号 /
鉛直支持力	tf/本			
引抜き	tf/本			
許容応力度	kgf/cm <sup>2</sup>			設計計算書 P 設計図番号 /
引張応力度	kgf/cm <sup>2</sup>			
発生値	kgf/cm <sup>2</sup>			
許容値	kgf/cm <sup>2</sup>			設計計算書 P 設計図番号 /
発生値	kgf/cm <sup>2</sup>			
許容値	kgf/cm <sup>2</sup>			
発生値	kgf/cm <sup>2</sup>			設計計算書 P 設計図番号 /
許容値	kgf/cm <sup>2</sup>			
発生値	kgf/cm <sup>2</sup>			
せん断応力度	kgf/cm <sup>2</sup>			設計計算書 P 設計図番号 /
許容値	kgf/cm <sup>2</sup>			
発生値	kgf/cm <sup>2</sup>			
せん断応力度	kgf/cm <sup>2</sup>			設計計算書 P 設計図番号 /
許容値	kgf/cm <sup>2</sup>			
発生値	kgf/cm <sup>2</sup>			
水平支圧力	kgf/cm <sup>2</sup>			設計計算書 P 設計図番号 /
許容値	kgf/cm <sup>2</sup>			
発生値	kgf/cm <sup>2</sup>			
水平方向引抜き	kgf/cm <sup>2</sup>			設計計算書 P 設計図番号 /
許容値	kgf/cm <sup>2</sup>			
発生値	kgf/cm <sup>2</sup>			



2. 交差点計画

交差点名		通称・番号・記号等				
交差点部 設計	交差点制御方法 ( 信号制御 ・ 一時停止 )	設計直向 の別 (○印)	交差点付近 の設計速度	交差点付近横断 勾配・区間距離	曲線半径 (m)	交差角度
	主	小型車 普通車 ミニ				
	従					
	右左折車通行方法	導流路曲線半径 (m)				
	方面から	右折	外側	内側		導流路幅員 (m)
	方面から	左折	外側	内側		
	方面から	右折	外側	内側		
	方面から	左折	外側	内側		
	方面から	右折	外側	内側		
	方面から	左折	外側	内側		
	主	主				
	従	従				
交通量	現況 予測 車種別 方向別 歩行者 特異交 通流等					
線 設置計 画	計画 右折 付加車線 の有・無 (○印) 左折車線 (○印) の必要性 (有・無)	計画 右折 付加車線 の有・無 (○印) 左折車線 (○印) の必要性 (有・無)	滞留長 7-8-1長 (減速車線長)	滞留長 7-8-1長 (減速車線長)	付加車線幅員 本線シフト区間長	付加車線幅員 本線シフト区間長

1. 計画概要

業務名											
所在地											
事務所名	工事事務所										
受注者名	(社) 〇〇建設										
作成年月日	平成	年	月	日							
事業区分	点 (交差点)・線 (道路)・面 (地域) の改良・新設 (○印)										
全体計画	km	今回計画 (内数)			km						
事業計画	着手 用地買収 工事完了 供用開始	年	月	年	月	年	月	年	月	年	月
道路名	主道路										
	主道路										
	従道路										
	従道路										
道路の 構造・規格	主従 の別	道路区分	設計速度 (km/h)	最急縦断 勾配 (%)	最小曲線 半径 (m)	標準横断面 構成 (m)					
	主	種 級				全幅 m					
	主	種 級				全幅 m					
	従	種 級				全幅 m					
	従	種 級				全幅 m					
標準横断面図											
主											
従											

※下段は適用基準等、発行年月日と適合ページを記入する。

平面交差点詳細設計調書 ( その 2 )

( / )

5. 事業計画上の問題点及び今後の調整事項

--

3. 道路管理者所管の交通安全施設等の計画

視線誘導標 道路照明 防柵 歩道	(有・無) (有・無) (有・無) (有・無) (交差点部) (交差点部) (交差点部) (歩車道境界) (計画区間全線) (計画区間全線) (計画区間全線) (路外境界線) (両側) (片側) (歩車道境界) (ポツの高さ cm) (カットバック) (フラット)
通学路	通学路の指定 (有・無) 将来の可能性 (有・無)
その他	

注：道路照明、バス停、通学路の位置等は、図面上に正確に図示すること。

4. 交通規制計画

線の規制	主	現況	事業後
	従	現況	事業後
点の規制	主	現況	事業後
	従	現況	事業後
信号機	交差点名 概信号機 信号機運用状況	色灯減 移設、増灯の必要性 新設の必要性	(有・無) (時間) (時間) (時間) (有・無) (有・無)
横断歩道・自転車横断帯			
その他			

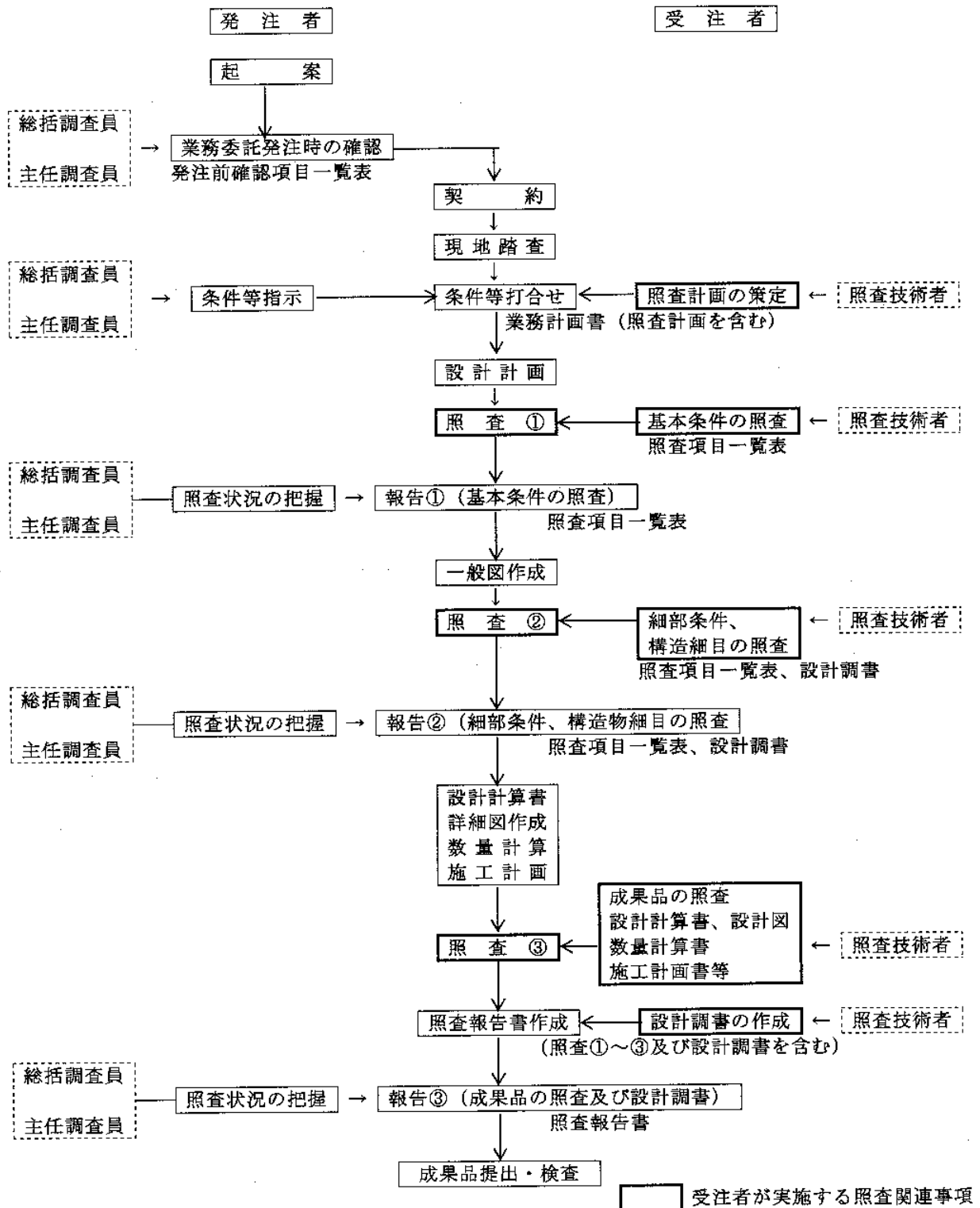


橋 梁 設 計 照 査 要 領

平成10年4月



# 橋梁詳細設計照査フローチャート



注記 ※ 照査②の段階より、設計調書の有効活用を図る。  
 ※※ 工程に関わる照査・報告①②③の時期は、業務計画書提出時に打ち合わせにより設定する。





# 発注前確認項目一覧表

業務名: \_\_\_\_\_

発注者名: \_\_\_\_\_

確認の日付: 平成 年 月 日

総括調査員	主任調査員
発注者印	

発注前確認項目一覧表

NO	項目	主な内容	確認資料	該当対象	確認	備考
1	設計の目的、主旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 設計の目的、主旨は理解したか</li> <li>2) 関連する他事業はあるか</li> <li>3) 全体計画、暫定計画は明確になっているか</li> </ul>	共通仕様書 特記仕様書			
2	設計の範囲、内容、数量、 履工期間	設計範囲、内容、数量、履工期間は決定しているか	"			
3	路線名、橋梁名、計画区間、 工事時期	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 路線名は決定しているか</li> <li>2) 橋梁名は決定しているか</li> <li>3) 計画区間は決定しているか</li> <li>4) 工事時期は決定しているか</li> </ul>	"			
4	道路の幾何構造	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 道路規格は決定しているか</li> <li>2) 設計速度は決定しているか</li> <li>3) 幅員構成は決定しているか</li> <li>4) 暫定計画、将来計画と整合しているか</li> <li>5) 橋梁計画と一体的に整備されている構造物（共同溝、護岸、取付道路等）と整合しているか</li> </ul>	"			
5	設計基本条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 新技術、新工法の採用は検討したか</li> <li>2) 構造形式、橋長、スパン割りは決定しているか</li> <li>3) 設計荷重は決定しているか</li> <li>4) 考慮すべき特殊荷重は明確になっているか (添架物、遮音壁、標識等)</li> <li>5) 考慮すべき設計基準は決定しているか</li> <li>6) 塩害に対する検討をしたか</li> <li>7) 雪処理の方法を検討したか</li> <li>8) 盛土構造等他の構造と比較検討をしたか</li> </ul>	"			
6	施工上の基本条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 架設条件は決定しているか</li> <li>2) 環境対策は決定しているか</li> <li>3) 運搬路、迂回路、ヤード確保の見通しはあるか</li> <li>4) 仮橋は設置するか</li> <li>5) 現道の交通処理方法は決定しているか</li> <li>6) 近接構造物の有無に対する確認はおこなったか</li> <li>7) 旧橋は撤去するか</li> </ul>	"			

発注前確認項目一覧表

NO	項目	主な内容	確認資料	該当対象	確認	備考
7	関連機関との調整	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 河川との調整は済んでいるか</li> <li>2) 道路管理者との調整は済んでいるか</li> <li>3) 鉄道との調整は済んでいるか</li> <li>4) 警察及び地権者との調整は済んでいるか</li> <li>5) 地元及び地権者との調整は済んでいるか</li> <li>6) 添架企業者（埋設占用物件）との調整は済んでいるか</li> <li>7) 公益企業者（埋設占用物件）との調整は済んでいるか</li> <li>8) 漁業権との調整は済んでいるか</li> </ol>	関連機関との協議書			
8	既往資料の確認	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 道路予備設計の内容と問題点は明確になっているか</li> <li>2) 橋梁予備設計の内容と問題点は明確になっているか</li> </ol>	関連資料			
9	貸与資料の確認	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 道路予備設計はあるか</li> <li>2) 橋梁予備設計はあるか</li> <li>3) 地質調査報告書（適切な位置と本数調査項目）はあるか</li> <li>4) 測量成果（平面、横断、縦断）はあるか</li> <li>5) 埋設台帳はあるか</li> <li>6) 軟弱地盤の判定に必要な資料（側方移動、液状化、圧密沈下等）はあるか</li> <li>7) ジャストボーリングの有無</li> <li>8) その他共通仕様書に示された資料はあるか</li> </ol>	特記仕様書 関連資料			
10	環境及び景観検討の必要性	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 必要性の有無は決定しているか</li> <li>2) デザインコンセプトは決定しているか</li> <li>3) 必要な環境及び景観検討資料の種類は決定しているか</li> <li>4) 夜間の景観及び照明設計の有無は決定しているか</li> </ol>	特記仕様書			

発注前確認項目一覧表

(追加項目記入表)

NO	項目	主な内容	確認資料	該当対象	確認	備考

# 基本条件の照査項目一覧表

( 照査 ① )

業務名: \_\_\_\_\_

発注者名: \_\_\_\_\_

受注者名: \_\_\_\_\_

照査の日付: 平成 年 月 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

基本条件の照査項目一覧表（様式-1）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査①		備考
				該当対象	照査	
1	設計の目的、主旨	1) 目的、主旨は理解したか 2) 地域構想等の関連する上位計画を把握したか 3) 設計の主な項目、工程について具体的内容を把握したか 貸与資料の不足及び追加事項はあるか	業務計画書			
2	貸与資料の問題点	貸与資料の不足及び追加事項はあるか	打合せ資料			
3	現地踏査	1) 地形、地質、現地状況は把握したか 2) 交通状況、河川状況は把握したか 3) 環境状況（振動、騒音等の配慮）は把握したか 4) 支障物件の状況は把握したか 5) 施工時の注意事項は把握したか	現場写真他			
4	設計基本条件	1) 構造形式は適正か（経済性、安全性、施工性、景観性、総合評価等）特に、予備設計成果との整合は図れているか 2) 橋長、スパン割りは適正か 3) 道路規格は適正か 4) 荷重条件（設計時、施工時）は適正か 5) 特殊荷重の位置、大きさは確認したか 6) 施工条件の基本は確認したか（時期、スペース、環境、交通条件、安全性の確保、近接施工） 7) 使用すべき設計基準は把握したか 8) 暫定計画、将来計画と整合しているか 9) 塩害に対する検討をしたか 10) 雪処理の方法を検討したか 11) 関連する設計と整合がとれているか	基本条件検討書			
5	幾何構造、線形条件	1) 幅員構成、幅員変化、平面線形は適正か 2) 縦断線形は適正か 3) 座標系と基準点は適正か	”			

基本条件の照査項目一覧表（様式—1—）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査①		備考
				照査対象	照査	
6	橋面工、付属工の基本条件	1) 横断勾配、舗装厚は適正か 2) 歩道構造は適正か 3) 地覆、高欄は適正か 4) 遮音壁は適正か 5) 照明柱、標識柱は適正か 6) 排水工は適正か 7) 伸縮継手は適正か（ゴム伸縮継手の可能性を確認したか） 8) 検査路は適正か 9) 支承は適正か（ゴム支承の可能性を確認したか） 10) 踏掛板は適正か 11) 護岸工は適正か 12) 適用基準は適正か 13) 落橋防止装置の選定は適正か 14) その他付属構造物を設置する必要があるか	基本条件検討書			
7	交差条件	1) 河川条件は満足するか（基準径間長、障害率、流心方向、桁下余裕等） 2) 道路交差条件は満足するか（建築限界、桁下余裕、平面線形、桁架設法等） 3) 鉄道交差条件は満足するか（建築限界、桁下余裕、平面線形、桁架設法、架線処理方法等） 4) 支障物件への対応方法は検討したか 5) 交差協議に関わる協議資料作成の種類と内容は確認したか 6) フーチングの根入れは適切か（交差条件等）	〃			
8	地盤条件	1) 土質定数の設定は妥当か 2) 支持力、地盤バネ値の設定は妥当か 3) 水位、水圧の評価は妥当か 4) 構造図と柱状図との位置関係は妥当か 5) 軟弱地盤として検討する必要性を確認したか 6) 地盤から決まる許容支持力は妥当か	〃			

基本条件の照査項目一覧表（様式-1）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査①		備考
				照査対象	照査	
9	耐震検討	7) 支持層が岩の場合の考え方は妥当か 8) 支持層の設定位置は妥当か 1) 耐震検討は妥当か（地盤種別、固有周期、水平震度等） 2) 動的解析の必要性を確認したか 3) 地震力を分散させる構造系を配慮しているか	基本条件検討書			
10	地形条件	1) 用地境界は確認したか 2) 施工ヤードスペースは確認したか 3) 資機材運搬路は確保できるか	〃			
11	使用材料	1) 使用材料と規格、許容応力度は妥当か（鋼、コンクリート、PC等） 2) 特殊材料の供給条件は確認したか	〃			
12	環境及び景観検討	1) 環境及び景観検討の必要性、デザインコンセプト、範囲等は理解したか 2) 環境及び景観検討の検討の具体的方法、作成すべき資料等は明らかとなっているか	〃			



(追加項目記入表)

基本条件の照査項目一覧表（様式—1）

NO	項 目	主 な 内 容	提示資料	照 査 ①		備 考
				該 当 対 象	照 査	

# 細部条件の照査項目一覧表 ( 照査 ② )

業 務 名 : \_\_\_\_\_

発注者名 : \_\_\_\_\_

受注者名 : \_\_\_\_\_

照査の日付 : \_\_\_\_\_ 平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

細部条件の照査項目一覧表（様式-2）

NO	項目	主 な 内 容	提示資料	照 査 ②		備 考
				照 査 対 象	照 査	
1	上部構造	1) 適用基準は正しいか 2) 支承条件及び地盤条件と橋梁形式は整合しているか 3) 径間割りは妥当か 4) 構造骨組は妥当か 5) 桁配置は妥当か 6) 構造高は妥当か 7) P C 鋼材の選定及び配置は妥当か 8) 桁端部と桁遊間は妥当か 9) 床板厚、床組は妥当か 10) 解析法（適用プログラム、構造モデル）は適切か 11) 架設法を設計に考慮したか （運搬路、部材長、部材重量、架設方法と順序、施工ヤード、施工スペース、架設時の構造系等） 12) 材料使用区分は妥当か （鋼材、コンクリート、鉄筋） 13) 構造細目は妥当か （鉄筋かぶり、ピッチ、継手、折り曲げ位置等） （断面変化位置、鋼板厚、板幅、材料使用区分、継手部、補剛材、取付部等） 14) 橋面厚、付属工（検査路等）の計画変更はないか 15) 支承、落橋防止装置、伸縮装置、高欄等の設計条件は適切か 16) 塩害対策は適切か 17) 防水工は適切か 18) 塗装系は適切か	一般図及び設計条件検討書			
2	下部構造	1) 適用基準は正しいか 2) 橋台、橋脚の位置・形状は適正か 3) 支承条件は免震設計的に（F, M）は妥当か 4) 縁端距離は確保されているか 5) 形状、寸法の基本的統一は計られているか 6) 裏込土、埋戻土の種類と土圧係数は妥当か	〃			

細部条件の照査項目一覧表（様式-2）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査②		備考
				該当対象	照査	
3	基礎構造	<p>8) 施工法は配慮しているか (運搬路、施工法と順序、施工ヤード、 施工スペース等)</p> <p>9) 材料使用区分は妥当か</p> <p>10) 構造細目は妥当か (鉄筋かぶり、ピッチ、継手、折り曲げ位置等)</p> <p>11) 橋脚の地震保有水平耐力を確認したか</p> <p>12) 地下水の変動を確認したか</p> <p>1) 適用基準は正しいか</p> <p>2) 基礎形式は妥当か (直接基礎、杭、ケーソン、 ウェル等)</p> <p>3) 形式、寸法は妥当か (杭であれば、杭種、杭径等)</p> <p>4) 支持層への根入れは妥当か</p> <p>5) 液化化は問題ないか</p> <p>6) 軟弱地盤の場合、橋台の側方移動、圧密沈下量、杭 のネガティブフリクションの照査を行ったか</p> <p>7) 近接施工の問題はないか</p> <p>8) 設計理論と解析手法は妥当か</p> <p>9) 施工法は配慮しているか (運搬路、施工法と順序、施工ヤード等)</p> <p>10) 材料使用区分は妥当か</p> <p>11) 構造細目は妥当か (鉄筋かぶり、ピッチ、継手、抗頭処理等)</p> <p>12) 埋設物との取合いは問題ないか</p> <p>13) 地盤改良の必要性を確認したか</p> <p>14) 耐震設計上の基礎面、地盤面は適切か</p> <p>15) 土質定数は妥当か</p> <p>16) 基礎の地震時耐力及び変形性能を確認したか</p>	一般図及び 設計条件検 討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式—2）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査②		備考
				照査対象	照査	
4	付属構造物 (道路標識、照明、 添架物、遮音壁等)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 選定形式、位置、寸法は妥当か</li> <li>2) 適用基準は正しいか</li> <li>3) プレキャスト化、二次製品の使用等を配慮しているか</li> <li>4) 使用実績はあるか</li> <li>5) 維持管理性は配慮したか</li> <li>6) 本体との取合いは妥当か</li> <li>7) 通信管路及び照明用電源管路は計画されているか</li> <li>8) 景観を配慮しているか</li> <li>9) 路面排水の流末処理は妥当か</li> </ol>	設計条件検討書			
5	仮設構造物	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 選定形式、位置、寸法は妥当か（仮橋、土留工、二重締切等）</li> <li>2) 適用基準は正しいか</li> <li>3) 経済性が配慮されているか</li> <li>4) 安全確保が考慮されているか（安全率等）</li> <li>5) 支持層への根入れは妥当か</li> <li>6) 設計理論と解析手法は妥当か</li> <li>7) 材料使用区分は妥当か</li> <li>8) 埋設物との取合いは問題ないか</li> <li>9) 設置、撤去等施工性は配慮しているか</li> <li>10) 施工時期（非出水期、出水期等）を考慮して設計されたか</li> <li>11) 止水性についての検討がされているか</li> </ol>	"			
6	その他	埋設物、支障物件、周辺施設との近接等、施工条件が設計計画に反映されているか				

細部条件の照査項目一覧表（様式-2）

（追加項目記入表）

NO	項 目	主 な 内 容	提示資料	照 査 ②		備 考
				該 当 対 象	照 査	

# 成果品の照査項目一覧表 ( 照査 ③ )

業務名: \_\_\_\_\_

発注者名: \_\_\_\_\_

受注者名: \_\_\_\_\_

照査の日付: 平成 \_\_\_\_ 年 \_\_\_\_ 月 \_\_\_\_ 日

受注者印	照査技術者	管理技術者
------	-------	-------

成果品の照査項目一覧表（様式-3）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査③		備考
				照査対象	照査	
1	設計計算書	<p>1) 打合せ事項は反映されているか</p> <p>2) 計算上の仮定値と設計値との差は妥当か</p> <p>3) 安定計算結果は許容値を満たすか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タワミ量</li> <li>・変位量</li> <li>・安定に対する安定度</li> </ul> <p>4) 許容応力度の取り方は正しいか</p> <p>5) 荷重の組合せと割増し係数は適当か</p> <p>6) 二次応力を計算する必要は無いか</p> <p>7) 破壊安定度の照査をしたか</p> <p>8) 座屈規定に基づく計算がされているか</p> <p>9) 施工を配慮した計算となっているか</p> <p>10) 最小鉄筋量等構造細目は正しいか</p> <p>11) 所要のじん性率を確保するための帯鉄筋を配置しているか</p>	設計計算書			
2	設計図	<p>1) 打合せ事項は反映されているか</p> <p>2) 縮尺は共通仕様書と整合しているか</p> <p>3) 一般図には必要な項目が記載されているか (設計条件、地質条件、建築限界等)</p> <p>4) 構造図の基本寸法、高さ関係は照合されているか</p> <p>5) PCケーブル配置は計算書と一致しているか</p> <p>6) 構造詳細は適用基準及び標準構造と整合しているか</p> <p>7) 取り合い部の構造寸法は適正か</p> <p>8) 解り易い注記がついているか</p> <p>9) 付属物の形式、配慮、取り合いは妥当か</p> <p>10) 各設計図がお互いに整合されているか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般平面図と縦断図</li> <li>・構造図と配筋図</li> <li>・構造図と仮設図</li> </ul>	設計図			



成果品の照査項目一覧表（様式—3）

NO	項目	主 な 内 容	提示資料	照 査 ③		備 考
				該 当 対 象	照 査	
3	数量計算書	<p>1 1) 設計計算書の結果が正しく図面に反映されているか                      (特に応力計算、安定計算等の結果が適用範囲も                      含めて整合されているか)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・壁厚</li> <li>・鉄筋（径ピッチ、使用材料、ラップ位置、 ラップ長、主鉄筋の定着長、ガス圧接位置）</li> <li>・鋼材形状寸法</li> <li>・使用材料</li> <li>・その他</li> </ul> <p>1) 数量計算書は数量算出要領及び打合わせ事項と整合                      しているか（有効数字、位取り、単位、区分等）</p> <p>2) 数量計算に用いた寸法、数値は図面と一致するか</p> <p>3) 数量取りまとは種類毎、材料毎に打合わせ区分に                      合わせてまとめられているか</p> <p>4) 橋台の後打ちコンクリートを分離して計上して                      いるか</p>	数量計算書			
4	施工法検討	<p>1) 施工時の道路・河川等の切廻し計画は妥当か</p> <p>2) 工事用道路、運搬路計画は妥当か</p> <p>3) 施工ヤード、施工スペースは確保されているか</p> <p>4) 部材長、部材寸法、部材重量は適正か</p> <p>5) 施工法、施工順序は妥当か</p> <p>6) 支保工、仮設等は妥当か</p> <p>7) 施工工程は妥当か</p> <p>8) 経済性は配慮されているか</p> <p>9) 安全確保は配慮されているか</p> <p>10) 環境対策は配慮されているか</p> <p>1 1) 工事用仮設電源は検討されているか</p> <p>1 1) 施工機械の種類、規格は適切か</p>	施工計画書			

成果品の照査項目一覧表（様式-3）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査③		備考
				該当対象	照査	
5	設計調書	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 調書の記入は適正にされているか</li> <li>2) マクロ的に見て問題ないか                (主要寸法、主要数値(例、平米当たりコンクリート量                立米当たり鉄筋量等)を類似例、一般例と比較する)</li> </ul>	設計調書			
6	報告書	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 打合わせ事項は反映されているか</li> <li>2) 条件設定の考え方が整合しているか</li> <li>3) 比較・検討の結果が整理されているか</li> <li>4) 工事発注に際しての留意事項が記述されているか</li> </ul>	設計報告書			
7	TECRISの登録	TECRISの登録はされたか				

成果品の照査項目一覧表（様式－3） （追加項目記入表）

NO	項 目	主 な 内 容	提示資料	照 査 ③		備 考
				該 当 対 象	照 査	

# 橋梁設計調書

業務名	事務所名		工事事務所	
橋梁名	受注者名			
線名	管理技師・監査技師名			
所在地	作成年月日	年	月	日
施工箇所	起点側			
道路名	道路規格	種級		
交通量	台/12h	台/24h (大型車一方向)		
設計速度	km/h			
縦断勾配				
橋長	m	B活荷重、A活荷重、群集荷重		
橋面積	m <sup>2</sup>	Kh =		
幅員構成				
斜角				
適用示方書	上部工	W	E	T G
	下部工	有 ( m)、無		
	その他	舗装、舗装、		
	上部工	舗装厚		
	下部工	舗装厚		
	基礎工			
構造形式				
落橋防止装置	有、無			
予備設計	年度済、無	年度済、無		
河川名	川 ( 川水系)			
河川管理者	河川改修計画			
計画高流量	m <sup>3</sup> /sec	計画高水位	m	
基準径間長	m	計画高水位幅	m	
河積阻害率	%	計画堤防高	m	
護岸工別	左岸	右岸	TP.、その他	
交差物	道	路	航路	
交差線等名				
桁下余裕高	m	m	m	
側方余裕高	m	m	m	

一般形状図

概略側面図

概略断面図

特記事項等

# 鋼橋設計調書 [ P ~ P ]

( / )

橋梁形式	橋 ( P ~ P )		路線名		平面線形		橋長		L =		支間割		斜角		幅員	總幅員	Σ w =	Σ w =	設計震度	橋軸方向	橋軸方向	kh =
	構造形式	橋	高	橋	高	橋	間	割	割	割	割	割	割	割								
主桁	主桁数	本	桁高	比	死荷重	活荷重	mm															
	主桁間隔	本	桁高	H/L =	橋	み	mm ( / )															
横版	主桁数	本	横桁間隔	床版厚	鉄筋	係数	K <sub>1</sub> =		K <sub>2</sub> =													
	床版の種別	σ C <sub>r</sub> =	kgf/cm <sup>2</sup>	主鉄筋応力度	A <sub>s</sub> =	cm <sup>2</sup>	d φ =															
床版中間部の設計	設計基準強度																					
曲げモーメント	設計理論名																					
主桁の架設方法	主桁の架設方法																					
主桁の設計	曲げモーメント (tf·m)	支間中央		中間支点		側径間中央		Max														
		外桁 (G)	内桁 (G)	外桁 (G)	内桁 (G)	外桁 (G)	内桁 (G)	外桁 (G)	内桁 (G)													
せん断力 (tf)	U-Flg																					
	Web																					
断面	L-Flg																					
	コリヤート																					
応力度 (kgf/cm <sup>2</sup> )	U-Flg																					
	L-Flg																					
O <sub>1</sub> 繰り	τ																					
	τ																					
応力度報告頁	G1	G2	G3	G4	G5																	
	G1	G2	G3	G4	G5																	
端支点	死荷重反力 Rd																					
	活荷重反力 Rl																					
使用支点	合計反力 R																					
	使用支承反力																					
支承の種類	可動																					
	固定																					
中間支点	反力	G1	G2	G3	G4	G5																
	死荷重反力 Rd																					
使用支承反力	活荷重反力 Rl																					
	合計反力 R																					
支承の種類	可動																					
	固定																					



(/)

PC中空床版橋設計 [P ~ P]

橋梁名 構造形式	橋 (P ~ P)		路面線形		斜角	幅員	総幅員 有効幅員	Σw w	設計 震度	橋軸方向 直角方向	kh Kh	
	橋長 L=	橋高 高	支間割	最大橋み δ=								
主版	ボイド数	本	支間割	m	主版巾	m						
	ボイド間隔	dφ=, ctc=	橋高比	m	横桁厚さ	m						
横桁	横桁数	本	設計基礎強度	kgf/cm <sup>2</sup>	割増係数	K=						
	床版厚	mm	主鉄筋	σ <sub>ctc</sub> =	許容応力度	配力鉄筋						
床版 張出部 の設計	断面力 (tf・m/m)		σ <sub>ctc</sub> =									
	張出部		σ <sub>ctc</sub> =									
設計理論名		定着工法		PC鋼材の種類								
主桁の架設方法												
設計断面	曲げモーメント (tf・m)	位置	合成応力度 (kgf/cm <sup>2</sup> )		許容応力度 (kgf/cm <sup>2</sup> )		伸縮継手		種類		遊間	
			プレストレス 導入直後	設計荷重時	プレストレス 導入直後	設計荷重時	使用箇所	仕様	数量			
側径間 単純橋)	中央	上縁					コンクリート	m <sup>3</sup>				コンクリート1m <sup>3</sup> 当り量
中間支		下縁					外型枠	m <sup>2</sup>				
中央径間中央		上縁					内型枠	m <sup>2</sup>				
		下縁					鉄筋	t				
		上縁					P	t				
		下縁					C	t				
							鋼	t				
							材	t				
せん断検討位置		設計荷重時せん断力		終局荷重時せん断力		斜引張応力度		kgf/mm <sup>2</sup> < σ <sub>pa</sub>				
端支点位置		tf		tf								
中間支点位置		tf		tf								
端支点	モーメント	せん断力	有効巾	鉄筋量		応力度		水水平力伝達方法				
				σ <sub>a</sub> 許容値	σ <sub>c</sub> 許容値	τ 許容値	反力	反力	反力	反力	反力	反力
M <sub>A</sub> 正		A-		A-					P	P	P	P
M <sub>c</sub> 負		D	x	D	x				P	P	P	P
中間支点	モーメント	せん断力	有効巾	鉄筋量		応力度		使用支承反力				
				σ <sub>a</sub> 許容値	σ <sub>c</sub> 許容値	τ 許容値	使用支承反力	使用支承反力	使用支承反力	使用支承反力	使用支承反力	使用支承反力
M <sub>A</sub> 正		A-		A-					可動			
M <sub>c</sub> 負		D	x	D	x				固定			
支点上軸 直角方向 の設計		端部										

# RC中空床版橋設計 [ P ~ P ]

( )

橋梁名 構造形式	橋 (P ~ P)		平面線形		橋軸方向 直角方向	計 度	設 震	橋軸方向 直角方向	kh= Kh=
	橋長 L=	橋高 H/L=1/	支間割	斜角					
主版	ボイド数	本	最大撓み	σ =	mm(1/)				
	ボイド間隔	dφ = , ctc = m	主版巾		m				
横版	横桁数	本	横桁厚さ		m				
	床版厚	mm	割増係数	K =					
床版張出部の設計	断面力 (tf·m/m)		許容応力度						
	張出部		配力鉄筋						
設計理論名									
主桁の架設方法									
主版の設計	断面力		配筋	応力度	許容応力度				
	支	死荷重	tf·m	σ <sub>c</sub>	σ <sub>c.a</sub>				
		活荷重	tf·m	σ <sub>a</sub>	σ <sub>a.a</sub>				
	面	合計	tf·m	τ <sub>c</sub>	τ <sub>c.a</sub>				
		せん断力	tf	σ <sub>c</sub>	σ <sub>c.a</sub>				
	中	死荷重	tf·m	σ <sub>a</sub>	σ <sub>a.a</sub>				
		活荷重	tf·m	τ <sub>c</sub>	τ <sub>c.a</sub>				
	間	合計	tf·m	σ <sub>c</sub>	σ <sub>c.a</sub>				
		せん断力	tf	τ <sub>c</sub>	τ <sub>c.a</sub>				
	支	せん断力		鉄筋量	σ <sub>a</sub> 許容値	σ <sub>c</sub> 許容値	τ 許容値		
モーメント									
端	M <sub>A</sub> 正		A-				反力	単位	数量
	M <sub>c</sub> 負		D	X			死荷重反力 R <sub>d</sub>	m <sup>3</sup>	P
中間	M <sub>A</sub> 正		A-				活荷重反力 R <sub>l</sub>	t	P
	M <sub>c</sub> 負		D	X			合計反力 R	m <sup>2</sup>	P
支	M <sub>A</sub> 正		A-				使用支反力	m	P
	M <sub>c</sub> 負		D	X			支承の種類	可動 固定	P
使用箇所 種類									
伸縮継手									
主要材料									
反力 及び 支承									
棍 韌									

断面図・一般図



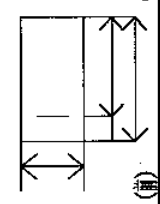
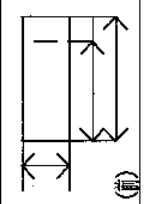
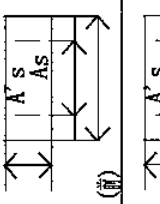
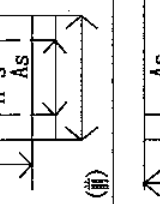
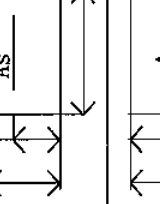
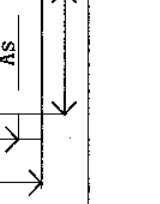
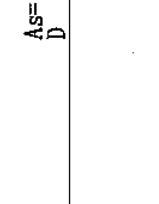
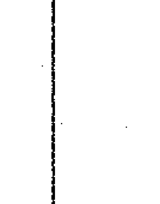
下: 工設計調書 總括表

( / )

上部 工形式	橋長	m	斜角	幅員	通用 示方 書	震度 補正 係數	橋梁名		備考
							地域別C <sub>1</sub>	重要度別C <sub>2</sub>	
下部工形式									
橋座幅	S(cm)	>							
支承形式 (Fix, Mov, H)	SE (cm)	>							
基礎形式		( )							
地盤種別 (C <sub>0</sub> )		種 ( )							
設計水平震度	橋軸方向								
	直方向								
液化化の判定									
上部工力	鉛直力	有・無							
	(tf)								
	橋軸方向								
	直方向								
背面土 (橋台)	r (tf/m <sup>3</sup> )								
	φ (°)								
	Kh								
軀体の保有水平耐力 Pa/P	橋軸方向								
	直方向								
常時	決定ケース								
直接基礎	支得力	<							
	倒	>							
	滑動	>							
地震時	決定ケース								
杭基礎	支得力	<							
	倒	>							
	滑動	>							
常時	決定ケース								
杭基礎	杭反力	<							
	杭頭変位	<							
地震時	決定ケース								
	杭反力	<							
	杭頭変位	<							
鉄筋材質		SD	SD	SD	SD	SD	SD	SD	
コンクリート強度 σ <sub>ck</sub>	kgf/cm <sup>2</sup>								
コンクリート体積 Q (m <sup>3</sup> )	kgf/cm <sup>2</sup>								
鉄筋重量 R (t) (R/Q)	( )								
型枠面積 A (m <sup>2</sup> ) (A/Q)	( )								
杭種									
杭径 × 杭長 × 本数		m × m × 本	m × m × 本	m × m × 本	m × m × 本	m × m × 本	m × m × 本	m × m × 本	m × m × 本

下部工設計調書 橋台 ( )

( / )

下部工 No. 土圧係数	時常地震時 寸法図	断面配筋		橋梁名		備考				
		部材・部位	荷重状態	作用力	断面配筋	応力度 (kgf/cm <sup>2</sup> )	備考			
概 要 図	※地下水位を記入すること 鉄筋配筋図	ハブレット① (主筋全面)		M (tf·m)		$0.002bd \leq As$ $0.02bd \geq As$	$\sigma_c$ $\sigma_s$	踏掛板 有・無		
				S (tf)					$As = \frac{cm^2}{D - ctc}$	$\tau$
		ハブレット② (主筋背面)		M (tf·m)		$0.002bd \leq As$ $0.02bd \geq As$	$\sigma_c$ $\sigma_s$			
				S (tf)					$As = \frac{cm^2}{D - ctc}$	$\tau$
		たて壁③ (変位断面)		M (tf·m)		$0.0015A < As$ $0.008A' < As$	$\sigma_c$ $\sigma_s$			
				N (tf)					$As = \frac{cm^2}{D - ctc}$	$\tau < 2/3ra$
				S (tf)					$As = \frac{cm^2}{D - ctc}$	
		たて壁④ (付根)		M (tf·m)		$0.0015A < As$ $0.008A' < As$	$\sigma_c$ $\sigma_s$			
				N (tf)					$As = \frac{cm^2}{D - ctc}$	
				S (tf)					$As = \frac{cm^2}{D - ctc}$	
		フィンガ⑤ (後趾)		M (tf·m)		$0.002bd \leq As$ $0.02bd \geq As$	$\sigma_c$ $\sigma_s$			
				S (tf)					$As = \frac{cm^2}{D - ctc}$	$\tau$
フィンガ⑥ (前趾)		M (tf·m)		$0.002bd \leq As$ $0.02bd \geq As$	$\sigma_c$ $\sigma_s$					
		S (tf)					$As = \frac{cm^2}{D - ctc}$	$\tau$		
ウイング		M (tf·m)		$0.002bd \leq As$ $0.02bd \geq As$	$\sigma_c$ $\sigma_s$					
		S (tf)					$As = \frac{cm^2}{D - ctc}$	$\tau$		
踏掛板		M (tf·m)		$0.002bd \leq As$ $0.02bd \geq As$	$\sigma_c$ $\sigma_s$					
		S (tf)					$As = \frac{cm^2}{D - ctc}$	$\tau$		

(S)

下部工設計調書 橋脚 ( )

下部工No.	断面応力度 (kgf/cm <sup>2</sup> )		橋梁名	
	梁 (付根)	梁 (せん断照査)	橋脚	橋脚
正面図	荷重方向・状態 M= tf・m 作用力 $\sigma_c$ $\sigma_s$ $0.002bd \leq Asl \leq 0.02bd$ 	荷重方向・状態 M= tf・m 作用力 $\sigma_c$ $\sigma_s$ $0.002bd \leq Asl \leq 0.02bd$ 	荷重方向・状態 S= tf 作用力 $\tau_m$ $\alpha \tau_{al}$ 所要斜引張鉄筋 D 一本、ctc	荷重方向・状態 S= tf 作用力 $\tau_m$ $\alpha \tau_{al}$ 所要斜引張鉄筋 D 一本、ctc
	柱 (壁) 付根 荷重方向・状態 M= tf 作用力 $\sigma_c$ $\sigma_s$ $\tau_m$ 所要斜引張鉄筋 D 一本、ctc $0.0015A(0.008A') \leq As \leq 0.06A$ $P_w = \% >$ 主鉄筋 As= 帯鉄筋 $d\phi =$	橋軸・地震時 tf・m N= tf 荷重方向・状態 M= tf 作用力 $\sigma_c$ $\sigma_s$ $\tau_m$ 所要斜引張鉄筋 D 一本、ctc $0.0015A(0.008A') \leq As \leq 0.06A$ $P_w = \% >$ 主鉄筋 As= 帯鉄筋 $d\phi =$	橋軸・地震時 tf・m 荷重方向・状態 M= tf 作用力 $\sigma_c$ $\sigma_s$ $\tau_m$ 所要斜引張鉄筋 D 一本、ctc $0.002bd \leq Asl \leq 0.02bd$ 	フーチング (付根) 橋軸・地震時 tf・m 荷重方向・状態 M= tf 作用力 $\sigma_c$ $\sigma_s$ $\tau_m$ 所要斜引張鉄筋 D 一本、ctc $0.002bd \leq Asl \leq 0.02bd$ 
側面図	フーチング (付根) 荷重方向・状態 M= tf・m 作用力 $\sigma_c$ $\sigma_s$ $0.002bd \leq Asl \leq 0.02bd$ 	フーチング (せん断照査) 荷重方向・状態 M= tf・m 作用力 $\sigma_c$ $\sigma_s$ $0.002bd \leq Asl \leq 0.02bd$ 	フーチング (せん断照査) 荷重方向・状態 M= tf・m 作用力 $\sigma_c$ $\sigma_s$ $0.002bd \leq Asl \leq 0.02bd$ 	フーチング (せん断照査) 荷重方向・状態 M= tf・m 作用力 $\sigma_c$ $\sigma_s$ $0.002bd \leq Asl \leq 0.02bd$ 



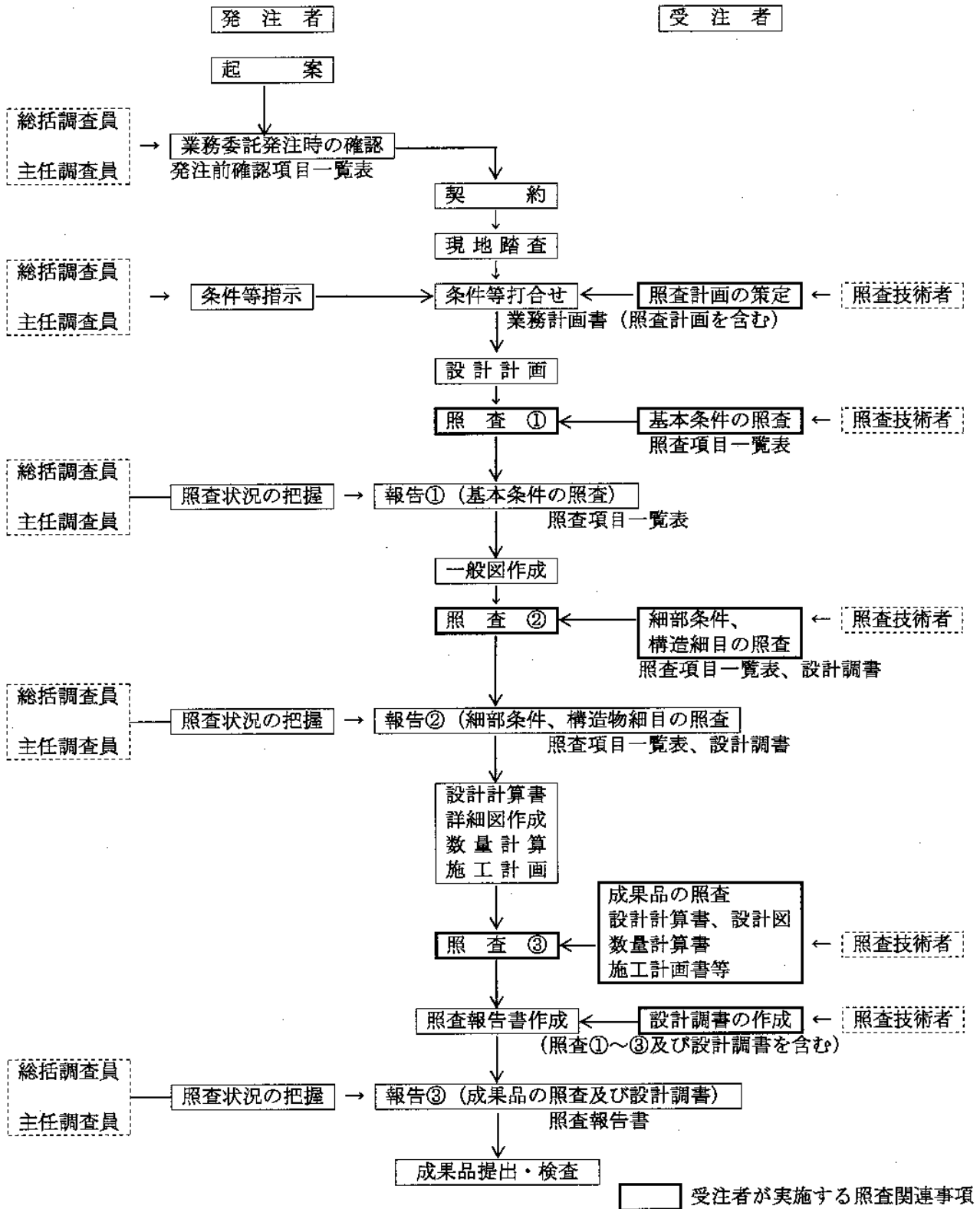
# 山岳トンネル詳細設計照査要領

本照査要領は、換気用施設（換気用立坑・斜坑・換気所、集塵機室等）を  
必要としない山岳の道路トンネル詳細設計に適用する

平成10年4月



# 山岳トンネル詳細設計照査フローチャート



注 記 ※ 照査②の段階より、設計調書の有効活用を図る。  
 ※※ 工程に関わる照査・報告①②③の時期は、業務計画書提出時に打ち合わせにより設定する。





# 発注前確認項目一覧表

業務名： \_\_\_\_\_

発注者名： \_\_\_\_\_

確認の日付： 平成 \_\_\_\_ 年 \_\_\_\_ 月 \_\_\_\_ 日

発注者印	総括調査員	主任調査員

発注前確認項目一覧表

NO	項目	主な内容	確認資料	該当対象	確認	備考
1	設計の目的・主旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 設計の目的・主旨は理解したか</li> <li>2) 関連する他事業はあるか</li> <li>3) 全体計画、暫定計画は明確になっているか</li> </ul>	共通仕様書 特記仕様書			
2	設計の範囲、内容、数量、履行期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 設計範囲、内容、数量、履行期間は決定しているか</li> <li>2) 予備設計の有無</li> </ul>	共通仕様書 特記仕様書			
3	路線名、トンネル名、計画区間、工事	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 路線名は決定しているか</li> <li>2) トンネル名は決定しているか</li> <li>3) 計画区間は決定しているか</li> <li>4) 暫定供用の計画はあるか</li> <li>5) 工事時期は決定しているか</li> </ul>	共通仕様書 特記仕様書			
4	設計条件 (道路)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 道路規格は決定しているか</li> <li>2) 設計速度は決定しているか</li> <li>3) 設計交通量 (大型車混入率を含む) は求められているか (10年後及び20年後)</li> <li>4) 幅員構成 (建築限界) は決定しているか</li> <li>5) 設計条件とする道路機可構造は暫定計画、将来計画と整合しているか</li> </ul>	共通仕様書 特記仕様書			
5	設計条件 (トンネル)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 新設・拡幅・改築のいずれか</li> <li>2) トンネルの概要 (延長、標準断面、地山区分、坑門形式、換気設備等) を把握しているか</li> <li>3) 設計荷重 (坑門工等) が決定しているか</li> <li>4) 考慮すべき特殊条件が明確になっているか (坑門前部の土工、法面工、排水工、落石防止工、地すべり対策工、杭工、内装板、換気方式等)</li> </ul>	共通仕様書 特記仕様書			
6	施工上の基本条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 運搬路、迂回路、仮設ヤード確保の見通しはあるか</li> <li>2) 工事時期と工程が明確になっているか</li> <li>3) 発生土の処理方法、運搬の指定が必要か</li> <li>4) 工事用電力の検討は必要か</li> <li>5) 工事用水の検討は必要か</li> <li>6) 排水基準は明確になっているか</li> </ul>	共通仕様書 特記仕様書			

発注前確認項目一覧表

NO	項目	主な内容	確認資料	該当対象	確認	備考
7	関連機関との調整	<p>7) 仮設橋、仮設ステージ等の仮設構造物は設置するか              8) 掘削の条件は必要か（肩押し又は両押し）              9) トンネルに付属する諸施設の用地は確保されているか              10) 損失補償の検討は必要か              11) 環境条件（公園内、都市部、土被り等）の特殊条件の有無              12) 有害物の検討が必要か</p> <p>1) 河川との調整が済んでいるか              2) 道路管理者との調整が済んでいるか              3) 環境（公園）管理者との調整は済んでいるか              4) 鉄道との調整が済んでいるか              5) 警察との調整が済んでいるか              6) 消防との調整が済んでいるか              7) 関連企業者（電気、ガス、水道等）の占有物はあるか              8) 法令等に基づく権利設定はあるか（鉱業権、水利権、地上権等）</p>	<p>共通仕様書              特記仕様書</p> <p>関連機関との協議書</p>			
8	既往資料の確認	<p>1) トンネル予備設計の内容と問題点が明確になっているか              2) 道路、橋梁等の予備設計あるいは詳細設計の内容と問題点が明確になっているか              3) トンネル地質調査の内容と問題点が明確になっているか（地すべり、破碎帯、地下水、膨張性の確認、N、C、φ、RQD等）              4) トンネル構造の概要と問題点が明確になっているか</p>	<p>予備設計及び              関連資料</p>			
9	貸与資料の確認	<p>1) トンネル予備設計はあるか              2) 道路、橋梁等の予備設計あるいは詳細設計はあるか              3) 地質調査報告書はあるか              4) 測量成果はあるか（平面図、横断面、縦断面、座標計算書、坑口付近の細部測量1/200等）              5) その他、共通仕様書に示された資料はあるか</p>	<p>共通仕様書</p>			
10	環境及び景観検討の必要性	<p>1) 必要性の有無が決定しているか              2) 配慮する場合はデザインコンセンサスが決定しているか</p>	<p>特記仕様書</p>			

発注前確認項目一覧表

NO	項目	主な内容	確認資料	該当対象	確認	備考
		3) 必要な景観検討資料の種類が決定しているか (CG、フォトモンタージュ、透視図等) 4) 景観条例等の制約の有無	特記仕様書			

発注前確認項目一覧表

(追加項目記入表)

NO	項 目	主 な 内 容	確 認 資 料	該 当 対 象	確 認	備 考

# 基本条件の照査項目一覧表 ( 照査 ① )

業 務 名 : \_\_\_\_\_

発注者名 : \_\_\_\_\_

受注者名 : \_\_\_\_\_

照査の日付 : 平成 年 月 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

基本条件の照査項目一覧表（様式-1）

NO	項目	主 な 内 容	提示資料	照 査 ①		備 考
				照 査 対 象	照 査	
1	設計の主旨・目的	1) 目的・主旨を理解したか 2) 地域構想等の関連する上位計画を把握したか 3) 設計の主な内容、工程などについて具体的方針を把握したか	業務計画書			
2	貸与資料の問題点	貸与資料の不足点・追加事項があるか	追加資料			
3	現地踏査	1) 地形、地質、現地状況を把握したか 2) 隣接既設構造物を把握したか (鉄道、道路、河川、水路、送電線鉄塔等) 3) 気象条件は把握したか 4) 水源地の有無を確認したか 5) 坑口の太陽光の入射方向を把握したか 6) 環境状況を把握したか (公園、砂防指定、保安林、文化財、学校、病院、地下水の状況等) 7) 支障物件の状況を把握したか 8) 施工計画の条件を把握したか (工事用水、濁水処理、工事用電力、工事用建物敷地、進入路等)	現場写真 等 他			
4	設計基本条件	1) 設計条件は適正か (道路規格、設計速度、設計交通量、巾員構成等) 2) 地山区分は適正か (岩種、弾性波速度値、地山強度比、ポーリングコアの状況等) 3) 断面の基本型は適切か (1心円～3心円) 4) 内空断面は妥当か (建築限界、換気施設、照明施設、非常用施設、内装、施工誤差余裕等) 5) 掘削方式は妥当か 6) 掘削工法は妥当か 7) 坑内運搬方式は妥当か 8) 標準パターンの適用は妥当か、また特殊パターンは必要か 9) 換気方式及び規模は適正か 10) 坑門工の形式、位置は適正か 11) 坑門工の荷重条件は適正か	基本条件 検討書			

基本条件の照査項目一覧表（様式－1）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査①		備考
				照査対象	照査	
5	幾何構造、線形条件	12) 照明施設、受電設備など電気設備設計は適正か 13) 非常用設備の計画は適正か（通報、警報設備、消火設備、避難誘導設備等） 14) 水源は確保されているか 15) 施工条件の基本は確認したか （工程、施工ヤード、ズリ運搬及び処理方式、受電点、給排水等） 16) トンネル特殊条件の対策は適正か （地すべり、地下水、湧水、偏圧、未固結層、膨張性地山等） 17) 使用すべき設計基準は把握したか 18) 関連する設計との整合はとれているか 19) 坑口の太陽光（西日等）の対策は必要か	基本条件 検討書			
6	交差条件	1) 幅員構成、幅員変化、平面線形は適正か 2) 縦断線形は適正か 3) 座標系と基準点は適正か 1) 隣接既設構造物等との離隔及び対応方法を検討したか 2) 交差協議に関わる協議資料作成の種類と内容を確認したか	基本条件 検討書  基本条件 検討書			
7	坑口部地盤条件	1) 坑口周辺の地形・地質の状況を把握したか 2) 土質定数の設定は妥当か 3) 支持力、地盤バネ値の設定は妥当か 4) 特殊条件（地すべり、偏圧、支持力不足等）の設定は妥当か 5) 水位の評価は妥当か	基本条件 検討書			
8	地形条件	1) 用地幅を確認したか 2) 施工ヤードを確認したか				
9	使用材料	使用材料と規格、許容応力度は妥当か				



基本条件の照査項目一覧表（様式－1）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査①		備考
				照査対象	照査	
10	環境及び景観検討	1) 景観検討の必要性、デザインコンセプト、範囲などが理解されたか 2) 景観検討の具体的方法、作成すべき資料などが明らかになっているか (CG、フォトモンタージュ、透視図等)	基本条件 検討書			

(追加項目記入表)

基本条件の照査項目一覧表（様式-1）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査①		備考
				該当 対象	照査	

細部条件の照査項目一覧表  
( 照査 ② )

業務名: \_\_\_\_\_

発注者名: \_\_\_\_\_

受注者名: \_\_\_\_\_

照査の日付: 平成 年 月 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

細部条件の照査項目一覧表（様式-2）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査②		備考
				該当対象	照査	
1	本体工	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 内空断面の設定は妥当か</li> <li>2) 標準支保パターンの適用は妥当か（吹付コンクリート厚、ロックボルト長・本数、鋼アーチ支保工寸法、覆工厚）</li> <li>3) 特殊断面（小断面、大断面、特殊地山における断面等）の支保パターンの適用は妥当か</li> <li>4) 補助工法は妥当か</li> <li>5) 坑口部の設定範囲（延長）、支保パターン、補助対策工等が妥当か</li> <li>6) 非常駐車帯部等の断面変化に対する設計は妥当か</li> <li>7) 掘削方式、掘削工法、坑内運搬方式は妥当か</li> <li>8) スリ捨て場の設定は妥当か</li> </ol>	一般図及び設計条件検討書			
2	坑門工及び明り巻き	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 坑門周辺の法面処理は妥当か</li> <li>2) 一般部との整合性は妥当か</li> <li>3) 形状寸法は妥当か</li> <li>4) 構造モデルは妥当か</li> <li>5) 計算手法は妥当か</li> <li>6) 材料の品質区分は妥当か                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンクリート</li> <li>・鉄筋等</li> </ul> </li> <li>7) 構造細目は妥当か                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄筋の被り</li> <li>・鉄筋のピッチ等</li> </ul> </li> <li>8) 本体工との連結は妥当か</li> </ol>	一般図及び設計条件検討書			
3	排水工	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 防水工が妥当か</li> <li>2) 裏面排水工が妥当か</li> <li>3) 横断排水工が妥当か</li> <li>4) 中央排水工が妥当か</li> <li>5) 各排水処理の接続は妥当か</li> <li>6) 集水柵間隔が妥当か</li> <li>7) プレキャスト化、二次製品の使用などを配慮しているか</li> <li>8) 排水流未処理は妥当か</li> <li>9) トンネル洗浄水の処理対策は妥当か</li> </ol>	一般図及び設計条件検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式-2）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査②		備考
				照査	対象	
4	舗装工	1) 舗装厚が妥当か 2) 目地間隔が妥当か 3) 材料の品質区分は妥当か	一般図及び設計条件 検討書			
5	非常用施設	1) 非常用施設配置は妥当か 2) 箱抜の位置、サイズ、補強は妥当か 3) トラフ寸法は、給水管、ケープルの点検収納が可能な寸法、構造となっているか 4) 配管の凍結対策を検討しているか 5) 各機器の漏水対策は妥当か 6) 電気設備設置計画との調整がとれているか	一般図及び設計条件 検討書			
6	仮設備計画	1) 施工ヤードの位置及び配置計画は妥当か 2) 工区割は妥当か 3) 坑外仮設備配置は妥当か 4) 送風、排気設備の配置は妥当か 5) 工事用電力の確保及び受電位置は妥当か 6) 給水源は妥当か 7) 環境対策（汚泥水処理設備、騒音対策等）は考慮されているか 8) 仮設構造物（仮設橋、仮設ステージ等）の計算手法は妥当か	一般図及び設計条件 検討書			

細部条件の照査項目一覧表（様式-2） （追加項目記入表）

NO	項 目	主 な 内 容	提示資料	照 査 ②		備 考
				照 査 対象	照 査	

成果品の照査項目一覧表  
( 照査 ③ )

業務名： \_\_\_\_\_

発注者名： \_\_\_\_\_

受注者名： \_\_\_\_\_

照査の日付： 平成 年 月 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

成果品の照査項目一覧表（様式—3）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査③		備考
				照査対象	照査	
1	設計計算書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 打合せ事項は反映されているか</li> <li>2) 許容応力度の取り方は正しいか</li> <li>3) 安定計算結果は許容値を満たすか</li> <li>4) 施工を配慮した計算となっているか</li> </ol>	設計計算書			
2	設計図	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 縮尺は共通仕様書と整合しているか</li> <li>2) 打合せ事項は反映されているか</li> <li>3) 設計計算書の結果が正しく図面に反映されているか</li> <li>4) 各設計図が互いに整合されているか</li> <li>5) 構造図の基本寸法、高さ関係は照合されているか</li> <li>6) 主筋の配置、鉄筋径、ピッチ、使用材料は計算書と一致しているか</li> <li>7) 構造詳細は適用基準及び打合せ事項と整合するか</li> <li>8) 取り合い部の構造寸法は適正か</li> <li>9) 分かり易い注記が付いているか</li> </ol>	設計図			
3	数量計算書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 数量計算は適用基準及び打合せ事項と整合しているか (有効数字、位取り、単位、区分……)</li> <li>2) 数量計算に用いた寸法は図面と一致するか</li> <li>3) 数量とりまとめは、種類毎に、材料毎に、打合せ区分に合わせてまとめられているか</li> </ol>	数量計算書			
4	施工設備計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 施工法が妥当であるか (掘削方式、掘削工法、坑内運搬方式等)</li> <li>2) 工事用設備計画は妥当か (工事中の換気、給気、給水、排水、濁水処理、工用電力等)</li> <li>3) 安全確保が配慮されているか</li> <li>4) 関係法令を遵守した計画になっているか</li> </ol>	施工設備計画書			
5	設計調書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 調書の記入は適正にされているか</li> <li>2) マクロ的に見て問題ないか (幾何構造、主要寸法、主要数量)</li> </ol>	設計調書			



成果品の照査項目一覧表（様式－3）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査③		備考
				該当対象	照査	
6	報告書	1) 条件設定の考え方が整合しているか 2) 比較・検討の結果が整合されているか 3) 設計思想の設定と考え方が妥当であるか	設計報告書			
7	TECRIS	TECRISの登録はしてあるか	登録証明書			

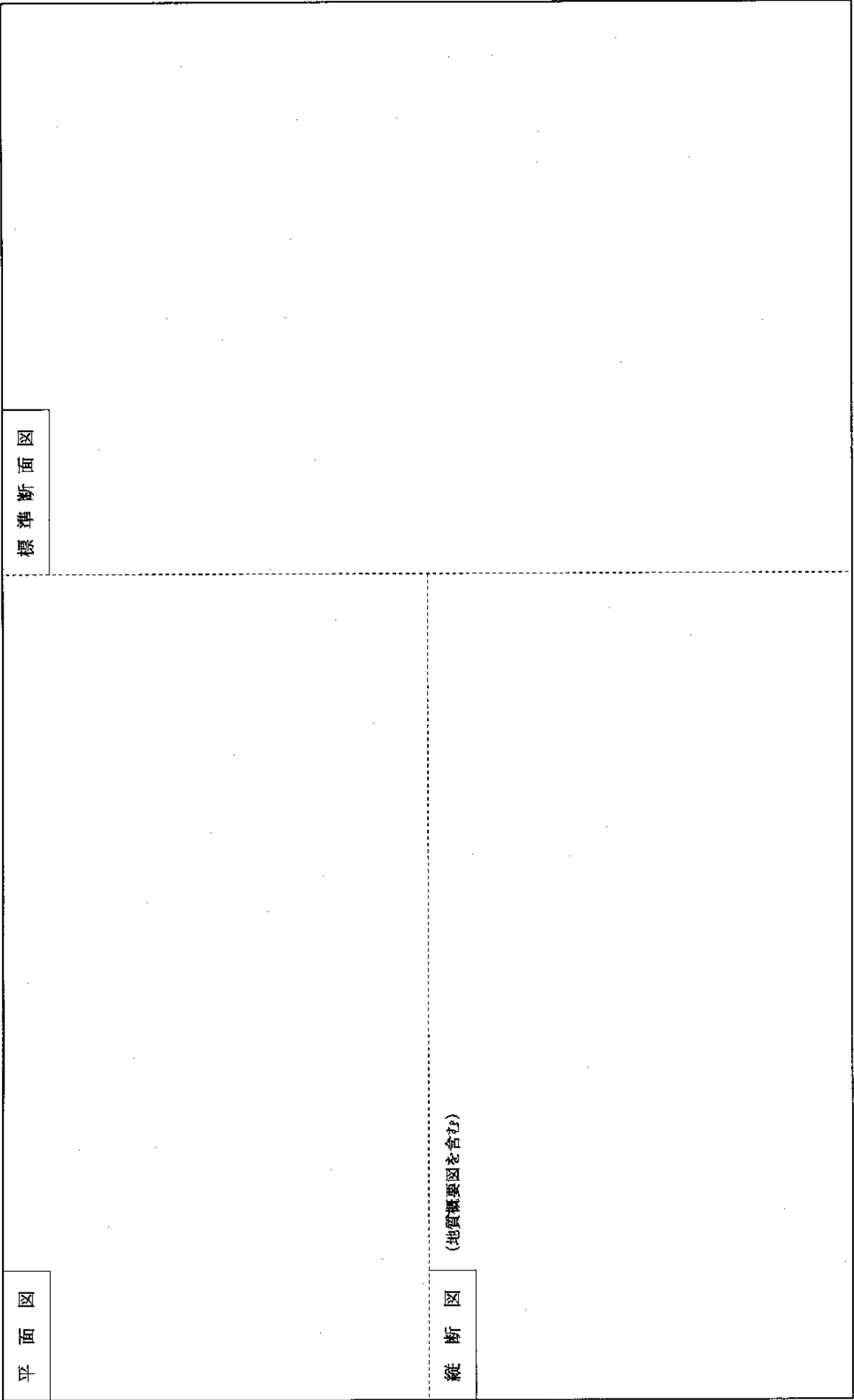
成果品の照査項目一覧表（様式－3）  
（追加項目一覧表）

NO	項 目	主 な 内 容	提示資料	照 査 ③		備 考
				該当 対象	照 査	



山岳トンネル詳細設計図書(2)

( / )



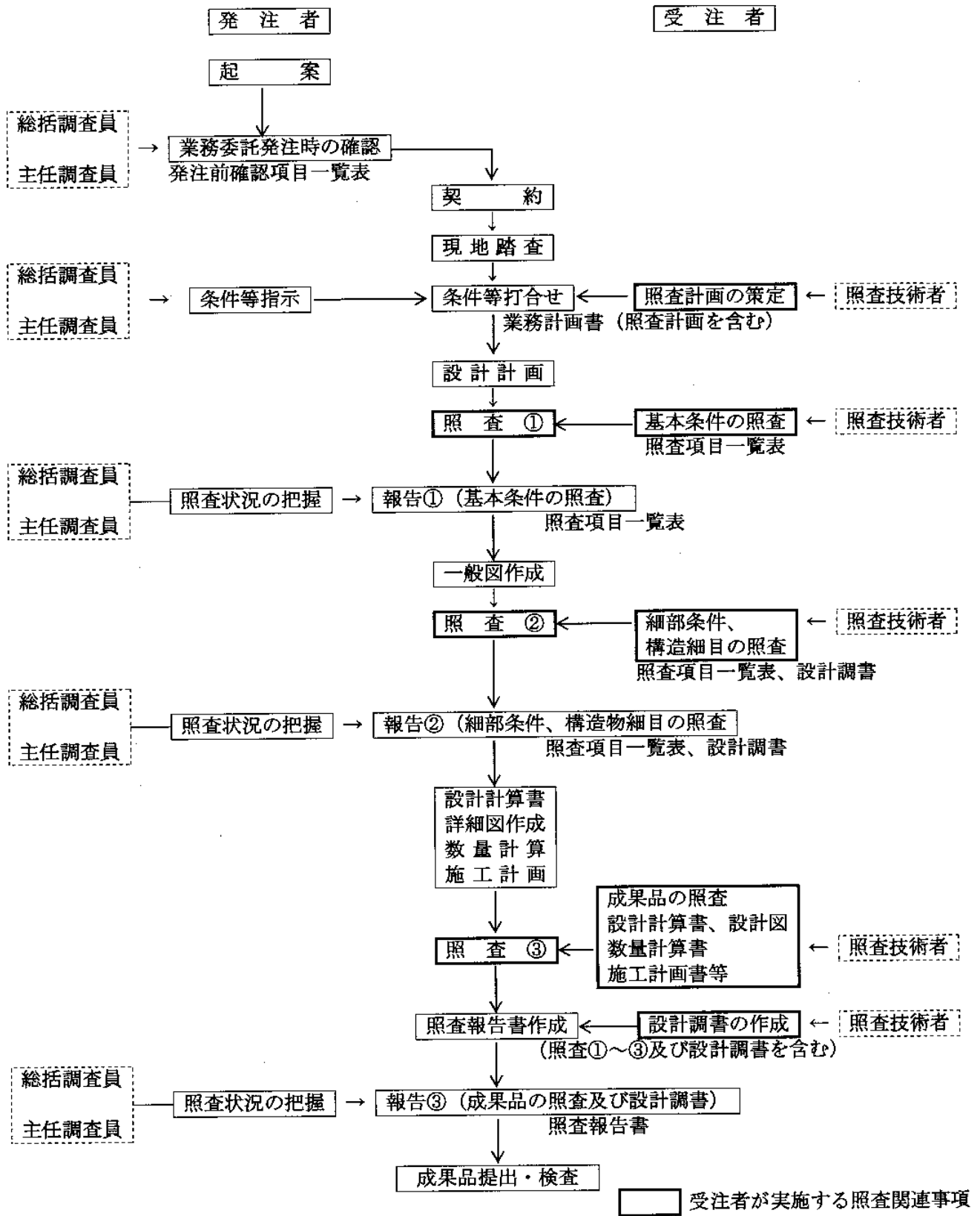
# 共同溝詳細設計照査要領

( 閉削工法に適用 )

平成10年4月



# 共同溝詳細設計の照査フローチャート



注記 ※ 照査②の段階より、設計調書の有効活用を図る。  
 ※※ 工程に関わる照査・報告①②③の時期は、業務計画書提出時に打ち合わせにより設定する。





# 発注前確認項目一覧表

業務名： \_\_\_\_\_

発注者名： \_\_\_\_\_

確認の日付： 平成 \_\_\_\_ 年 \_\_\_\_ 月 \_\_\_\_ 日

発注者印	総括調査員	主任調査員

発注前確認項目一覧表

NO	項目	主な内容	確認資料	該当対象	確認	備考
1	設計の目的・主旨	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 設計の確認・主旨は理解したか。</li> <li>2) 全体共同溝事業計画との整合</li> <li>3) 他事業計画との整合</li> </ol>	<p>共通仕様書 特記仕様書</p>			
2	設計の範囲、内容、数量、履行期間	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 設計範囲は適正に決定されているか。</li> <li>2) 設計内容は適正に決定されているか。(平面、横断形状等)</li> <li>3) 設計数量は適正に決定されているか。</li> <li>4) 設計履行期間は適正に決定されているか。</li> </ol>	<p>特記仕様書 基本検討報告書 予備設計報告書</p>			
3	路線名、共同溝名、計画区間、工事時期	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 路線名は決定しているか。</li> <li>2) 共同溝名は決定しているか。</li> <li>3) 計画区間は決定しているか。</li> <li>4) 工事時期は決定しているか。</li> <li>5) 隣接工区との関係は確認したか。</li> <li>6) 共同溝法の諸手続きの状況を確認したか。</li> </ol>	<p>特記仕様書</p>			
4	設計基本条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 各公益事業者との事前調整はなされているか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・収容物件の調整</li> <li>・収容条件の整理</li> <li>・一般部計画</li> <li>・特殊部計画(位置、分岐構造)</li> <li>・換気口部計画</li> <li>・線形計画(平面、縦断)</li> </ul> </li> <li>2) 適用基準が決定されているか。</li> <li>3) 工法比較検討(開削工法、シールド工法、他工法)は、現場への適応性が確認されているか。かつ、その適用範囲は決定されているか。開削工法は、現場打ちとプレキャストとの比較検討が適正にされているか。</li> <li>4) 建設副産物の処理方法を確認したか。</li> </ol>	<p>特記仕様書 基本検討報告書 予備設計報告書</p>			
5	施工上の基本条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 計画路線において施工上の見通しはどうか。</li> <li>2) ヤードの確保の見通しはどうか。</li> <li>3) 工事時期と工程が明確になっているか。</li> <li>4) 標準的交差処理計画が明確になっているか。</li> </ol>	<p>予備設計報告書</p>			

発注前確認項目一覧表

NO	項目	主な内容	確認資料	該当対象	確認	備考
6	関連機関との調整	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 河川管理者との調整は済んでいるか。</li> <li>2) 鉄道管理者との調整は済んでいるか。</li> <li>3) 高架橋管理者との調整は済んでいるか。</li> <li>4) 道路管理者との調整は済んでいるか。</li> <li>5) 地下施設（地下鉄、水路、横断地下道、その他大型施設等）との調整は済んでいるか。</li> <li>6) 上記について、今後の協議日程に対して設計履行期間が適正か。</li> <li>7) 5) 以外の地下埋設物件の移設、防護計画等はあるか。</li> <li>8) 地元及び地権者との調整の見通しはどうか。</li> <li>9) 他の事業計画、もしくは他部所との調整はとれているか。</li> </ol>	<p>関連事業者との協議書</p>			
7	関連資料の確認	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 道路の将来計画書の内容との整合はとれているか。</li> <li>2) 道路設計との整合はとれているのか。</li> <li>3) 関連事業計画の内容との整合はとれているか。</li> <li>4) 既存施設調査書（含地下埋設物調査資料）との整合はとれているか。</li> <li>5) 地質調査報告書との整合はとれているか。また地質調査は設計目的に対し十分な内容か。</li> <li>6) 交通量調査書との整合はとれているか。</li> <li>7) 基本検討及び予備設計報告書との整合はとれているか。</li> <li>8) 測量報告書（平面、縦断、横断等）との整合はとれているか。また測量は設計目的に対し十分な内容か。</li> <li>9) 環境状況（振動、騒音、井戸使用等の配慮面及び有毒ガス、酸欠空気等の調査）の調査は設計目的に対し十分な内容か。</li> </ol>	<p>各種既往資料</p>			

発注前確認項目一覧表

NO	項目	主な内容	確認資料	該当対象	確認	備考
8	貸与資料の確認	<p>1) 道路将来計画書はあるか。                  2) 道路の設計図書はあるか。                  3) 関連事業計画書はあるか。                  4) 既存施設調査(含地下埋設物調査資料)はあるか。                  5) 地質調査報告書はあるか。                  6) 交通基調査はあるか。                  7) 基本検討及び予備設計報告書はあるか。                  8) 測量報告書(平面、縦断、横断等)はあるか。                  9) その他</p> <p>共通仕様書及び特記仕様書に示される資料はあるか。</p>	共通仕様書			

(追加項目記入表)

発注前確認項目一覧表

NO	項目	主な内容	確認資料	該当対象	確認	備考

# 基本条件の照査項目一覧表 ( 照査 ① )

業務名: \_\_\_\_\_

発注者名: \_\_\_\_\_

受注者名: \_\_\_\_\_

照査の日付: 平成 年 月 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

基本条件の照査項目一覧表（様式—1—）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査①		備考
				該当対象	査	
1	設計の目的・主旨 範囲、内容、 数量、履行期間 貸与資料の確認	1) 目的・主旨を理解したか。 2) 設計の範囲、内容、数量、履行期間を把握したか。 3) 隣接工区との関係は確認したか。 貸与資料の不足点、追加事項はあるか。 (軟弱地盤における各種検討に必要なデータがあるか。)	業務計画書 打合せ書			
3	現地踏査	1) 地形（おぼれ谷、旧河川等）、地質などの自然状況を把握したか。 2) 沿道、交差物件、道路、交通、用地条件を把握したか。 3) 環境状況（振動、騒音、井戸使用等の配慮面）を把握したか。 4) 支障物件の状況を把握したか。 5) 施工時の注意事項を把握したか。	現場写真他			
4	適用基準	適用基準の確認はされているか。	設計検討書			
5	使用材料	使用材料の規格、許容応力度は適正か。	設計検討書			
6	設計基本条件	1) 一般部、特殊部、換気口部等の構造形式及び断面計画は適正か。またプレキャスト工法との比較検討はされているか。(経路性、安全性、機能性、施工性、維持管理、環境等が考慮されているか。) 2) 特殊部の配慮は（ケーブルジョイント、換気口、分岐、材投口等）適正か。 3) 荷重条件（設計時、施工時）は適正か。 4) 特殊荷重の位置、大きさは確認したか。 5) 施工条件の基本を確認したか。 6) 関連事業計画と詳細調整は図られているか。 7) 既設埋設物、危険物貯蔵タンク、近接構造物の位置、形状は確認したか。 8) 参画公益事業者に収容数、内空断面及び特殊部の配置の確認がなされたか。 9) 関連する設計との整合はとれているか。	設計検討書 設計検討書 設計検討書 協議用資料 埋設物件平面図 企業確認図			

基本条件の照査項目一覧表（様式-1）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査①		備考
				照査対象	照査	
7	幾何構造、線形条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 線形上のコントロールポイントは明確にされているか。</li> <li>2) 一般部、特殊部の内空は適正に把握しているか。</li> <li>3) 平面線形は適正か。</li> <li>4) 縦断線形は適正か。</li> <li>5) 座標系と基準点は確認したか。</li> <li>6) 起点、終点の計画(隣接工区との接続計画)は適正か。</li> </ol>	設計検討書 一般平面図 一般縦断図 排水計画書 測量成果品			
8	地盤条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 土質定数の設定は適正か。隣接工区との整合は図られているか。</li> <li>2) 支持力、地盤バネ値の設定は適正か。 (地盤改良した場合、その効果を考慮しているか。)</li> <li>3) 地下水位、地下水の評価は適正か。</li> <li>4) 液化化の判定は適正か。</li> <li>5) 地盤内間隙水圧の判定は適正か。</li> </ol>	設計検討書 土質調査報告書			
9	特殊検討	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 交差物件の検討方針、条件は適正か。</li> <li>2) 近接施工対策の検討方針、条件は適正か。</li> <li>3) 本体縦断の検討方針、条件は適正か。</li> <li>4) 大規模山留設計の条件は適正か。</li> <li>5) 耐震の検討方針、条件は適正か。</li> <li>6) 軟弱地盤の検討方針、条件は適正か。</li> <li>7) その他の特殊検討の検討方針、条件は適正か。</li> </ol>	設計検討書			
10	継手、防水	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 継手の方式は適正か。(地盤条件が考慮されているか。)</li> <li>2) 防水の方式は適正か。</li> <li>3) 継手の位置は適正か。</li> </ol>	設計検討書			



(追加項目記入表)

基本条件の照査項目一覧表（様式－1）

NO	項 目	主 な 内 容	提示資料	照 査 ①		備 考
				該 当 対 象	照 査	

# 細部条件の照査項目一覧表 ( 照査② )

業 務 名：

---

発注者名：

---

受注者名：

---

照査の日付： 平成 年 月 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

細部条件の照査項目一覧表（様式－2）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査②		備考
				該当対象	照査	
1	線形（平面、縦断）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 共同溝中心線は計画通り正しいか。</li> <li>2) 起点、終点部の位置は正しいか。</li> <li>3) 危険物貯蔵タンクを考慮した線形になっているか。</li> <li>4) 既設構造物及び将来計画構造物との離隔は施工性、交通処理を含め、協議によって決定されているか。</li> <li>5) 移設不可能な埋設物との離隔は施工性を考慮されているか。</li> <li>6) 官民境界までの離隔は所定の離隔以上確保されているか。</li> <li>7) 特殊部の位置は適正か。</li> <li>8) 屈曲点において、パイプ等の搬入が可能か。また、ハッチは適正か。</li> <li>9) 換気口部のピッチ及び立ち上がり位置は適正か。</li> <li>10) 隣接工区との整合は図られているか。</li> <li>11) ブロック割りは適正か。</li> <li>12) 一般部の土被りは所定の深さ以上確保されているか。</li> <li>13) 特殊部の土被りは所定の深さ以上確保されているか。</li> <li>14) 一般部の勾配は排水勾配を確保されているか。</li> <li>15) 急勾配区間の勾配は適正であるか。</li> <li>16) 道路勾配を考慮し、土被りが最小となるよう経済的かつ、機能的に計画されているか。</li> <li>17) 排水ピットの位置は適正か。</li> <li>18) 軟弱地盤に対して配慮されているか。</li> </ol>	<p>設計検討書 一般平面図 一般縦断面図 協議用資料</p> <p>換気計画書</p>			
2	荷重条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 舗装構成は正しいか。</li> <li>2) 地下水位の設定は適正か。</li> <li>3) 各単位重量及び活荷重は適正か。</li> <li>4) 静止土圧係数は適正か。（軟弱地盤は考慮されているか。）</li> <li>5) 鉛直荷重の設定は正しいか。</li> <li>6) 水平荷重の設定は正しいか。</li> <li>7) 特殊荷重は考慮されているか。</li> <li>8) 隣接工区との整合は図られているか。</li> </ol>	<p>設計検討書 土質調査報告書 構造計算書</p>			

細部条件の照査項目一覧表（様式-2）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査②		備考
				該当対象	照査	
3	本体構造物	<p>1) 適用基準は適正か。</p> <p>2) 設計断面の位置及び適用範囲は適正か。</p> <p>3) 設計モデルは適正か。</p> <p>4) 設計断面の内空形状寸法は適正か。</p> <p>5) 仮設時を考慮しているか。</p> <p>6) 使用材料、許容応力度は適正か。</p> <p>7) 各部材厚、使用鉄筋及び間隔は適正か。</p> <p>8) 材料使用区分は適正か。</p> <p>9) 継手の構造形状、材質は適正か。 (軟弱地盤を配慮しているか。)</p> <p>10) 防水工の材質は適正か。</p> <p>11) 施工方法（コンクリート打設量、打継自位置等）を配慮しているか。</p> <p>12) 配管・配線時に発生する特殊荷重を考慮しているか。</p> <p>13) 圧密沈下量は適正か。</p> <p>14) 耐震設計（縦断方向、液状化による浮き上がり）は考慮されているか。</p> <p>15) 基礎構造は適正か。</p> <p>16) 換気口部は防災を考慮した構造になっているか。 (油等が流入しない構造、積雪による閉塞をまねかない構造)</p> <p>17) 軟弱地盤対策は適正か。</p> <p>18) 防水扉は適切な配置となっているか。（河川の横断部）</p> <p>19) 継手部の位置は適切か。</p> <p>20) 換気設備設置箇所は断面は、換気設備の寸法を考慮しているか。</p> <p>21) 換気口部の構造は雨水の流入防止対策を考慮したものでなっているか。</p> <p>22) 自然強制換気口の設置位置は適切か。</p>	設計検討書 構造計算書			

細部条件の照査項目一覧表（様式一2）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査②		備考
				該当対象	照査	
4	換気設備	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 換気口の出入り口は所定の風速以下となっているか</li> <li>2) 洞道内風速は所定の風速以下となっているか。</li> <li>3) 電力用洞道換気の設計条件は適正か。</li> <li>4) 換気所要時間は所定の時間以内となっているか。</li> <li>5) 計算結果からファン仕様の選定は適正か。</li> <li>6) 換気ファンの設置、交換時を考慮した形状となっているか。</li> <li>7) 騒音の検討は行われているか。</li> <li>8) ガス洞道内の開閉器類は防爆型となっているか。</li> </ol>	換気計画書			
5	排水設備	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 排水量の算定計算は正しいか。</li> <li>2) 排水溝の幅、深さは適正か。</li> <li>3) 排水ピットの位置、集水量、形状は適正か。</li> <li>4) 排水管径、排水ルートは適正か。</li> </ol>	排水計算書			
6	付属物	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 各種付属物の設計は適正か。</li> <li>2) 隣接工区と仕様は一致しているか。</li> </ol>	各種付属物設計図			
7	仮設工法の選定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 沿道条件、交通処理方法を検討しているか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・昼夜間作業帯の設定</li> <li>・使用機種の設定</li> <li>・歩道切削</li> </ul> </li> <li>2) 地質、地下水対応が適正であるか。</li> <li>3) 既設構造物への影響が少ない工法であるか。</li> <li>4) 既設構造物の許容変位は設定されているか。また、その変状防止対策方法は妥当であるか。</li> <li>5) 経済性、施工性、安全性の面から総合的に工法の比較選定が行われているか。</li> </ol>	設計検討書 施工計画書			
8	仮設構造物	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 設計断面位置、幅及び深さは正しいか。</li> <li>2) 適用基準は正しいか。</li> <li>3) 材料の選定は適正か。（リース材、生材等について）</li> </ol>	設計検討書 施工計画書 仮設計算書			

細部条件の照査項目一覧表（様式－２）

NO	項目	主 な 内 容	提示資料	照 査 ②		備 考						
				照 査 対 象	照 査							
9	特殊検討部	4) 切ばり、腹起しの設置は施工性も考慮した適正な配慮となっているか。										
		5) 土質条件の設定は適正か。 (地盤改良した場合、影響を考慮しているか。)										
		6) 地下水位の設定は適正か。										
		7) 載荷重の設定は適正か。										
		8) 覆工版の材質及び形状寸法は適正か。										
		9) 無覆工、覆工の判断は適正か。										
		10) 山留め形式の選定は適正か。										
		11) 山留め区分（中規模土留め、中規模締切り、大規模山留め）は適正か。										
		12) 土圧、水圧荷重の設定値は適正か。										
		13) 中間杭の位置、ピッチ及び施工性は適正か。										
		14) 根入れ長さの計算は必要項目の計算がされているのか。										
		15) ボイリング、ヒーピング及び盤ぶくれの検討はされているか。										
		16) 補助工法の選定、範囲は適正か。										
		10					施工計画	1) 線形計画で特殊検討部の回避はなぜできなかったのか。	設計検討書 施工計画書			
								2) 沿道条件、交通対策、地層、地質条件等から施工可能な工法か。				
								3) 対策案は適切に検討されているか。				
10	施工計画	1) 施工方法及び順序（本体、仮設）は適正か。	設計検討書 施工計画書									
		2) 交通処理計画は適正か。										
		3) 特殊検討部の施工は適正か。										
		4) 同時施工は配慮されているか。										
		5) 環境への配慮はされているか。										
		6) 建設副産物の処理方法は適正か。										
		7) 支障埋設物件は考慮されているか。										

細部条件の照査項目一覧表（様式-2）

（追加項目記入表）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査②		備考
				該当対象	照査	

# 成果品の照査項目一覧表 ( 照査 ③ )

業 務 名 : \_\_\_\_\_

発注者名 : \_\_\_\_\_

受注者名 : \_\_\_\_\_

照査の日付 : \_\_\_\_\_ 平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

受注者印	照査技術者	管理技術者



成果品の照査項目一覧表（様式-3）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査③		備考
				該当対象	照査	
1	設計報告書 (設計計算書、 設計計画書、 施工計画書等)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 打ち合わせ事項は反映されているか。</li> <li>2) 設計条件、施工条件は適正に運用されているか。</li> <li>3) インプットされた値は適正か。</li> <li>4) 設計結果は許容範囲内、かつ、許容応力度及び使用単位は適正か。</li> <li>5) 報告書の構成は適正か。</li> <li>6) 図・表の表示は適正か。</li> </ol>	各設計報告書			
2	設計図	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 縮尺、用紙サイズ等は共通仕様書、または、特記仕様書と整合されているか。</li> <li>2) 打ち合わせ事項は反映されているか。</li> <li>3) 必要寸法、部材形状及び寸法等にもれはないか。</li> <li>4) 全ての図面において平面と縦断面図、あるいは平面図と横断面図等とが整合しているか。</li> <li>5) 各設計図がお互いに整合されているか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般平面図と縦断面図</li> <li>・構造図と配筋図</li> <li>・構造図と仮設図</li> </ul> </li> <li>6) 設計計算書の結果が正しく図面に反映されているか。 (特に応力計算、安定計算等の結果が適用範囲も含めて整合されているか。) <ul style="list-style-type: none"> <li>・壁厚</li> <li>・鉄筋(径、ピッチ、使用材料、ラップ位置、ラップ長、主鉄筋の定着長、ガス圧接位置)</li> <li>・鋼材形状、寸法</li> <li>・使用材料</li> <li>・その他</li> </ul> </li> <li>7) 附属金物類が適正に配置されているか。足りないものはないか。また余分なものはないか。</li> <li>8) 構造物の施工性に問題はないか。</li> <li>9) 寸法・記号等の表示は適正か。</li> </ol>	各設計図			

成果品の照査項目一覧表（様式－3）

NO	項目	主な内容	提示資料	照査③		備考
				該当対象	照査	
3	数量計算書	<p>1) 数量計算は数量算出要領または打ち合わせ事項と整合しているか。                      (工種分類、単位、有効数字、位取り、区分等)</p> <p>2) 数量計算に用いた数値は、設計図面と一致しているか。</p> <p>3) 数量全体総括、工区総括、ブロック総括等、打ち合わせと整合し、かつ転記ミスや集計ミスがないか。</p> <p>4) 各ブロック毎の数量的バランスは適正か。</p> <p>5) 使用する材料の規格及び強度等は記入されているか。</p>	数量計算書			
4	設計調書	<p>1) 調書の記入は適正か。</p> <p>2) マクロ的（他工事区等とオーダー的に比較して）に見て問題はないか。</p>	設計調書			
5	TECRISの登録	<p>1) TECRISの登録はされたか。</p>				

(追加項目記入表)

成果品の照査項目一覧表（様式-3）

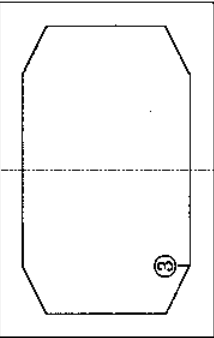
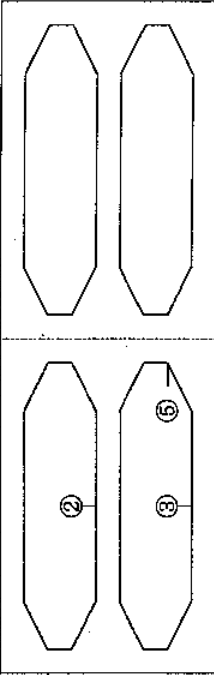
NO	項 目	主 な 内 容	提示資料	照 査 ③		備 考
				該 当 対 象	照 査	

共同溝詳細設計調書 (その1)

業務名	路線名	受注者名	
	所在地	照査技師者	
共同溝名	工事箇所名	管理技師者	
設計箇所	起点側	作成年月日	
延長	終点側	幅員	構成
適用示方書	S・H	m	年
設計活荷重	有・無		
予備設計	有・無		
特殊検討	交差物件	有・無	共同溝が車線に位置するか明記する。
	個所数	有	種別
	離隔	無	対策
	個所数	有	m
	離隔	無	種別
	コントロール	有・無	対策
	個所数	有・無	m
	対策	有・無	深さ
	耐震設計	有・無	有・無
	安定検討	有・無	対策
	その他	有・無	種別
基本照査事項	現地調査の結果が設計に反映されているか		
	線形(平面、縦断、横断)と道路との位置関係の再照査		
	ボーリングの位置、各種試験データ、地質柱状図の標高の確認		
	交通処理計画が適正に行われているか		
	埋設物(既設、計画)との位置関係が検討されているか		
	内空断面は確認済みか(占有企業者)		
	地下水位の設定は適切か		
	地盤の液状化判定及び対策の検討がされている		

基本照査事項	特殊部の位置は適正か	
	換気口の位置及びピッチが検討されているか	
	官民境界との離隔は1.0m以上確保されているか	m
	一般部の土被りは2.5m以上確保されているか	m
	特殊部の土被りは1.0m以上確保されているか	m
	一般部の縦断勾配は0.2%以上確保されているか	%
	設計条件(躯体、仮設)は整備されているか	
	仮設工法の検討は適正に行われているか	
	最終計算結果と設計図の寸法、主鉄筋、主鋼材の再照査	
	数量計算は必要項目(種別)が計上されているか	
	図面表示(起点、終点、1P点、ブロック割、その他)の有無	
使用材料	材質	コンクリート設計基準強度
		鉄筋引張り
		コンクリート曲げ圧縮
		コンクリートせん断
		σck= kgf/cm <sup>2</sup> SD=
		σsa= kgf/cm <sup>2</sup> σca= kgf/cm <sup>2</sup> τa= kgf/cm <sup>2</sup>
標準断面図	各公益事業者毎の収容物件の条数を明記する。	
備考		

共同設計詳細設計図書 ( その 2 )

7. 仕様NO.	NO.		プロック ( 標特換 )		NO.		プロック ( 標特換 )		I =		m	
	コンクリート (Q)	鉄筋 (R)	㎡	kg	コンクリート (Q)	鉄筋 (R)	㎡	kg	コンクリート (Q)	鉄筋 (R)	㎡	kg
躯体材料	R / Q	kg/㎡	kg/㎡	㎡	R / Q	kg/㎡	kg/㎡	㎡	型枠 (F)	型枠 (F)	㎡	㎡
	部材厚	cm	cm	本/m	部材厚	cm	cm	本/m	使用鉄筋	使用鉄筋	D -	本/m
上床版	Mmax =	tfm	N =	tf (τmax)	Mmax =	tfm	N =	tf			S =	tf (τmax)
①	σc =	kgf/cm <sup>2</sup>	σs =	kgf/cm <sup>2</sup>	σc =	kgf/cm <sup>2</sup>	σs =	kgf/cm <sup>2</sup>			τmax =	kgf/cm <sup>2</sup>
中床版	部材厚	cm	cm	本/m	部材厚	cm	cm	本/m	使用鉄筋	使用鉄筋	D -	本/m
②	Mmax =	tfm	N =	tf (τmax)	Mmax =	tfm	N =	tf			S =	tf (τmax)
	σc =	kgf/cm <sup>2</sup>	σs =	kgf/cm <sup>2</sup>	σc =	kgf/cm <sup>2</sup>	σs =	kgf/cm <sup>2</sup>			τmax =	kgf/cm <sup>2</sup>
下床版	部材厚	cm	cm	本/m	部材厚	cm	cm	本/m	使用鉄筋	使用鉄筋	D -	本/m
③	Mmax =	tfm	N =	tf (τmax)	Mmax =	tfm	N =	tf			S =	tf (τmax)
	σc =	kgf/cm <sup>2</sup>	σs =	kgf/cm <sup>2</sup>	σc =	kgf/cm <sup>2</sup>	σs =	kgf/cm <sup>2</sup>			τmax =	kgf/cm <sup>2</sup>
側壁	部材厚	cm	cm	本/m	部材厚	cm	cm	本/m	使用鉄筋	使用鉄筋	D -	本/m
④	Mmax =	tfm	N =	tf (τmax)	Mmax =	tfm	N =	tf			S =	tf (τmax)
	σc =	kgf/cm <sup>2</sup>	σs =	kgf/cm <sup>2</sup>	σc =	kgf/cm <sup>2</sup>	σs =	kgf/cm <sup>2</sup>			τmax =	kgf/cm <sup>2</sup>
中壁	部材厚	cm	cm	本/m	部材厚	cm	cm	本/m	使用鉄筋	使用鉄筋	D -	本/m
⑤	Mmax =	tfm	N =	tf (τmax)	Mmax =	tfm	N =	tf			S =	tf (τmax)
	σc =	kgf/cm <sup>2</sup>	σs =	kgf/cm <sup>2</sup>	σc =	kgf/cm <sup>2</sup>	σs =	kgf/cm <sup>2</sup>			τmax =	kgf/cm <sup>2</sup>
概略図	単断面		①		複断面		①		④			
												

共同溝詳細設計図書 (その3)

ブロックNO.	ブロック (標準換)			ブロック (標準換)			ブロック (標準換)			m			
	NO.	巾	深さ	形状寸法	実応力度	許容応力度	有・無	巾	深さ		形状寸法	実応力度	許容応力度
規 模													
部材名													
器工受けた													
け受け													
腹起し													
切ばり													
腹起し													
切ばり													
腹起し													
切ばり													
腹起し													
切ばり													
山留め													
根入長の決定	鉤合、ヒールリング、ボイリリング、支持力	根入れ長	m	鉤合、ヒールリング、ボイリリング、支持力	根入れ長	m	鉤合、ヒールリング、ボイリリング、支持力	根入れ長	m	鉤合、ヒールリング、ボイリリング、支持力	根入れ長	m	
中間杭	形状寸法×長さ	形状寸法×長さ		形状寸法×長さ	形状寸法×長さ		形状寸法×長さ	形状寸法×長さ		形状寸法×長さ	形状寸法×長さ		
切 梁	ア レ ロ	ド の 有 無	有 ・ 無	切 梁	ア レ ロ	ド の 有 無	有 ・ 無	切 梁	ア レ ロ	ド の 有 無	有 ・ 無	有 ・ 無	

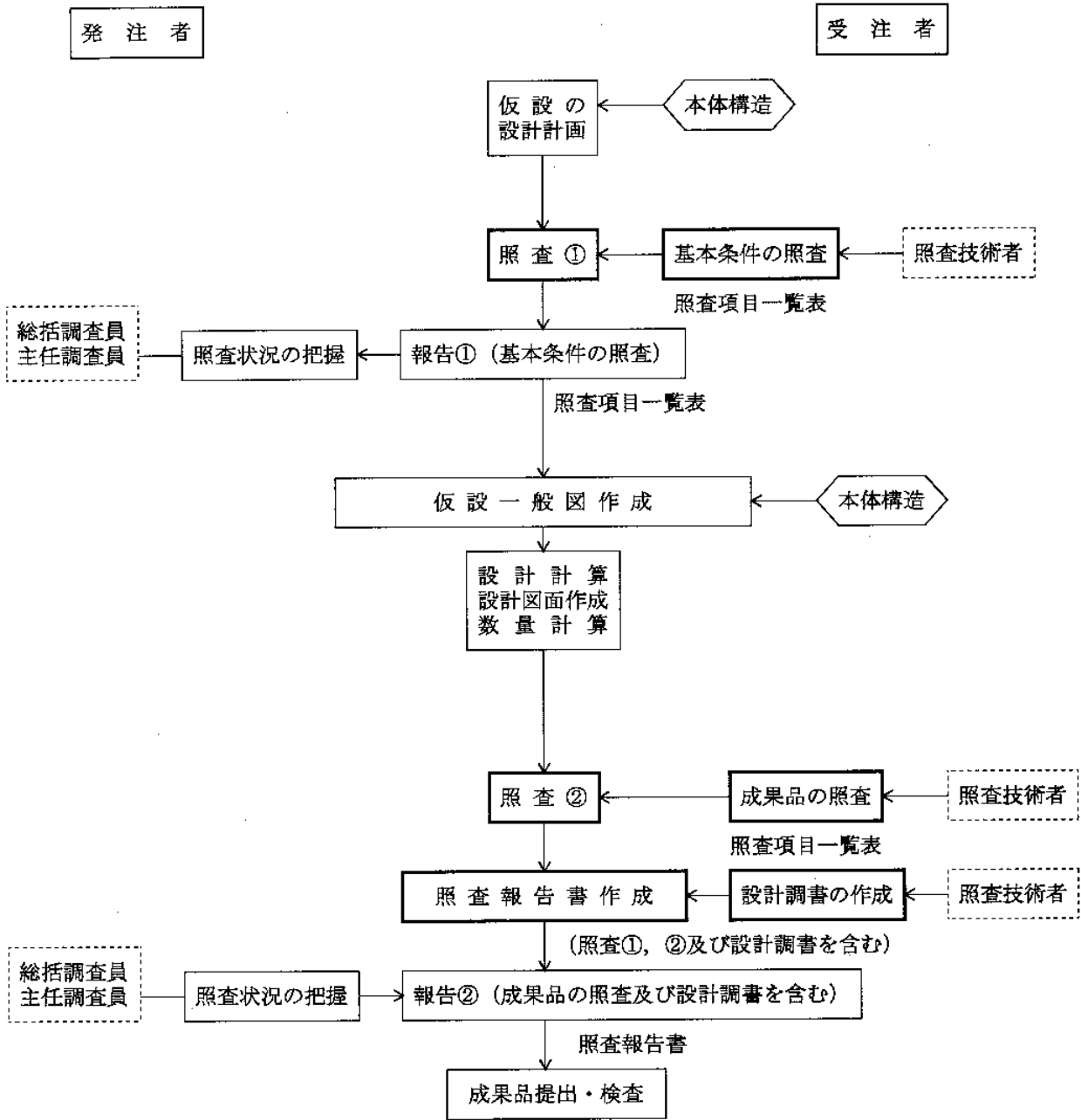
仮設構造物詳細設計照査要領

平成10年4月





# 仮設構造物詳細設計照査フローチャート



□ 受注者側が実施する照査関連事項



# 基本条件の照査項目一覧表 ( 照査 ① )

業務名： \_\_\_\_\_

発注者名： \_\_\_\_\_

受注者名： \_\_\_\_\_

照査の日付： 平成 \_\_\_\_ 年 \_\_\_\_ 月 \_\_\_\_ 日

受注者印	照査技術者	管理技術者

基本条件の照査項目一覧表

NO	項目	主要内容	提示資料	照査①		備考
				照査対象	照査	
1	設計の目的・主旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 設計目的・主旨は理解したか。</li> <li>2) 本体工との整合はとれているか。</li> </ul>	特記仕様書 業務計画書			
2	設計の範囲、内容、数量、履工期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 設計の範囲、内容、数量、履工期間は決定しているか。</li> <li>2) 適用工法は、土留工・支保工（腹起し、切ばり）、締切工、踏面履工および仮橋工に該当するか。</li> <li>3) 隣接工区との関係を確認したか。</li> </ul>	特記仕様書			
3	現地踏査	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 地形状況を把握したか。 （おぼれ谷、旧河道、水路等）</li> <li>2) 沿道状況を把握したか。（家屋連坦、迂回路、道路幅員等）</li> <li>3) 交通状況を把握したか。（交通量、車輛規制等）</li> <li>4) 周辺構造物との関係を把握したか。 （近接構造物との関係、影響度等）</li> <li>5) 環境状況（騒音、振動等の配慮）を把握したか。</li> <li>6) 埋設物（ガス、水道、ケーブル等）を把握したか。</li> <li>7) ボーリング図は適正か。（近接工区との関連性等）</li> <li>8) ボーリングの追加は必要ないか。</li> <li>9) 地質状況を把握したか。（季別地下水位、地下水利用状況、被圧の有無）</li> </ul>	現場写真他			
4	設計基本条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 設計基準に準じているか。また、その適用範囲内か。 （道路土工一仮設構造物工指針等）</li> <li>2) 工法比較検討は適正か。</li> </ul>				

基本条件の照査項目一覧表

NO	項目	主な内容	提示資料	照査①		備考
				照査対象	照査	
5	施工上の基本条件	<p>3) 土質定数は適正か。 (単位体積重量, 内部摩擦角, 粘着力, 透水係数等)</p> <p>4) 設計荷重は適正か。 (死荷重, 活荷重, 特殊荷重, 土圧等)</p> <p>5) 使用材料, 材質, 強度等の確認を行ったか。(生材, リース材等)</p> <p>6) 地震時を考慮するか。</p> <p>7) 対象水位は適切か。</p> <p>8) 施工基面を確認したか。</p> <p>1) 本体工との離れ等の関係は適正か。</p> <p>2) 運搬路, 迂回路は適切か。</p> <p>3) 施工時の用地占有及び近接状況の確認がなされているか。</p> <p>4) 工事時期と工程が明確になっているか。</p> <p>5) 覆工の必要性の検討はなされているか。</p> <p>6) 近接構造物等への影響を考慮する必要があるか。</p> <p>7) 一般交通の安全性は考慮されているか。</p> <p>8) 歩行者の通路は確保されているか。</p> <p>9) 防音対策は必要ないか。</p>				
6	関連機関との調整		関連機関との協議書			

基本条件の照査項目一覧表

NO	項目	主 な 内 容	提示資料	照 査 ①		備 考
				照 査 対 象	照 査	
7	貸与資料	1) 必要な貸与資料があるか。 (地質調査報告書, 埋設物台帳, 河川の場合の水位・流量等の記録等)				

(追加項目記入表)

基本条件の照査項目一覧表

NO	項目	主な内容	提示資料	照査①		備考
				該当対象	照査	

# 成果品の照査項目一覧表 ( 照査 ② )

業務名： \_\_\_\_\_

発注者名： \_\_\_\_\_

受注者名： \_\_\_\_\_

照査の日付： 平成 年 月 日

受注者印	照査技術者	管理技術者



成果品の照査項目一覧表

NO	項目	主な内容	提示資料	照査②		備考
				該当対象	照査	
1	仮設工法の選定	<p>1) 経済性, 施工性, 安全性, 及び周辺環境の面から総合的に工法の比較選定が行われているか。</p> <p>2) 沿道条件, 交通処理方法を考慮しているか。</p> <p>3) 既設構造物への影響を考慮しているか。</p> <p>4) 隣接工区と整合はとれているか。</p> <p>5) 地盤改良の必要性の検討はなされているか。</p> <p>6) 岩盤の場合の根入れの検討はなされているか。</p> <p>7) 使用する仮設材は市場性を考慮しているか。</p> <p>8) 覆工の計画は適切か。</p> <p>9) 工事用動力, 仮設備ヤードは検討されているか。</p> <p>10) 仮締切の流水保護対策の検討はなされているか。</p> <p>11) 緊張材の経済比較は行ったか。</p> <p>12) 仮排水路 (樋管) の断面決定根拠は妥当か。</p> <p>13) 仮締切設置後の本川の流下能力は考慮されているか。</p>	設計報告書 (本体工, 仮設工)			
2	設計計算書	<p>1) 打合せ事項は反映されているか。</p> <p>2) 設計上の条件設定は整理されているか。 (地質条件, 土質条件, 荷重条件, 水位, 計算方法, 隣接工区との条件の整合等)</p> <p>3) 計算位置は適正か。</p> <p>4) 設計項目は充分か。 ① 根入れ及び掘削底面の安定 (つり合い深さ, 支持, ボーリング, ヒービング, 円弧すべり, 盤ぶくれ等) ② 土留, 支保工, 中間坑 (応力, 変位量等) ③ 覆工 (応力, たわみ量等)</p>	設計計算書 打合せ簿			

成果品の照査項目一覧表

NO	項目	主な内容	提示資料	照査②		備考
				照査対象	照査	
3	設計図	<p>5) 指定された規定を満足しているか。 (「建設工事公衆災害防止対策要綱」等)</p> <p>6) 設計結果は許容範囲内か。 (許容応力度, 変位量等)</p> <p>7) 施工上の配慮がなされているか。 (本体工との離れ, 本体工の施工順序との関係, 施工足場, 撤去, 盛替, 水替等)</p> <p>1) 本体工と整合はとれているか。</p> <p>2) 設計計算書の結果が正しく図面に反映されているか。 (特に応力計算, 安定計算等の結果が適用範囲も含めて整合されているか)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・壁厚</li> <li>・鉄筋 (径, ピッチ, 使用材料, ラップ位置, ラップ長, 主鉄筋の定着長, ガス圧接位置)</li> <li>・鋼材形状, 寸法</li> <li>・使用材料</li> <li>・その他</li> </ul> <p>3) 各設計図がお互いに整合がとれているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般平面図と縦横断面図</li> <li>・構造図と配筋図</li> <li>・構造図と仮設図</li> </ul> <p>4) 部材長の決め方は適正か。 (土留材 0.5m単位で切り上げ等)</p>				

成果品の照査項目一覧表

NO	項目	主な内容	提示資料	照査②		備考
				照査対象	照査	
4	数量計算書	1) 数量計算書は、数量算出票領及びび打合せ事項と整合しているか。 2) 数量計算に用いた数値は、設計図面と一致しているか。 3) 数量総括表が正しく整理されているか。	数量計算書 打合せ簿			
5	設計調書	1) 調書の記入は適正になされているか。	設計調書			

成果品の照査項目一覧表

(追加項目記入表)

NO	項 目	主 な 内 容	提示資料	照 査 ②		備 考
				該 当 対 象	照 査	

# 設計調書（土留工・支保工）（1/6）

業務名			
構造物名		受注者名	
所在地		照査管理者	
施工箇所		管理技術者	
事務所名		作成年月日	

[設計調書は、類似構造物（同条件、同タイプ）のうち代表的なものについて記入する。]

構造物名	代表名	類似構造物																																																								
(断面図)		(ボーリング図)																																																								
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>層厚</th> <th>N</th> <th>r</th> <th>c</th> <th>φ</th> <th>種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>I</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>II</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>III</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>IV</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>V</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>VI</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>VII</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	区分	層厚	N	r	c	φ	種類	I							II							III							IV							V							VI							VII						
区分	層厚	N	r	c	φ	種類																																																				
I																																																										
II																																																										
III																																																										
IV																																																										
V																																																										
VI																																																										
VII																																																										
		<p>(注) 1. 土の種類は次のとおり。</p> <p style="margin-left: 20px;">① 砂質土</p> <p style="margin-left: 20px;">② 粘性土 <math>N &gt; 5</math></p> <p style="margin-left: 20px;">③ 粘正土 <math>N \leq 5</math></p> <p>2. ボーリング図の出典を記入すること。</p> <p>3. 水位を明示すること。</p> <p>4. 設計地盤面を明示すること。</p>																																																								
		(平面図)																																																								

## 設計調書（土留工・支保工）（2/6）

項 目			設 計 結 果		備 考
			計 算 値	使 用 値	
土 留 工	親 杭 方 式	土 留 杭	根 入 長 <sup>*1</sup>		<sup>*1</sup> 1.5m以上（岩盤の場合別途） <sup>*2</sup> H-300以上  <sup>*3</sup> 3.0cm以上  <sup>*4</sup> Ⅲ型以上  <sup>*5</sup> 30cm以内
			断 面 寸 法 <sup>*2</sup>		
			応 力 度		
			支 持 力		
			最 大 変 位		
	土 留 板	断 面 寸 法 <sup>*3</sup>			
		応 力 度			
	鋼 矢 板 方 式		根 入 長		
			断 面 寸 法 <sup>*4</sup>		
			応 力 度		
最 大 変 位 <sup>*5</sup>					
支 保 工	腹 起 し 段 目	間 隔 <sup>*6</sup>		<sup>*6</sup> 垂直3.0m程度以下、頂部より1m程度以内  <sup>*7</sup> H-300以上  <sup>*8</sup> 水平5.0m以下、垂直3.0m程度以下  <sup>*9</sup> H-300以上  (注 <sup>1</sup> ): 次の計算ケースより決定されたものを選ぶ。 (a) 掘削完了時 (b) 最下段切ばり設置直前 (c) 撤去時 (d) 盛替時  (注 <sup>2</sup> ): 次の計算ケースより決定されたものを選ぶ。 (a) (つりあい深さ) × 1.2以上 (b) ボイリングに対する必要長 (c) ヒーピングに対する必要長 (d) 3.0m以上  (注 <sup>3</sup> ): 「建設工事公衆災害防止対策要綱」による。	
		断 面 寸 法 <sup>*7</sup>			
		応 力 度 及 び 安 全 度			
	切 は 段 目	間 隔 <sup>*8</sup>			
		断 面 寸 法 <sup>*9</sup>			
		応 力 度 及 び 安 全 度			
	火 打 ち	断 面 寸 法			
		応 力 度			
	中 間 杭	間 隔			
		断 面 寸 法			
特 記 事 項					

# 設計調書（締切工）（3/6）

業務名			
構造物名		受注者名	
所在地		照査管理者	
施工箇所		管理技術者	
事務所名		作成年月日	

[設計調書は、類似構造物（同条件、同タイプ）のうち代表的なものについて記入する。]

構造物名	代表名	類似構造物																																																								
(断面図)		(ボーリング図)																																																								
		<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>層厚</th> <th>N</th> <th>r</th> <th>c</th> <th>φ</th> <th>種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>I</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>II</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>III</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>IV</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>V</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>VI</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>VII</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	区分	層厚	N	r	c	φ	種類	I							II							III							IV							V							VI							VII						
区分	層厚	N	r	c	φ	種類																																																				
I																																																										
II																																																										
III																																																										
IV																																																										
V																																																										
VI																																																										
VII																																																										
		(平面図)																																																								
		<p>(注) 1. 土の種類は次のとおり。</p> <p style="margin-left: 20px;">① 砂質土</p> <p style="margin-left: 20px;">② 粘性土 <math>N &gt; 5</math></p> <p style="margin-left: 20px;">③ 粘正土 <math>N \leq 5</math></p> <p>2. ボーリング図の出典を記入すること。</p> <p>3. 水位を明示すること。</p> <p>4. 設計地盤面を明示すること。</p>																																																								

## 設計調書（縮切工）（4/6）

項 目		設 計 結 果		備 考			
		計 算 値	使 用 値				
縮切工	自立式	チャンネルの式	根 入 長 <sup>*1</sup>		* <sup>1</sup> 仮想地盤面+3/β又は2.5/β * <sup>2</sup> Ⅱ型以上 * <sup>3</sup> 自立高の3%以内		
			断 面 寸 法 <sup>*2</sup>				
			応 力 度				
			最 大 変 位 <sup>*3</sup>				
	方 式	モーメント釣合法	根 入 長 <sup>*4</sup>		* <sup>4</sup> （つりあい深さ）×1.2以上 * <sup>5</sup> Ⅱ型以上 * <sup>6</sup> 自立高の3%以内		
			断 面 寸 法 <sup>*5</sup>				
			応 力 度				
			最 大 変 位 <sup>*6</sup>				
	重縮切工	二幅	縮	セン断変形破壊			
			切	滑 動			
			幅	基礎地盤の支持			
		縮板	鋼 矢	根 入 長 <sup>*7</sup>			* <sup>7</sup> 受動モーメント=安全性×主働モーメント
				断 面 寸 法 <sup>*8</sup>			* <sup>8</sup> Ⅲ型以上
		方 式	引張材	間 隔			* <sup>9</sup> 最小28mm
材 質							
断 面 寸 法 <sup>*9</sup>							
応 力 度							
腹起材		材	断 面 寸 法				
	応 力 度						
特 記 事 項							



## 設計調書（路面覆工・仮橋工）（5/6）

業務名			
構造物名		受注者名	
所在地		照査管理者	
施工箇所		管理技術者	
事務所名		作成年月日	

[設計調書は、類似構造物（同条件、同タイプ）のうち代表的なものについて記入する。]

構造物名	代表名	類似構造物																																																								
(断面図)	(ボーリング図)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>層厚</th> <th>N</th> <th>r</th> <th>c</th> <th>φ</th> <th>種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>I</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>II</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>III</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>IV</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>V</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>VI</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>VII</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 土の種類は次のとおり。            ① 砂質土            ② 粘性土 <math>N &gt; 5</math>            ③ 粘正土 <math>N \leq 5</math>            2. ボーリング図の出典を記入すること。            3. 水位を明示すること。            4. 設計地盤面を明示すること。</p>	区分	層厚	N	r	c	φ	種類	I							II							III							IV							V							VI							VII						
区分	層厚	N	r	c	φ	種類																																																				
I																																																										
II																																																										
III																																																										
IV																																																										
V																																																										
VI																																																										
VII																																																										
	(平面図)																																																									

## 設計調書（路面覆工・仮橋工）（6/6）

項 目		設 計 結 果		備 考	
		計 算 値	使 用 値		
路面覆工	設計荷重（対象車輛）				* <sup>1</sup> $Q/400$ （ $Q$ は支間）以下，2.5cm以下
	覆工板寸法				
	受	断面寸法			
		応力度			
		たわみ* <sup>1</sup>			
	桁受け	断面寸法			
		応力度			
	支持杭	断面寸法			
		応力度			
		支持力			
仮橋工	設計荷重（対象車輛）				* <sup>2</sup> $Q/400$ （ $Q$ は支間）以下，2.5cm以下
	幅 員				
	支 間				
	覆工板寸法				
	主 桁	断面寸法			
		応力度			
		たわみ* <sup>2</sup>			
	横 桁	断面寸法			
		応力度			
	橋 脚	断面寸法			
応力度					
支持力					
特 記 事 項					